

令和4年度 ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

試掘調査

- 松原遺跡（第9次）
- 岡田遺跡（第39次）
- 大平A遺跡（第7次）
- 畠ノ原遺跡（第4次）
- 磯合古墳群（第7・8次）
- 内手遺跡（第4次）
- 大房地遺跡（第20次）
- 柴田遺跡（第6～9次）
- 向坪遺跡（第7次）
- 東中根清水遺跡（第6次）
- 小谷金遺跡（第1次）
- 君ヶ台遺跡（第15次）
- 雷土A遺跡（第1次）・外野開拓古墳群（第1次）
- 堀口遺跡（第39次）
- 津田若宮遺跡（第12～15次）
- 市毛遺跡（第9次）
- 上馬場遺跡（第8次）
- 地蔵根遺跡（第8次）
- 老ノ塚遺跡（第3次）・老ノ塚古墳群（第3次）
- 遠原遺跡（第6次）・遠原貝塚（第6次）
- 浅井内遺跡（第5次）

本調査

- 地蔵根遺跡（第7次）・勝倉台館跡（第3次）
- 高野富士山遺跡（第18・19次）
- 市毛遺跡（第6～8次）

2023



1 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡竈付近遺物出土状況（古墳時代後期）



2 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡竈付近出土遺物（古墳時代後期）

序 文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、那珂川河口部左岸の人口約16万人の街で、県都水戸市に隣接しています。標高30m前後の起伏の少ない平坦な台地で、台地を浸蝕して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には、肥沃な田畑や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約13kmの海岸線が続き、那珂川などの河川流域の台地上は、原始・古代から人々の生活の場として栄え、三百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡、装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け、市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように、ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方、毎年住宅等の開発行為が活発に行われており、やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るため、事前に確認調査等を実施しております。

今年度も、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し、市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり、それぞれの調査は小規模なものではありますが、毎年の調査の積み重ねにより、多くの成果を得ることができました。

最後になりますが、快く調査のご承諾をいただきました地権者様や、調査に参加されました皆様へ感謝申し上げますとともに、調査や本書の作成にご指導、ご協力を頂きました関係各位の皆様へ心から感謝申し上げます。

令和5年3月

ひたちなか市教育委員会
教育長 野 沢 恵 子

例言

- 1 本書は、令和4年度国費補助事業として、ひたちなか市教育委員会の委託を受けて、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、令和4年1月から12月にかけて実施された発掘調査についての報告であり、松原遺跡、岡田遺跡、大平A遺跡、畠ノ原遺跡、磯合古墳群、内手遺跡、大房地遺跡、柴田遺跡、向坪遺跡、東中根清水遺跡、小谷金遺跡、君ヶ台遺跡、雷土A遺跡、外野開拓古墳群、堀口遺跡、津田若宮遺跡、市毛遺跡、上馬場遺跡、地蔵根遺跡、老ノ塚遺跡、老ノ塚古墳群、遠原遺跡、遠原貝塚、浅井内遺跡の計24遺跡について、28件の試掘・確認調査を実施し、地蔵根遺跡、勝倉台館跡、高野富士山遺跡、市毛遺跡の計4遺跡について、6件の本調査を実施した。調査期間等は2～3頁一覧表のとおりである。
- 3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室の指導のもとに、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理事長	渡邊 政美	
副理事長	須藤 雅由	
常務理事	高田 晃一	
理事	雨澤 正 櫛田 眞 綱川 正 大和田 健 米川 央洋 湯浅 博人 白土 光伸	
監事	北原 裕二 安 智範	
文化課 文化財調査 事務所	課長	大川 英樹
	所長	佐々木 義則
	係長	稲田 健一
	主事	田中 美零
	嘱託	齋藤和佳子 西野 陽子

- 4 発掘調査の従事者は次の通りである。
調査員：田中美零、佐々木義則、稲田健一
調査補助員：青木千歌子、海老原四郎、荻 優樹、小貫栄子、海後晴美、中嶋順子、廣水一真、堀口智恵美、矢野徳也
- 5 整理作業及び本書の作成に従事したものは、次の通りである。
青木千歌子、稲田健一、小貫栄子、桐嶋美子、齋藤和佳子、佐々木義則、佐藤富美江、鈴鹿八重子、田中美零、西野陽子、矢野徳也
- 6 本書は佐々木義則が編集した。
- 7 本書の執筆と分担は以下のとおりである。
田中美零（弥生時代以前の遺物）、稲田健一（古墳時代の遺物）、矢野徳也（岩石同定）、佐々木義則（左記以外）
- 8 弥生時代以前の資料は常陸大宮市教育委員会の鈴木素行氏にご指導いただいた。
- 9 遺構の略号の意味は次の通りである。SK：土坑、P：ピット、SD：溝跡、K：攪乱、T：トレンチ
- 10 発掘調査の出土資料は、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。
- 11 本書の作成にあたっては、次の方々に御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50音順・敬称略）
雨澤光枝 石崎忠雄 石津裕大 市村祐貴 江橋誠司 尾形敏男 鹿志村勝広 樫村憲二 樫村仁子 樫村直哉 風間克彦 風間紗也香 株式会社アーバンハウジング 株式会社JWAY 川崎有康 川崎修平 川崎 嵩 川島知也 川又幸江 木村和希 木村秀弘 栗林広愛 栗林桃子 黒沢健斗 後藤商事株式会社 小船良子 権守美行 権守理恵 坂巻 学 品川広地 助川 誠 鈴木孝次 セイウン開発株式会社 高野 愛 高野宗良 土子裕一 照山久兵衛 飛田文好 飛田希弥 豊田 実 根本浩一郎 一建設株式会社水戸営業所 塙 淳子 塙 弘美 前嶋 聡 宮田佳織 宮田利之 宮田恵一 安 晃司 安 広次 安 三代 柳橋秋盛 柳橋裕次
- 12 事務局は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き、組織は次のとおりである。

総務課 文化財室	課長	佐藤 浩之
	文化財室長	宮下 直大
	主査	栗田 昌幸
	主任	森田 徹

目次

I	概要	1	(1) 第9次調査報告	27
			17 上馬場遺跡	28
			(1) 第8次調査報告	28
			18 地藏根遺跡	29
			(1) 第8次調査報告	29
			19 老ノ塚遺跡・老ノ塚古墳群	30
			(1) 老ノ塚遺跡第3次・老ノ塚古墳群第3次調査報告	30
			20 遠原遺跡・遠原貝塚	31
			(1) 遠原遺跡第6次・遠原貝塚第6次調査報告	31
			21 浅井内遺跡	32
			(1) 第5次調査報告	32
II	試掘調査報告	4	III 本調査報告	34
1	松原遺跡	4	1 地藏根遺跡第7次・勝倉台館跡第3次調査報告	34
	(1) 第9次調査報告	4	(1) 調査の経過	34
			(2) 住居跡	34
2	岡田遺跡	6	(3) 溝跡	34
	(1) 岡田遺跡第39次調査報告	6	2 高野富士山遺跡第18・19次調査報告	35
3	大平A遺跡	9	(1) 調査の経過	35
	(1) 第7次調査報告	9	(2) 第18次調査区	35
4	畠ノ原遺跡	9	(3) 第19次調査区	39
	(1) 第4次調査報告	9	3 市毛遺跡第6・7次調査報告	42
5	磯合古墳群	10	(1) 調査の経過	42
	(1) 第7次調査報告	10	(2) 第6次調査区	42
	(2) 第8次調査報告	10	(3) 第7次調査区	48
6	内手遺跡	11	4 市毛遺跡第8次調査報告	49
	(1) 第4次調査報告	11	(1) 調査の経過	49
7	大房地遺跡	13	(2) 土坑	49
	(1) 第20次調査報告	13	(3) 焼土遺構	51
8	柴田遺跡	14	(4) ビット	51
	(1) 第6次調査報告	14		
	(2) 第7次調査報告	15		
	(3) 第8次調査報告	15		
	(4) 第9次調査報告	15		
9	向坪遺跡	16		
	(1) 第7次調査報告	16		
10	東中根清水遺跡	18		
	(1) 第6次調査報告	18		
11	小谷金遺跡	19		
	(1) 第1次調査報告	19		
12	君ヶ台遺跡	19		
	(1) 第15次調査報告	19		
13	雷土A遺跡・外野開拓古墳群	20		
	(1) 雷土A遺跡第1次・外野開拓古墳群第1次調査報告	20		
14	堀口遺跡	21		
	(1) 第39次調査報告	21		
15	津田若宮遺跡	24		
	(1) 第12次調査報告	24		
	(2) 第13次調査報告	25		
	(3) 第14次調査報告	25		
	(4) 第15次調査報告	26		
16	市毛遺跡	27		

I 概要

ひたちなか市は、茨城県の中央部に位置し、面積100.23km²、人口約16万人を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し、茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり、古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は、この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され、小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は、近世まで真崎浦という入り江であったが、現在は広く水田化され、東海村との境となっている。

現在市内には、約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み、周知遺跡内

における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり、そうした事態に対応すべく、昭和54(1979)年から、国・県の補助を受け、市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり、市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で、その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から、市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社(現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)に委託されるようになり、公社が主体となり実施されるようになった。

令和4年は、24カ所の遺跡において試掘調査28件、4カ所の遺跡において本調査6件が実施され、高野富士山遺跡における古墳時代住居跡や、市毛遺跡における平安時代土坑等の成果を得ている。



第1図 調査遺跡の位置

第1表 令和4年市内遺跡発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
1	じやうねいせき 地蔵根遺跡 かつらだいやかたあと 勝倉台館跡	7次 3次	勝倉字地蔵根 2779番9ほか	1月6～12日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	2㎡	4㎡	住居跡1基(時期不明)、 溝跡1条、ピット2基	土師器、須恵器、 かわらけ
2	まつばらいせき 松原遺跡	9次	田彦字松原782番 ほか	1月12～25日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	1,736㎡	195㎡	住居跡4基 (弥生1、古墳1、時期不明2)	縄文土器、土師器、 石器
3	おかだいせき 岡田遺跡	39次	三反田字八幡 3581番ほか	1月18日～ 2月1日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	1,270㎡	150㎡	住居跡6基(弥生～古墳)、 土坑3基、ピット4基	弥生土器、土師器、 陶磁器
4	おおだいらえいせき 大平A遺跡	7次	大平二丁目3433 番1116	1月25～29日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	340㎡	35㎡	なし	なし
5	ほたのほらいせき 晶ノ原遺跡	4次	金上字畑ケ原689 番16	2月1～9日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	901㎡	99㎡	住居跡5基(奈良・平安 4、時期不明1)、溝跡2条、 土坑2基、ピット24基	土師器、須恵器
6	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	18次	高野字富士山 1695番8	2月8日～ 3月1日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	27㎡	32㎡	住居跡2基(古墳1、 時期不明1)、土坑1基、 ピット16基	土師器
7	こうやふじやまいせき 高野富士山遺跡	19次	高野字富士山 1695番9	2月8日～ 3月1日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	2㎡	18㎡	住居跡2基 (古墳1、時期不明1) ピット7基	土師器、須恵器
8	いそあいこふんぐん 磯合古墳群	7次	磯崎町字磯崎東ノ 一4483番2	2月15～27日	建売住宅	試掘	田中 佐々木	1,188㎡	111㎡	古墳2基	なし
9	うちでいせき 内手遺跡	4次	三反田字天神前 3371番1ほか	3月3～15日	倉庫	試掘	田中 佐々木	3,209㎡	288㎡	住居跡3基(平安1、時期 不明2)、溝跡3条、 土坑1基、ピット8基	土師器、須恵器
10	おおぼうちいせき 大房地遺跡	20次	勝倉字大房地 2654番1	3月15～19日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	321㎡	42㎡	溝跡2条	縄文土器、煙管
11	しばたいせき 柴田遺跡	6次	中根字柴田5190 番3ほか	4月12～13日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	512㎡	13㎡	住居跡1基(縄文)、 土坑1基(縄文)	縄文土器
12	いちげいせき 市毛遺跡	6次	市毛字上坪1110 番3ほか	4月13日～ 5月11日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	63㎡	54㎡	住居跡3基(奈良1、 平安1、時期不明1)、 土坑5基(平安)	縄文土器、土師器、 須恵器、鉄製品、 石器
13	いちげいせき 市毛遺跡	7次	市毛字上坪1110 番9	4月13日～ 5月12日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	60㎡	41㎡	住居跡1基(古墳)	土師器、須恵器
14	むかいつばいせき 向坪遺跡	7次	堀口字向坪642番 1ほか	5月10～19日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	899㎡	143㎡	住居跡7基(古墳～奈良 頃)、溝跡1条、 ピット1基	弥生土器、土師器、 須恵器
15	ひがしなかわしみずいせき 東中根清水遺跡	6次	中根字中内6200 番3	5月17日～25日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	395㎡	31㎡	なし	なし
16	いそあいこふんぐん 磯合古墳群	8次	磯崎町字磯崎東ノ 一4504番1	5月19日～24日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	290㎡	28㎡	溝2条	なし
17	こやがねいせき 小谷金遺跡	1次	小谷金11060番4 ほか	5月24日～25日	道路拡幅	試掘	田中 佐々木	200㎡	10㎡	なし	なし
18	しばたいせき 柴田遺跡	7次	中根字柴田5192 番6ほか	6月7～8日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	300㎡	27㎡	なし	なし
19	しばたいせき 柴田遺跡	8次	中根字柴田5190 番8ほか	6月21～23日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	300㎡	27㎡	ピット1基	なし
20	きみがだいいせき 君ヶ台遺跡	15次	中根字君ヶ台 2128番2	7月5～8日	通信局舎	試掘	田中 佐々木	397㎡	28㎡	なし	縄文土器、石器

No.	遺跡名	調査 回数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
21	いちげいせき 市毛遺跡	8次	市毛字上坪 1110 番 8	7月7日～ 8月3日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	70 m ²	48 m ²	土坑 2 基 (近世), 焼土遺 構 1 基, ビット 1 基 (近世)	土師器, 須恵器, 近世土器, 磁器, 銅銭, 銅製品, 石硯
22	しばたせき 柴田遺跡	9次	中根字柴田 5190 番 5 ほか	7月12～20日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	321 m ²	37 m ²	なし	なし
23	いかづちえいせき 雷土 A 遺跡 そとのかいたくこふんぐん 外野開拓古墳群	1次 1次	東石川字雷 3529 番 25	7月27～31日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	505 m ²	33 m ²	土坑 1 基	縄文土器
24	ほりぐちいせき 堀口遺跡	39次	堀口字塙坪 12 番 1 ほか	8月2日～6日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	3,209 m ²	28 m ²	住居跡 4 基 (古墳 2, 時期 不明 2), 土坑 3 基, ビット 13 基	弥生土器, 土師器, 須恵器, 陶器
25	つだわかみやいせき 津田若宮遺跡	12次	津田字若宮 3489 番 1	8月16日～24日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	378 m ²	32 m ²	住居跡 4 基 (弥生以前 2, 古墳 1, 時期不明 1)	縄文土器, 弥生土器, 土師器
26	つだわかみやいせき 津田若宮遺跡	13次	津田字若宮 3464 番 3	8月16日～23日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	441 m ²	54 m ²	住居跡 2 基 (時期不明), 溝跡 1 条, ビット 1 基	なし
27	いちげいせき 市毛遺跡	9次	市毛字上坪 622 番 1	8月30日～ 9月4日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	700 m ²	74 m ²	住居跡 1 基 (時期不明), 土坑 1 基	土師器, 須恵器
28	かみぼりいせき 上馬場遺跡	8次	津田字塙台 3087 番 1	9月13日～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	447 m ²	39 m ²	住居跡 2 基 (古墳 1, 奈良 1)	土師器, 須恵器
29	じせうねいせき 地蔵根遺跡	8次	勝倉字地蔵根 2852 番	10月18～21日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	950 m ²	106 m ²	溝跡 1 条	なし
30	おいのづかいせき 老ノ塚遺跡 おいのづかいせき 老ノ塚古墳群	3次 3次	稲田字老ノ塚 633 番 5	10月25日～ 11月1日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	1,746 m ²	244 m ²	なし	なし
31	つだわかみやいせき 津田若宮遺跡	14次	津田字若宮 3489 番 4	11月16～18日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	378 m ²	41 m ²	住居跡 1 基 (縄文), 溝跡 1 条, ビット 13 基	縄文土器, 土師器, 石器
32	つだわかみやいせき 津田若宮遺跡	15次	津田字若宮 3489 番 3	11月16～18日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	378 m ²	35 m ²	住居跡 1 基 (縄文), 溝跡 1 条	縄文土器, 土師器
33	とろばらいせき 遠原遺跡 とろばらいせき 遠原貝塚	6次 6次	金上字大平 1219 番 1	12月6～8日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	422 m ²	52 m ²	住居跡 8 基 (弥生 2, 古墳 5, 時期不明 1)	縄文土器, 弥生土器, 土師器
34	あさいないせき 浅井内遺跡	5次	浅井内 13080 番 2 ほか	12月13～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	448 m ²	47 m ²	溝跡 2 条	なし

II 試掘調査報告

1 松原遺跡

(1) 第9次調査報告

調査地は、中丸川低地から100mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。



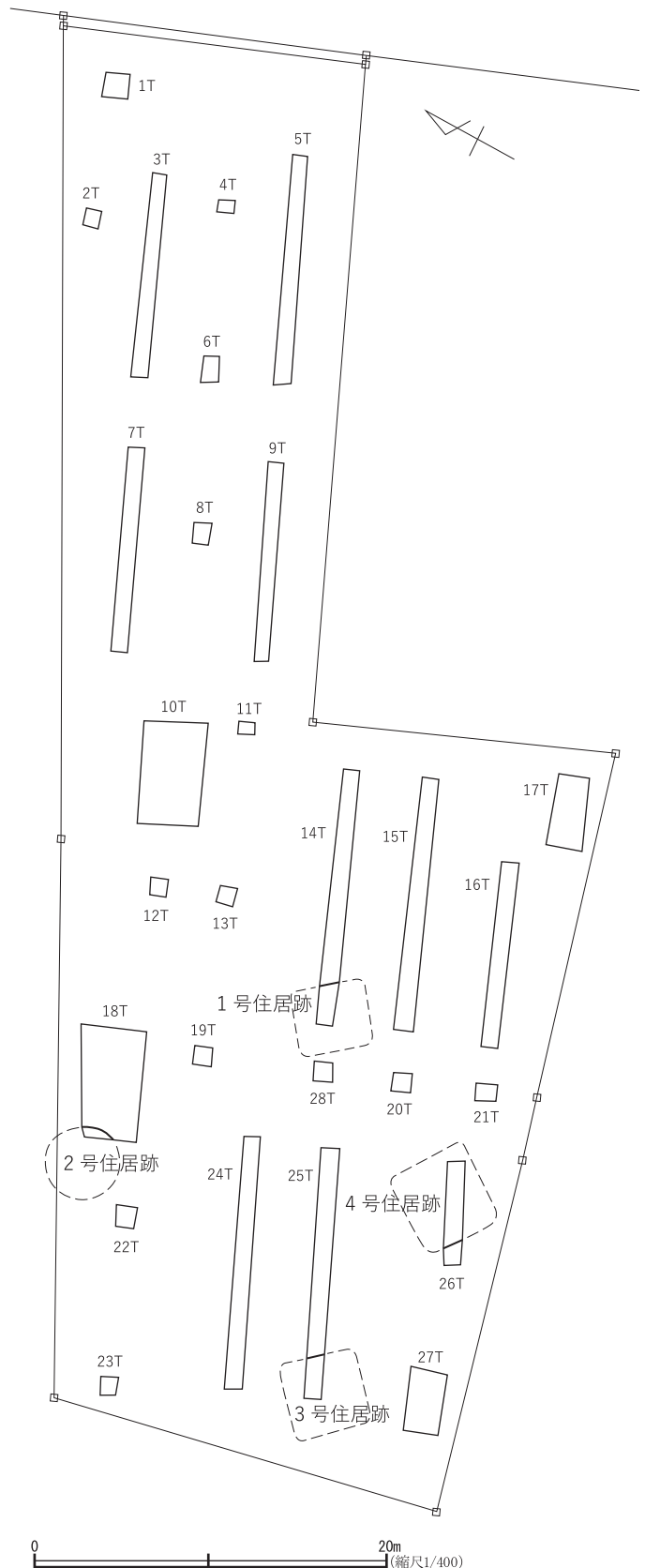
第2図 松原遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第2表 松原遺跡調査一覧

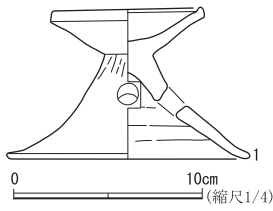
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1998	市教委	試掘	なし	1
2	2001	市教委	試掘	なし	2
3	2008	公社	試掘	住居5 (古墳前期1, 時期不明4), 土坑1 (時期不明), ビット1 (時期不明), 溝2 (時期不明), 不明遺構1 (時期不明)	3
4	2009	調査会	本調査	住居5 (古墳前期5), 溝2 (時期不明),	4
5	2015	公社	試掘	住居1 (古墳), 井戸1 (時期不明)	5
6	2018	公社	試掘	なし	6
7	2019	公社	試掘	住居4 (古墳), 土坑1	7
8	2020	公社	試掘	なし	8

文献

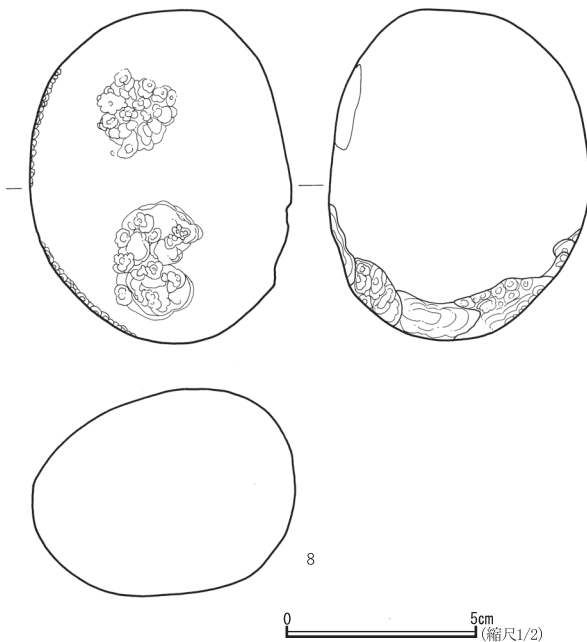
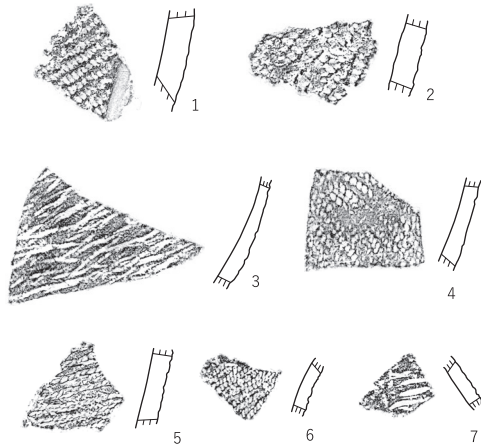
- 平成10年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成13年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 君ヶ台遺跡(第7次), 松原遺跡(第4次), 相対古墳群(第2次), 東原遺跡(第3・4次)
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第3図 松原遺跡第9次調査区



第4図 松原遺跡第9次調査区出土遺物(1)



第5図 松原遺跡第9次調査区出土遺物(2)

査は28か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。

調査の結果、住居跡4基が確認された。出土遺物から1号住居跡の時期は古墳時代前期頃、2号住居跡は弥生時代と考えられる。3・4号住居跡は出土遺物がないため時期不明である。調査区からは縄文土器・土師器・石器が出土している。

遺物説明

第4図

1 台帳：1住P1、14トレ1住 材質：土師器 器種：小型器台 残存：

80% 法量：口径7.9、器高7.9、底径12.8 色調：外面橙～暗赤褐色。内面杯部橙～赤灰色、脚部橙色。胎土：礫（白少）、砂（白多、透多、黒少） 焼成：良 技法等：外面ヘラミガキ？ 内面杯部？、脚部ヨコナデ・ナデ。使用痕：— 備考：内外面とも器面が非常に摩滅している。

第5図

1 出土位置・注記：25トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文（LR）、沈線文 備考：器内面磨き

2 出土位置・注記：25トレ 時代時期：縄文時代前期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎土に金雲母・繊維を含む

3 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器 文様：付加条縄文（R-S） 備考：器外面炭化物付着

4 出土位置・注記：14トレ 時代時期：弥生時代後期カ 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（LR+2R）カ 備考：器内面にヘラ状工具の調整痕あり

5 出土位置・注記：18トレ2住 時代時期：弥生時代後期カ 器種：大型壺形土器カ 文様：付加条縄文（LR+2R）カ 備考：器外面炭化物付着

6 出土位置・注記：18トレ2住 時代時期：弥生時代中期カ 器種：不明 文様：沈線文

7 出土位置・注記：25トレ 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：付加条縄文（LR+2R）カ 備考：器外面炭化物付着、器内面磨き

8 出土位置・注記：5トレ 時代時期：弥生時代カ 器種：敲石 石材：アルコース質粗粒砂岩 法量：長さ88mm、幅69mm、高さ54mm、重さ444g

第3表 岡田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1983	勝田市教委	本調査	住居3(十王台1, 古墳後期2)	2
3	1985	勝田市教委	試掘	住居2(古墳後期1, 不明1)	3
4	1990	勝田市教委	本調査	住居3(8世紀1, 9世紀1, 不明1), 竪穴遺構1	4
5	1991	勝田市教委	試掘	なし	なし
6	1997	市教委	本調査	住居5(十王台1, 古墳後期1, 8世紀2, 9世紀1)	5
7	2003	市教委	試掘	なし	6
8	2005	市教委	試掘	なし	7
9	2006	市教委	試掘	なし	なし
10	2006	市教委	試掘	住居2(時期不明)	8
11	2006	市教委	試掘	なし	8
12	2006	市教委	本調査	住居1(十王台)	8
13	2006	市教委	試掘	なし	8
14	2006	市教委	試掘	住居(時期不明)	なし
15	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
16	2007	市教委	本調査	住居1(古墳後期), 溝1	9
17	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
18	2010	公社	試掘	住居2(十王台1, 時期不明1)	10
19	2011	公社	試掘	住居6(十王台4, 古墳前期1, 時期不明1)	11
20	2012	公社	試掘	住居1(時期不明)	12
21	2012	公社	試掘	住居2(古墳後期1, 時期不明1), 溝1	12
22	2012	公社	試掘	土坑2, ビット9	12
23	2012	公社	試掘	住居6(奈良・平安4, 時期不明2), 土坑2, ビット4	12
24	2013	公社	試掘	住居1(奈良・平安)	13
25	2015	公社	試掘	住居1(古墳), ビット1	14
26	2015	公社	試掘	住居5(弥生1, 古墳1, 平安1, 時期不明2), ビット1(奈良・平安)	14
27	2015	公社	試掘	住居1(古墳), 土坑1	14
28	2015	公社	本調査	住居5基(弥生1, 古墳1, 平安3), 土坑2(平安1, 時期不明1), 溝1	15
29	2016	公社	試掘	なし	15
30	2017	公社	試掘	なし	16
31	2017	公社	試掘	溝1	17
32	2017	公社	試掘	なし	17
33	2017	公社	試掘	住居4(弥生2, 時期不明2), 土坑2	17
34	2017	公社	試掘	住居6(奈良・平安), 溝1, 土坑1	17
35	2018	公社	本調査	住居2(古墳1, 平安1)	18
36	2018	公社	本調査	溝1	18
37	2020	公社	試掘	なし	19
38	2020	公社	試掘	なし	19

2 岡田遺跡

(1) 第39次調査報告

調査地は、那珂川低地から北東へ入り込む谷奥部の台地縁辺から50mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は17か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.9mを測る。

調査の結果、住居跡6基、土坑跡3基、ピット4基が確認された。弥生土器や土師器が出土していることから、住居跡の時期は弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものと考えられる。土坑跡は出土遺物が少ないため、時期不明である。調査区からは陶磁器が出土している。

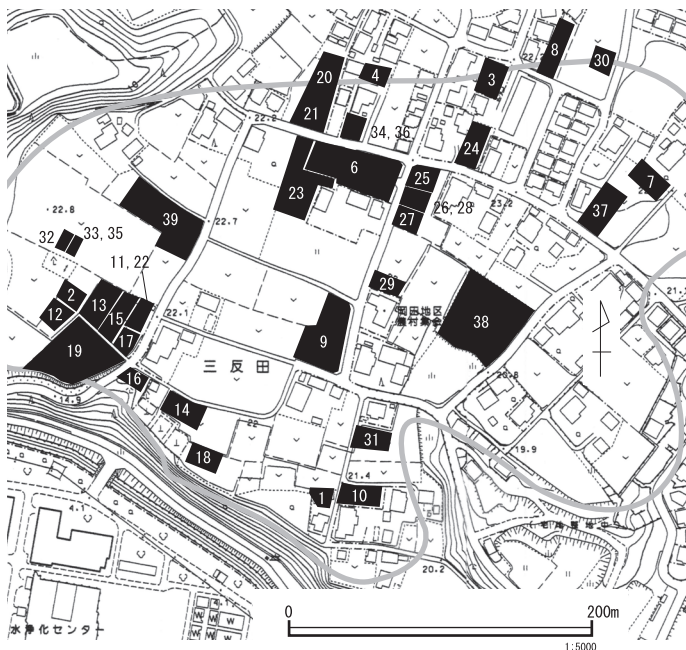
遺物説明

第8図

1 出土位置：3トレンチ2住 材質：土師器 器種：大型管状土錘 残存：大きく欠失 法量：長6.2, 幅4.6, 最小孔径1.6, 重量138.1g 色調：褐色, 暗褐色 胎土：礫(暗灰少, 白少), 砂(白多, 赤少, 白透少)
特徴：表面に指頭圧痕残る。側面の一部がやや摩滅する(トーン部)。

第9図

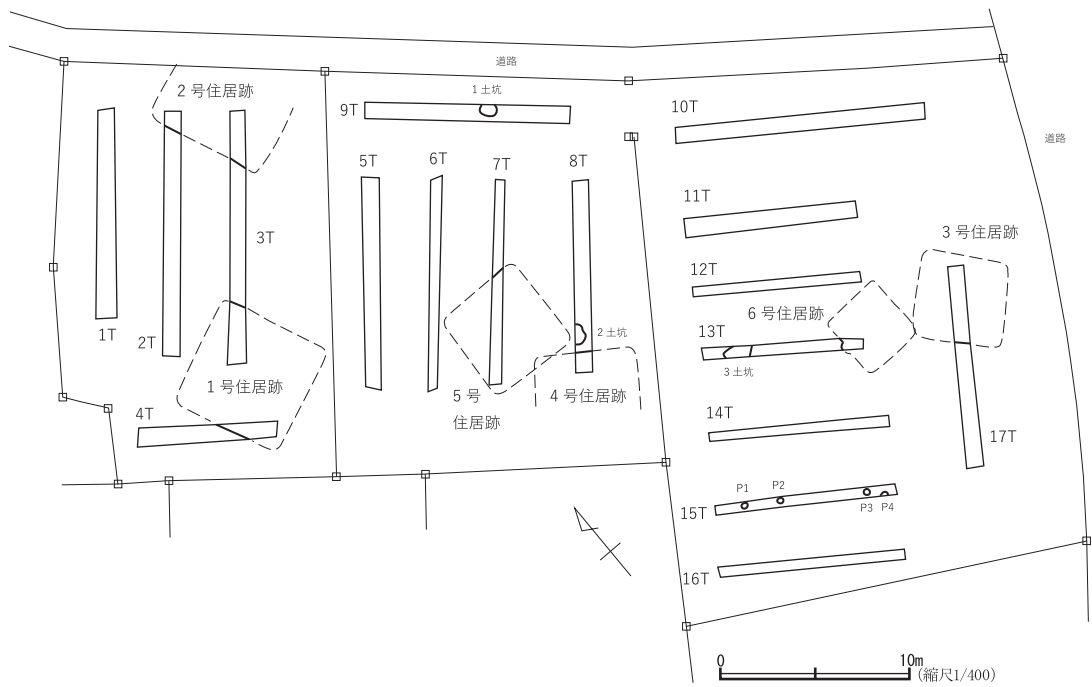
1 出土位置・注記：6トレ 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：



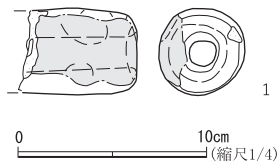
第6図 岡田遺跡の調査地点(数字は調査回数)

文献

- | | | |
|--------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書 | 8 平成18年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 2 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書 | 9 平成19年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 16 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 3 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書 | 10 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 17 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 4 平成元年度市内遺跡発掘調査報告書 | 11 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 18 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 5 岡田遺跡発掘調査報告書 | 12 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 19 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 6 平成15年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 13 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | |
| 7 平成17年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | |



第7図 岡田遺跡第39次調査区



第8図 岡田遺跡第39次調査区出土遺物(1)

大型壺形土器カ 文様：口唇部縄文カ、口縁部隆帯（指頭押圧） 備考：胎土に金雲母含む

2 出土位置・注記：14トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器 文様：口唇部刻み（へら状工具），口縁部櫛描文（櫛歯3本）

3 出土位置・注記：6トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：口唇部刻み（へら状工具），口縁部櫛描文（櫛歯3本）

4 出土位置・注記：7トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：
口縁部櫛描文（櫛歯7本カ）

5 出土位置・注記：17トレ3住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
文様：口唇部刻み（棒状工具），口縁部櫛描文（櫛歯3本）

6 出土位置・注記：3トレ2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
文様：口唇部縄文（付加条縄文L×Lカ），口縁部付加条縄文（L×L）

7 出土位置・注記：8トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
大型壺形土器 文様：隆帯2条以上（指頭押圧），付加条縄文（L×L）

8 出土位置・注記：4トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器 文様：隆帯1条（指頭押圧），櫛描文（櫛歯6本）

9 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
大型壺形土器カ 文様：櫛描文（櫛歯3本以上），隆帯2条，付加条縄文（L×L）

10 出土位置・注記：3トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：大型壺形土器カ 文様：隆帯（指頭押圧），櫛描文（櫛歯5本）

11 出土位置・注記：9トレ 時代時期：弥生時代後期カ 器種：壺形
土器カ 文様：隆帯2条（指頭押圧） 備考：器外面炭化物付着

12 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器
種：壺形土器 文様：櫛描文（櫛歯5本）

13 出土位置・注記：12トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器
種：壺形土器カ 文様：櫛描文（櫛歯4本） 備考：器内面変色

14 出土位置・注記：3トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：櫛描文（櫛歯5本）

15 出土位置・注記：8トレ4住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：大型壺形土器 文様：付加条縄文（R×L）

16 出土位置・注記：3トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：中型壺形土器カ 文様：付加条縄文（L×L，R×Rカ） 備考：
器内面一部変色

17 出土位置・注記：14トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器
種：大型壺形土器 文様：付加条縄文（R×R） 備考：胎土に金雲母含む

18 出土位置・注記：3トレ2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：大型壺形土器カ 文様：付加条縄文（R×R）

19 出土位置・注記：3トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：大型壺形土器カ 文様：付加条縄文（L-Z，R-S）

20 出土位置・注記：3トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：大型壺形土器カ 文様：付加条縄文（L-Z，R-S）

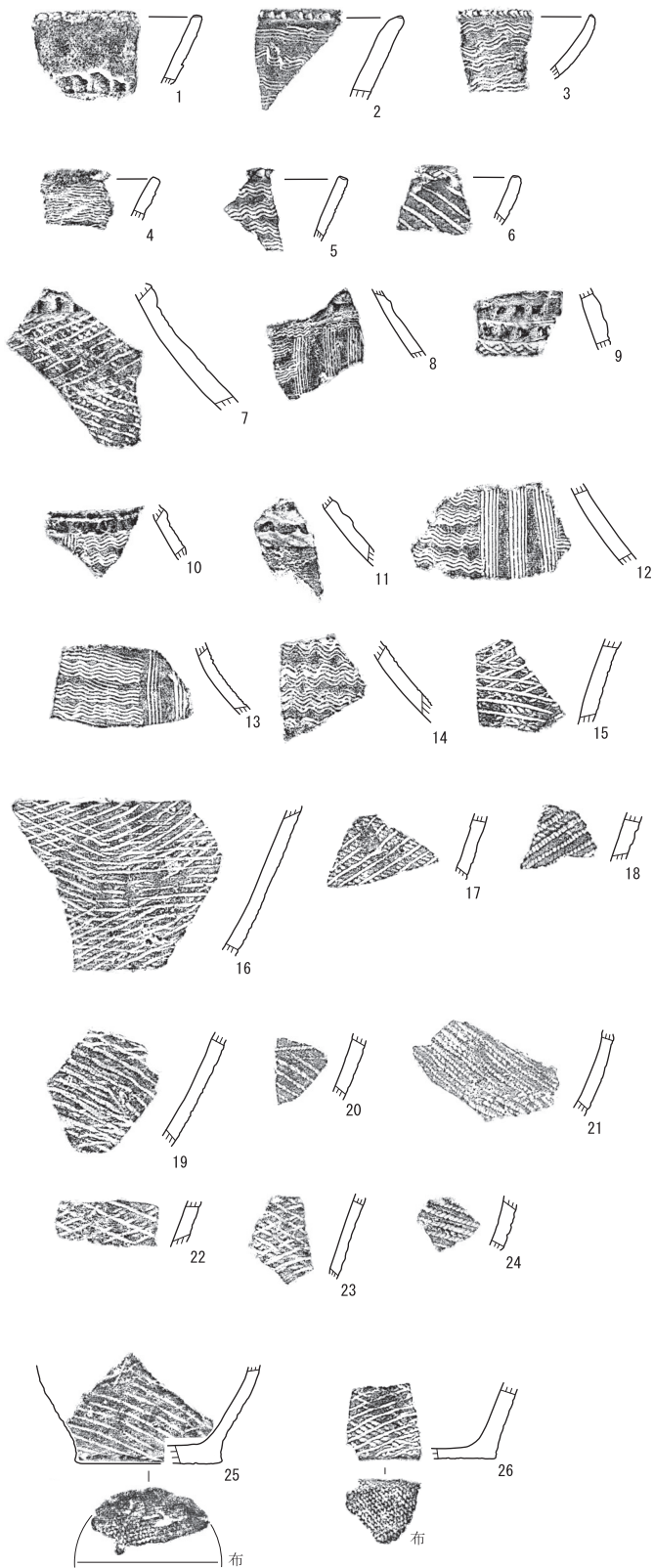
21 出土位置・注記：17トレ3住 時代時期：弥生時代後期 器種：壺
形土器 文様：付加条縄文（RL+2Rカ）

22 出土位置・注記：1トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器
種：大型壺形土器カ 文様：付加条縄文（R-S）

23 出土位置・注記：4トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（L×L，R-S）

24 出土位置・注記：3トレ1住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
文様：付加条縄文（R×R）

25 出土位置・注記：7トレ5住 時代時期：弥生時代後期（十王台式）
器種：小型壺形土器カ 法量：底径60mm（残存率30%） 文様：付加
条縄文（L×Rカ），底面布目痕



0 10cm (縮尺1/3)

第9図 岡田遺跡第39次調査区出土遺物(2)

26 出土位置・注記：8トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 文様：付加条縄文（R×R，L-Z），底面布目痕

3 大平 A 遺跡

(1) 第 7 次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から 100 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は 6 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4～0.6 m を測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



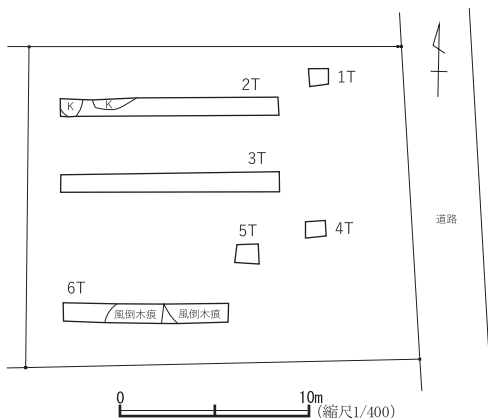
第 10 図 大平 A 遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第 4 表 大平 A 遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	勝田市教委	試掘	土坑 1	1
2	1979	勝田市教委	試掘	なし	1
3	1990	勝田市教委	試掘	溝 2, 土坑 6	2
4	2009	公社	試掘	土坑 1	3
5	2019	公社	試掘	溝 1	4
6	2019	公社	試掘	住居 1 (平安), 溝 1	4

文献

- 1 市内遺跡発掘調査報告書（昭和 54 年度）
- 2 平成 2 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 11 図 大平 A 遺跡第 7 次調査区

4 島ノ原遺跡

(1) 第 4 次調査報告

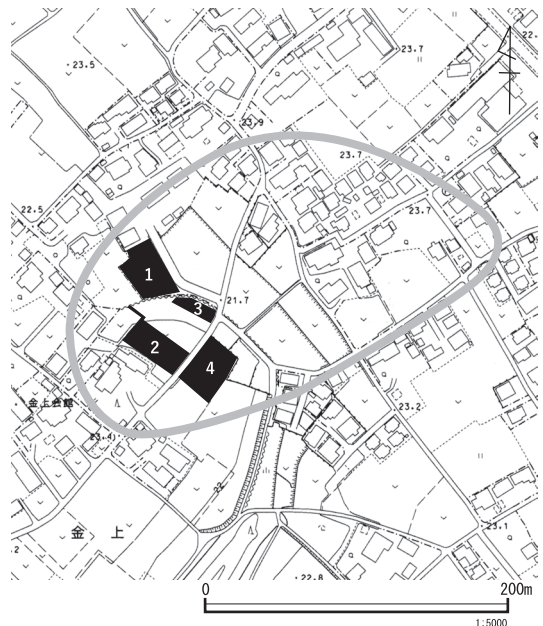
調査地は、那珂川低地から北東へ入り込む谷奥部付近に位置し、北東へ緩く傾斜する地形を呈する。調査時は畑であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.2～0.7 m を測る。

調査の結果、住居跡 5 基、土坑跡 2 基、溝跡 2 条、ピット 2 4 基が確認された。出土遺物から 1 号住居跡は奈良・平安時代、2 号住居跡は奈良時代、3・5 号住居跡は平安時代であると考えられる。4 号住居跡、土坑、溝跡は出土遺物がないため時期不明である。その他調査区からは土師器・須恵器が出土している。

遺物説明

第 14 図

1 出土位置：7 トレンチ 2 住 注記：— 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 25%、胴部下半若干 法量：底径 (8.6) 色調：橙褐色 胎土：



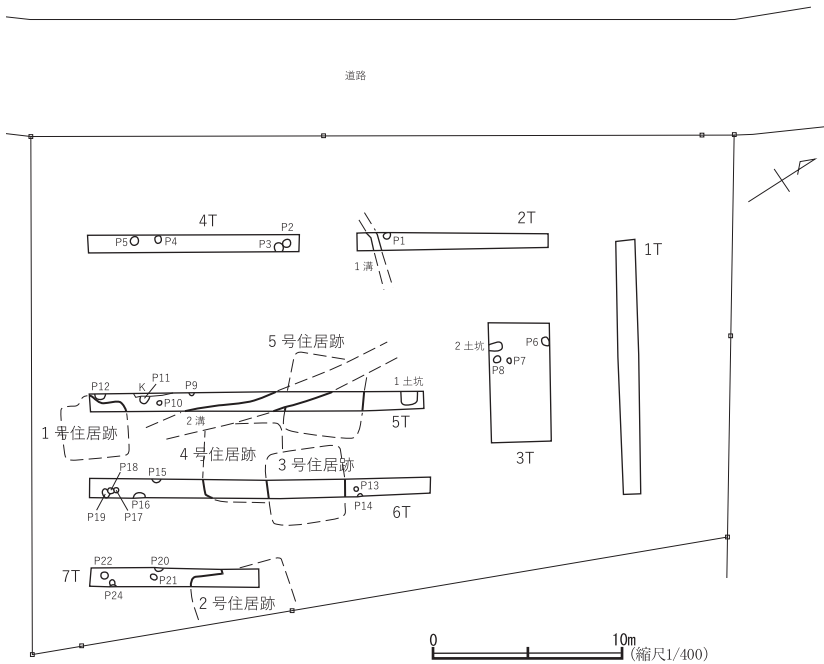
第 12 図 島ノ原遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第 5 表 島ノ原遺跡調査一覧

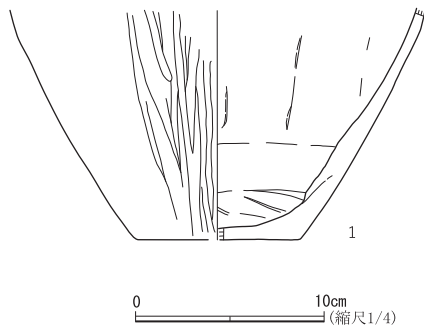
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1991	勝田市教委	試掘	なし	1
2	2011	公社	試掘	住居 4 (時期不明), 溝 5	2
3	2012	公社	試掘	なし	3

文献

- 1 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第13図 畠ノ原遺跡第4次調査区



第14図 畠ノ原遺跡第4次調査区出土遺物

礫（白透多）、白雲母多 技法等：底部外面木葉痕。胴部外面縦方向へラミガキ。内面へラナデ（胴部横方向）。備考：新治窯付近産

5 磯合古墳群

(1) 第7次調査報告

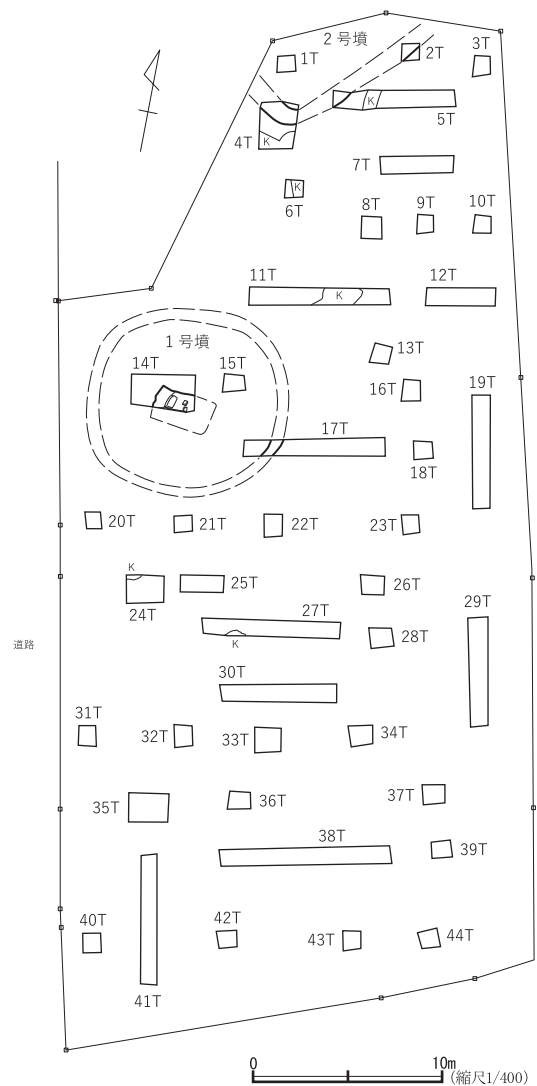
調査地は、海岸に面する台地縁辺から160mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑であった。調査は44か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.9mを測る。

調査の結果、古墳が2基確認された。第1号墳は周溝の形から円墳と考えられ、中央付近から石室の一部が確認された。第2号墳は周溝がL字に曲がるため方墳の可能性があるが全体形は不明である。出土遺物は確認されなかった。

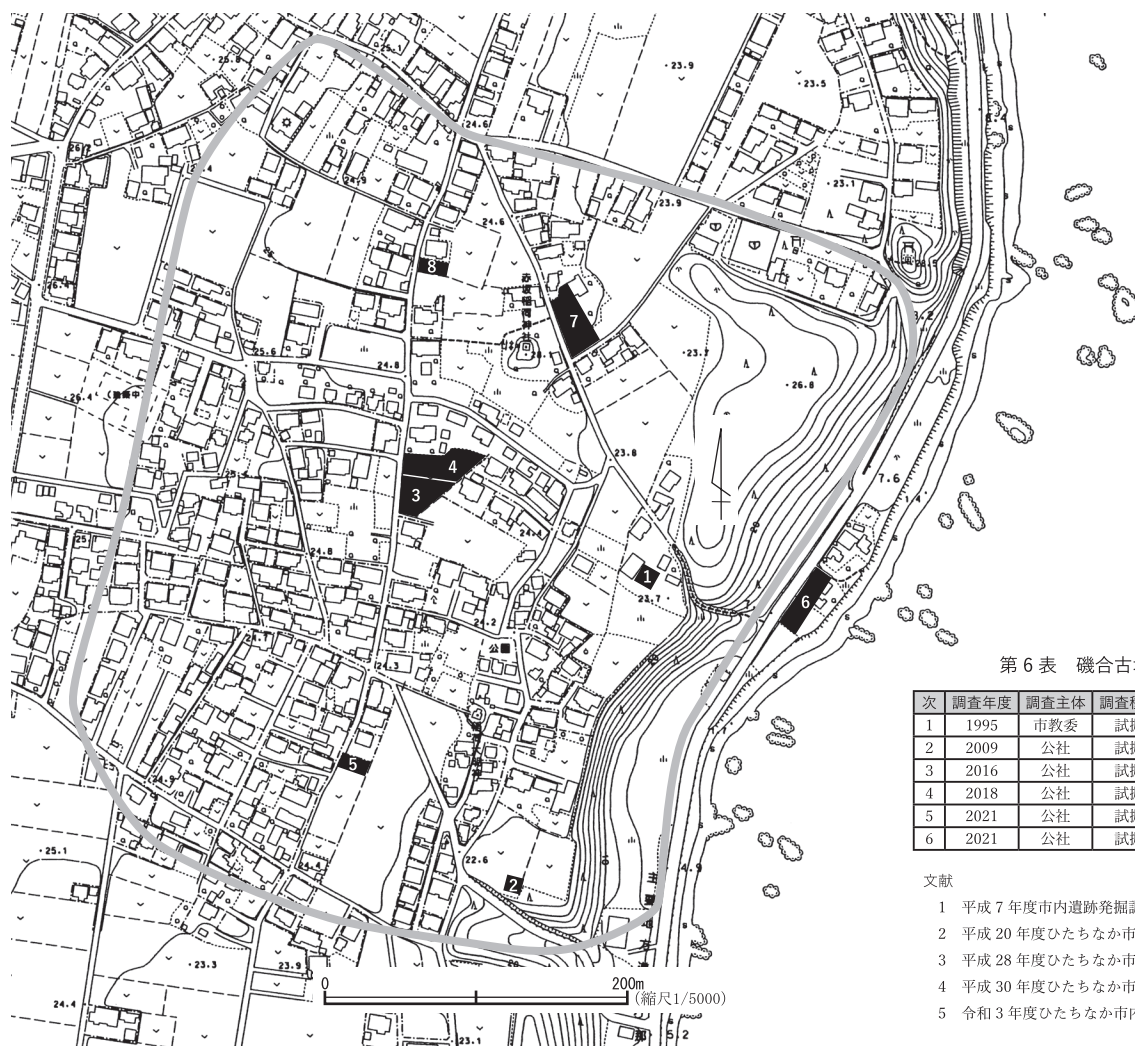
(1) 第8次調査報告

調査地は、海岸に面する台地縁辺から250mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。

調査の結果、溝跡が2条確認された。溝跡の年代は出土遺物がないため不明である。調査区からの出土遺物はなかった。



第15図 磯合古墳群第7次調査区



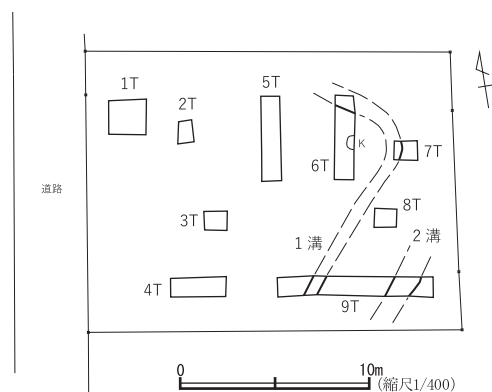
第6表 磯合古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1995	市教委	試掘	なし	1
2	2009	公社	試掘	なし	2
3	2016	公社	試掘	円墳1, 溝1	3
4	2018	公社	試掘	古墳1	4
5	2021	公社	試掘	土坑1	5
6	2021	公社	試掘	なし	5

文献

- 1 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 令和3年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

第16図 磯合古墳群の調査地点(数字は調査回数)



第17図 磯合古墳群第8次調査区

チを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～1.0mを測る。

調査の結果、住居跡3基、土坑1基、溝跡3条、ピット8基が確認された。出土遺物から2号住居跡は平安時代と考えられる。1・3号住居跡は時代を特定できる出土遺物がないため時期不明である。また土坑・溝跡は出土遺物がないため時期不明である。調査区からは土師器・須恵器が出土している。

遺物説明

第19図

1 出土位置・2トレンチ 材質：須恵器 器種：蓋 残存：鈕部 法量：鈕高1.5、鈕径2.5 色調：灰色 胎土：砂(白) 特徴：鈕周縁が細かく欠失する

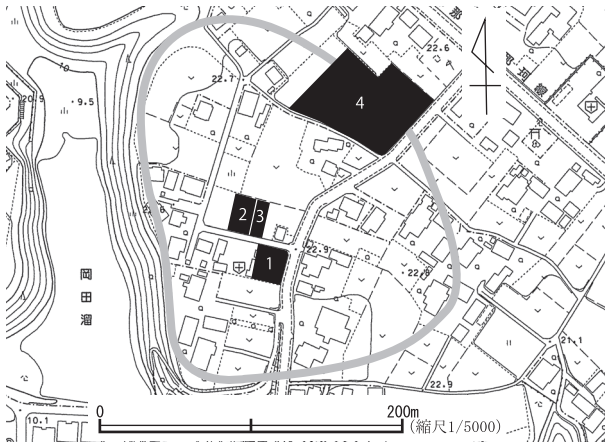
第20図

1 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代前期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文(RL) 備考：胎土に繊維、海綿骨針を微量に含む

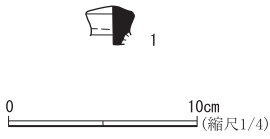
6 内手遺跡

(1) 第4次調査報告

調査地は、那珂川低地から北へ入り込む谷から150mほど離れた場所に位置し平坦な地形を呈する。調査時は荒地(旧水田跡)であった。調査は12か所のトレン



第18図 内手遺跡の調査地点（数字は調査回数）



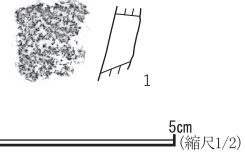
第19図 内手遺跡第4次調査区出土遺物(1)

第7表 内手遺跡調査一覧

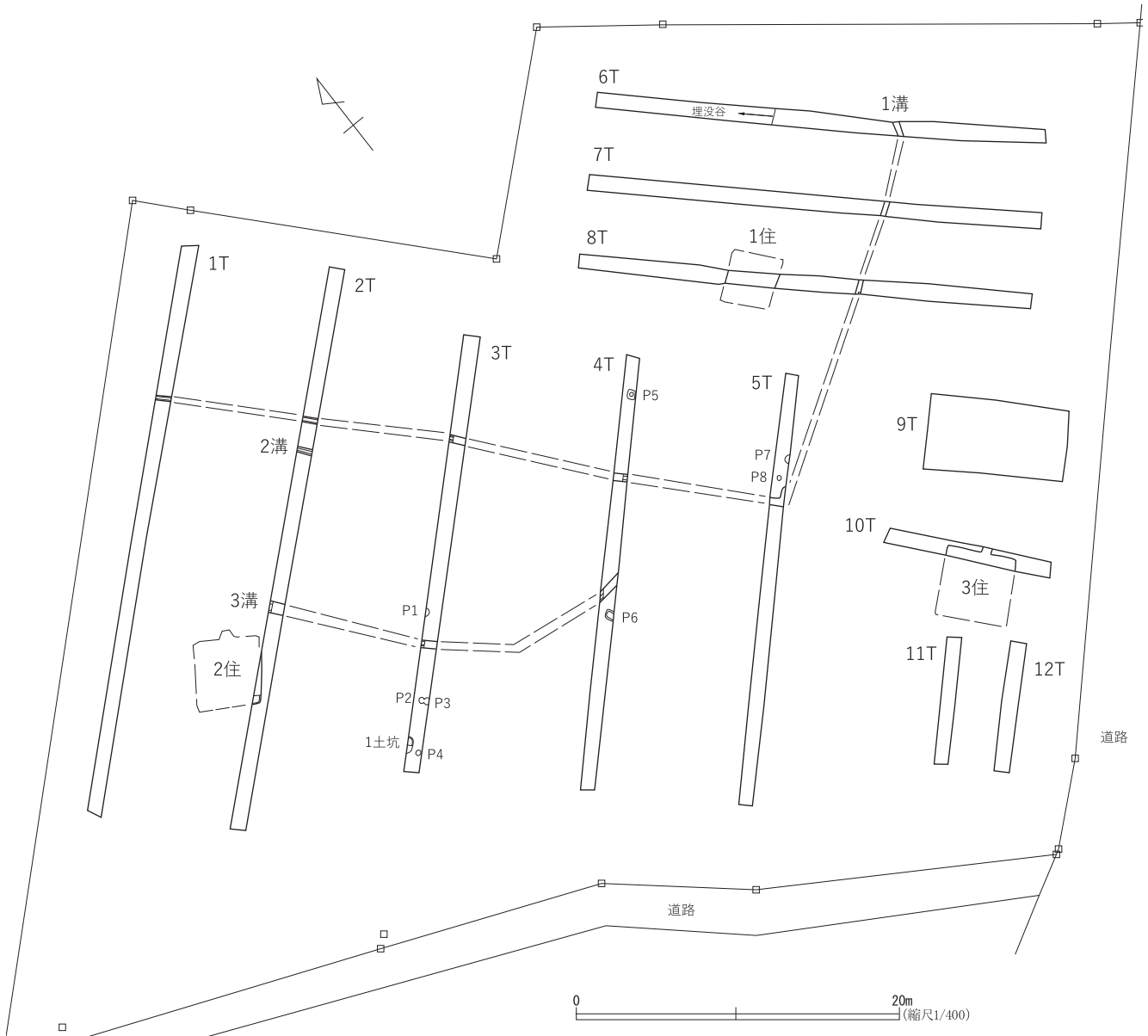
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1987	勝田市教委	本調査	住居2（古墳1、平安1）、溝1	1
2	2016	公社	試掘	住居跡2（奈良・平安）	2
3	2019	公社	試掘	住居1（時期不明）	3

文献

- 1 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第20図 内手遺跡第4次調査区出土遺物(2)



第21図 内手遺跡第4次調査区

7 大房地遺跡

(1) 第20次調査報告

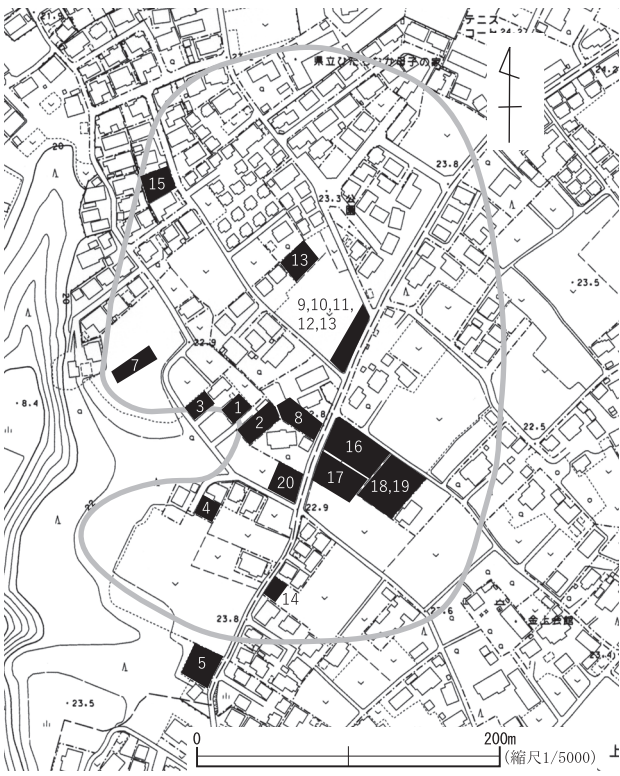
調査地は、那珂川低地から北へ入り込む支谷から140mほど離れた場所に位置する。支谷からは当調査区に向かい浅い谷上の地形が伸びているため、調査地は西に向かいやや傾斜している。調査時は畑地であった。調査は5か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6～1.3mを測る。

調査の結果、時期不明の溝跡2条が確認された。調査区からは縄文土器・煙管が出土している。

遺物説明

第24図

- 1 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E2式カ）
器種：深鉢形土器 文様：隆線文，沈線文，単節斜縄文（RL）備考：器内面磨き，胎土に金雲母多量に含む
- 2 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，沈線文，単節斜縄文（LR）備考：器内面磨き
- 3 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，単節斜縄文（RL）備考：器内外面磨き
- 4 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，撚糸文（L）カ 備考：器内面磨き
- 5 出土位置・注記：3トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，単節斜縄文（LR）備考：器内面磨き，胎土に金雲母・



第22図 大房地遺跡の調査地点（数字は調査次数）

赤褐色粒を含む

- 6 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL）
- 7 出土位置・注記：4トレ 時代時期：縄文時代 備考：器内面磨き，胎土に黄褐色粒多量に含む
- 8 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代中・後期カ 文様：櫛描文カ
- 9 出土位置・注記：4トレ 時代時期：弥生時代後期カ 文様：付加条縄文（LR+2Rカ）
- 10 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代後期カ 文様：付加条縄文（LR+Rカ）備考：器内面全面剥落
- 11 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代中・後期カ 文様：単節斜縄文（LR）カ

第8表 大房地遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1981	勝田市教委	本調査	井戸1（時期不明），住居1（時期不明）	1
2	1982	勝田市教委	本調査	溝1（中世），土坑1（縄文中期）	2
3	1986	勝田市教委	本調査	住居2（縄文1，平安1）	3
4	1986	勝田市教委	本調査	土坑2（時期不明）	3
5	1988	勝田市教委	試掘	なし	4
6	1988	勝田市教委	試掘	なし	4
7	1988	勝田市教委	本調査	住居3（縄文中期2，古墳後期1），土坑15	4
8	1995	市教委	本調査	溝2（時期不明）	5
9	1999	市教委	本調査	住居1（縄文中期1）	6
10	2000	市教委	本調査	住居1（縄文中期1）	7
11	2001	市教委	本調査	住居1（縄文中期1）	8
12	2002	市教委	本調査	溝3（時期不明）	9
13	2003	市教委	本調査	住居2（縄文中期），土坑3（縄文中期1，時期不明2）	10
14	2006	市教委	試掘	なし	11
15	2007	市教委	試掘	土坑1（時期不明）	12
16	2007	市教委	試掘	不明遺構3（時期不明）	12
17	2012	公社	試掘	溝4，土坑1（縄文後期）	13
18	2021	公社	試掘	住居2（時期不明），溝4	14
19	2021	公社	本調査	住居1（時期不明），溝2（奈良1，時期不明1），土坑1	14

文献

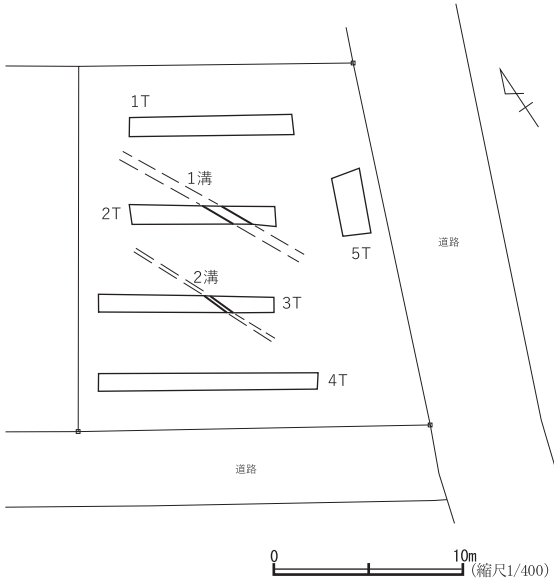
- 1 昭和56年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和61年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 昭和63年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成11年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成12年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成13年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成14年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成15年度市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 令和3年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

8 柴田遺跡

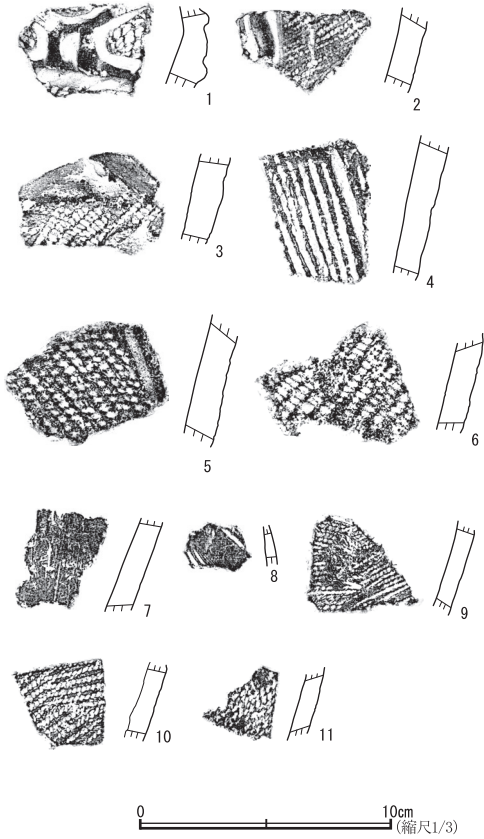
(1) 第6次調査報告

調査地は、大川の低地から160mほど離れた場所に位置する。調査地は平坦な地形を呈し、調査時は畑地であった。調査は2か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.6mを測る。

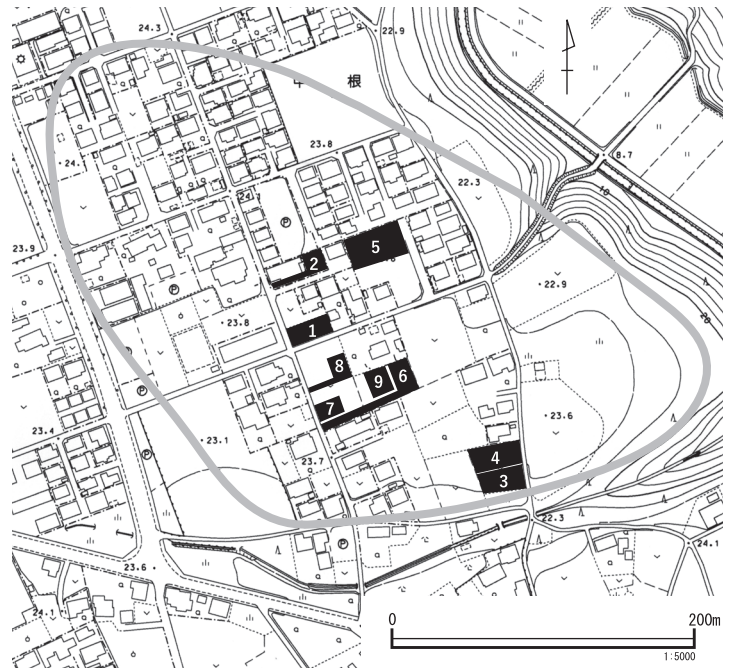
調査の結果、住居跡1基、土坑1基が確認された。出土した土器からみて、いずれも縄文時代中期の遺構と思われる。出土遺物は、調査区および遺構から縄文土器片が出土した。なお出土遺物の報告は次年度での報告を予定している。



第23図 大房地遺跡第20次調査区



第24図 大房地遺跡第20次調査区出土遺物



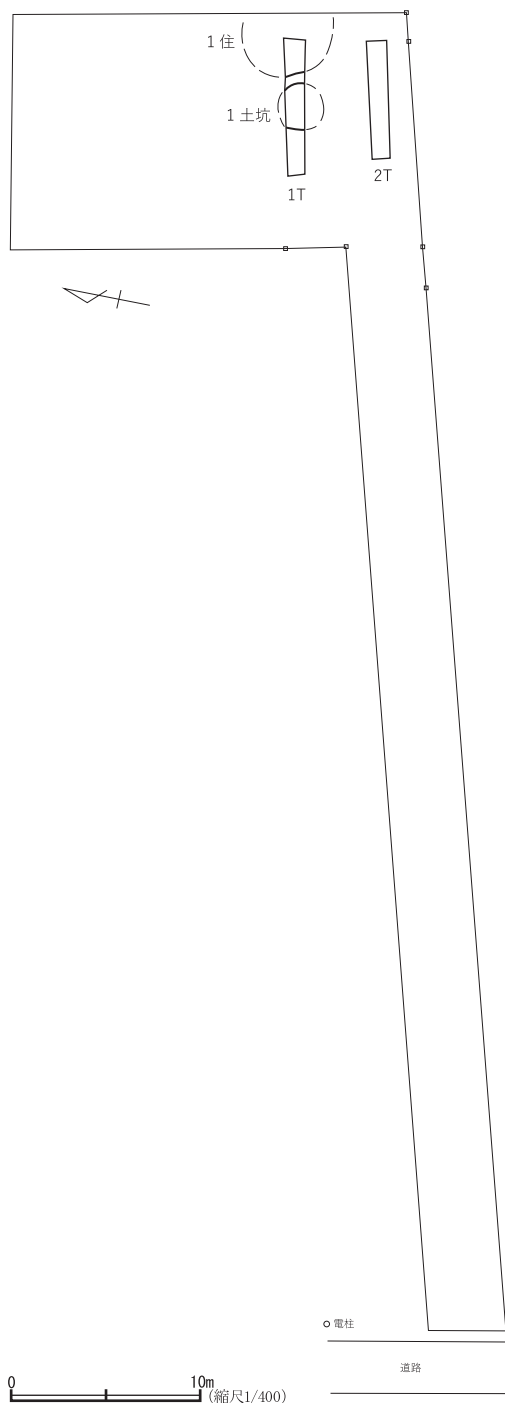
第25図 柴田遺跡の調査地点(数字は調査回数)

第9表 柴田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	本調査	住居跡2(縄文)	1
2	1986	勝田市教委	本調査	住居跡1(縄文)	2
3	2013	公社	試掘	住居跡3, 土坑1	3
4	2014	公社	試掘	住居跡2(縄文), 土坑4(縄文)	4
5	2017	公社	試掘	土坑1	5

文献

- 1 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 昭和61年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



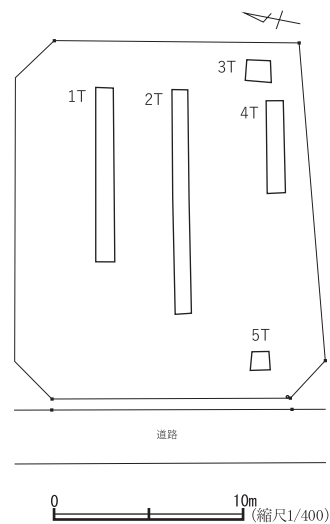
第 26 図 柴田遺跡第 6 次調査区

(2) 第 7 次調査報告

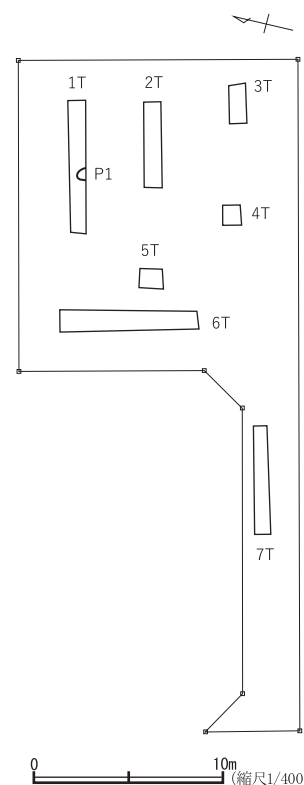
調査地は、大川の低地から 220 m ほど離れた場所に位置する。調査地は平坦な地形を呈し、調査時は畑地であった。調査は 5 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ~ 0.6 m を測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

(3) 第 8 次調査報告

調査地は、大川の低地から 200 m ほど離れた場所に



第 27 図 柴田遺跡第 7 次調査区



第 28 図 柴田遺跡第 8 次調査区

位置する。調査地は平坦な地形を呈し、調査時は畑地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ~ 0.5 m を測る。調査の結果、時期不明のピットが 1 基確認された。調査区から遺物は出土しなかった。

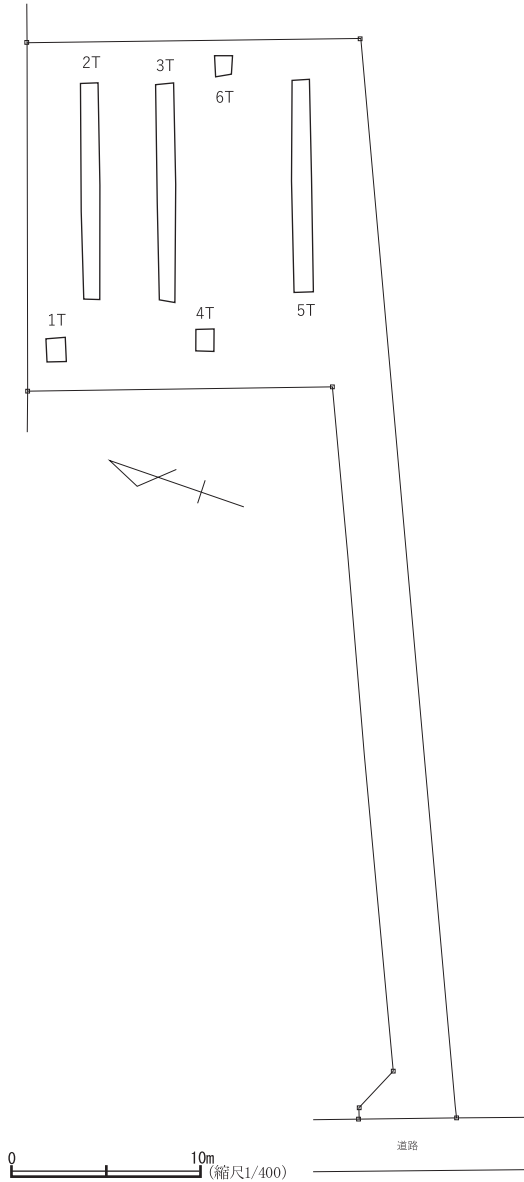
(4) 第 9 次調査報告

調査地は、大川の低地から 180 m ほど離れた場所に

9 向坪遺跡

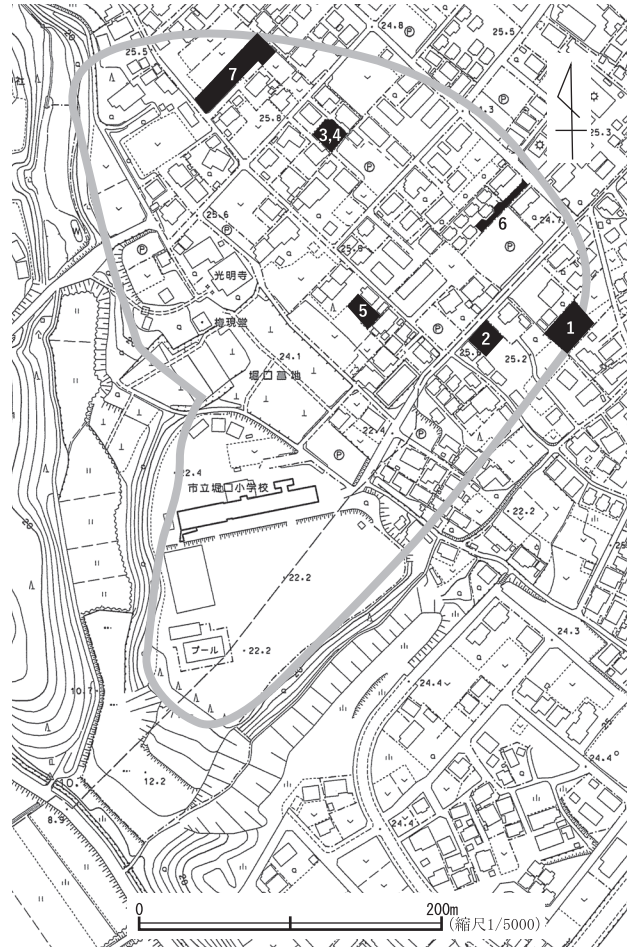
(1) 第7次調査報告

調査地は、那珂川の低地から北に入る谷より100mほど離れた場所に位置する。調査地は北東方向へやや傾斜する地形を呈し、調査時は畑地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～0.9mを測る。



第29図 柴田遺跡第9次調査区

位置する。調査地は平坦な地形を呈し、調査時は畑地であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



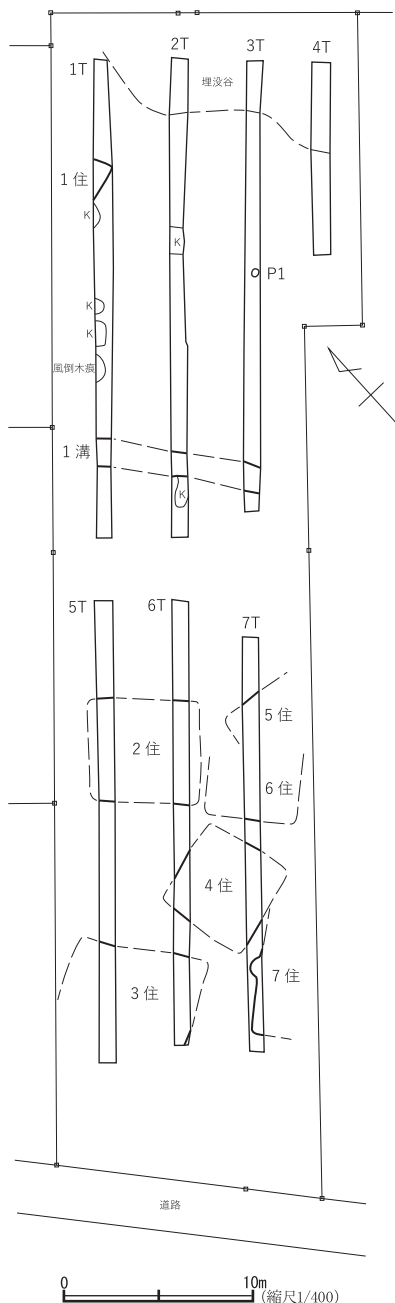
第30図 向坪遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第10表 向坪遺跡調査一覧

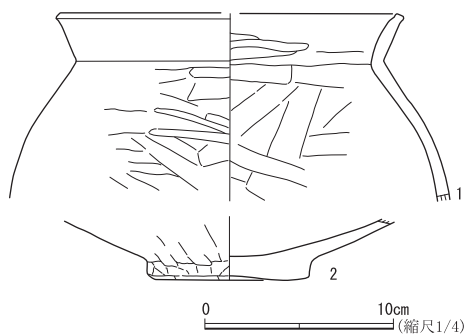
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	市教委	本調査	井戸（平安）	1
2	2007	市教委	試掘	なし	2
3	2016	公社	試掘	住居3（奈良・平安）、溝1	3
4	2016	公社	本調査	住居4（平安）、溝1	3
5	2016	公社	試掘	住居1（平安）	3
6	2019	公社	試掘	溝1	4

文献

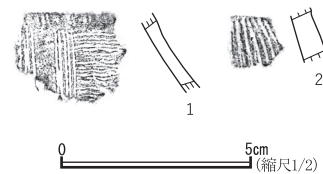
- 1 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第31図 向坪遺跡第7次調査区



第32図 向坪遺跡第7次調査区出土遺物(1)



第33図 向坪遺跡第7次調査区出土遺物(2)

調査の結果、住居跡7基、溝跡1条、ピット1基が確認された。各住居跡の年代は不明であるが、トレンチ出土の土器からみて、古墳時代中期から奈良時代頃の住居跡と思われる。調査区は北東方向に向けて低くなっていたが、調査区北東端部ではトレンチ内の確認面において浅い埋没谷が検出されている。出土遺物は、調査区から弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

遺物説明

第32図

1 台帳：7トレ 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁～胴部上位20% 法量：口径（18.4）、器高（9.9） 色調：外面褐～黒褐色。内面褐色。

胎土：礫（白少）、砂（白少、透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラ削り後ヘラナデ。内面口縁部ヨコナデ後ヘラナデ、胴部ヘラナデ。 使用痕：－ 備考：－

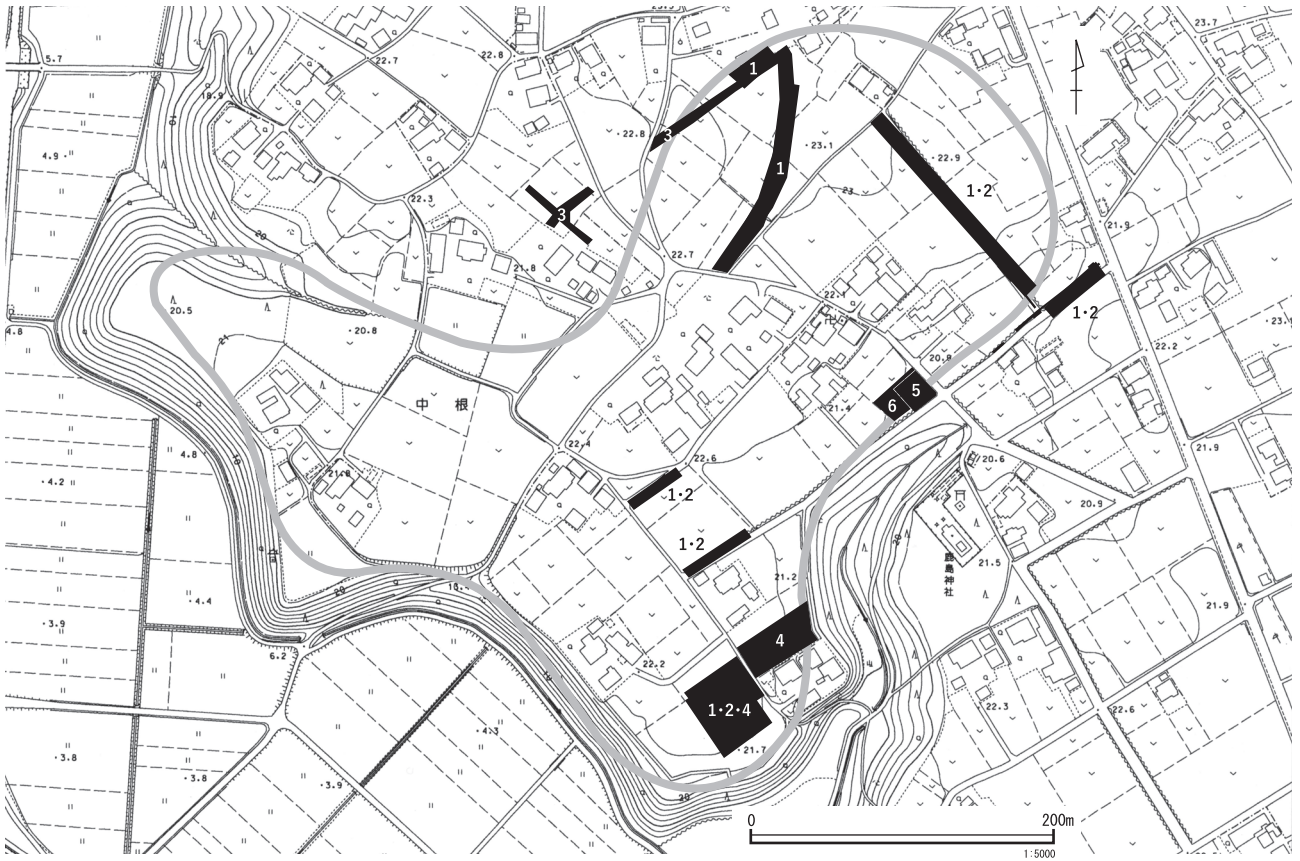
2 台帳：1トレ 材質：土師器 器種：甕 残存：底部40% 法量：器高（3.4）、底部（8.6） 色調：外面橙色。内面淡橙～にぶい黄橙色。

胎土：礫（白少）、砂（白多、透多） 技法等：外面胴部ヘラ削り後ヘラナデ、底部ヘラ削り。内面不明。 使用痕：－ 備考：内面器面の大半が剥離している。

第33図

1 出土位置・注記：7トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器 文様：微隆帯一条、櫛描文（櫛齒5本）

2 出土位置・注記：3トレ 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：不明 文様：条痕（櫛齒状工具）



第 34 図 東中根清水遺跡の調査地点（数字は調査次数）

10 東中根清水遺跡

(1) 第 6 次調査報告

調査地は、中丸川の低地から北東方向に入り込む小支谷の谷頭に位置し、南東にゆるく傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 7 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ～ 0.6 m を測る。

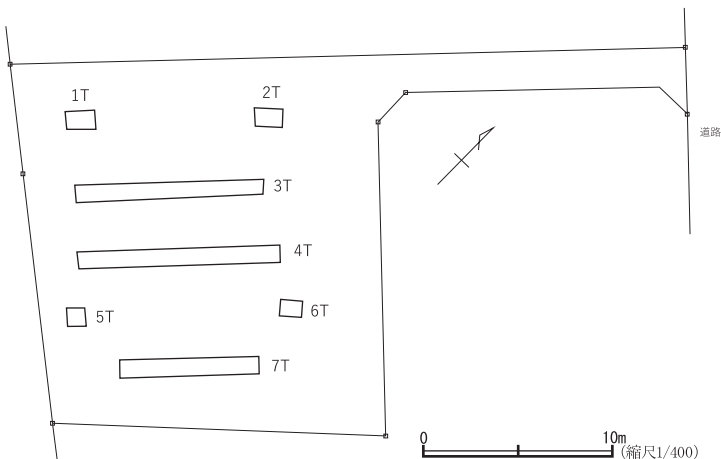
調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

第 11 表 東中根清水遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1～3	2000～2001	市遺跡調査会	本調査	住居 19 (古墳 2, 奈良・平安 14, 時期不明 3), 掘立 1 (時期不明), 井戸 1 (平安), 掘込地業 1 (平安以前)	1
4	2010	公社	試掘	住居 3 (古墳 1, 平安 2)	2
5	2019	公社	試掘	なし	3

文献

- 1 東中根遺跡群発掘調査報告書
- 2 平成 21 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



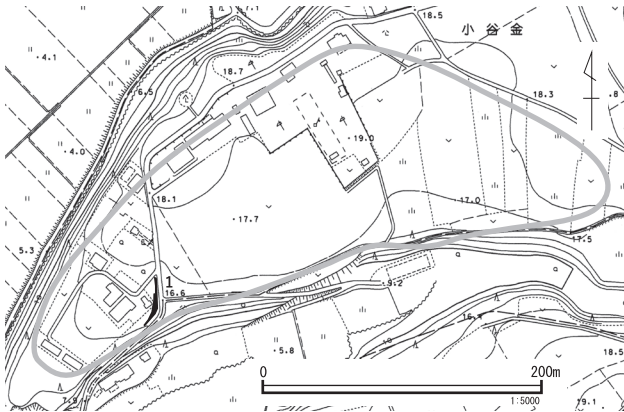
第 35 図 東中根清水遺跡第 6 次調査区

11 小谷金遺跡

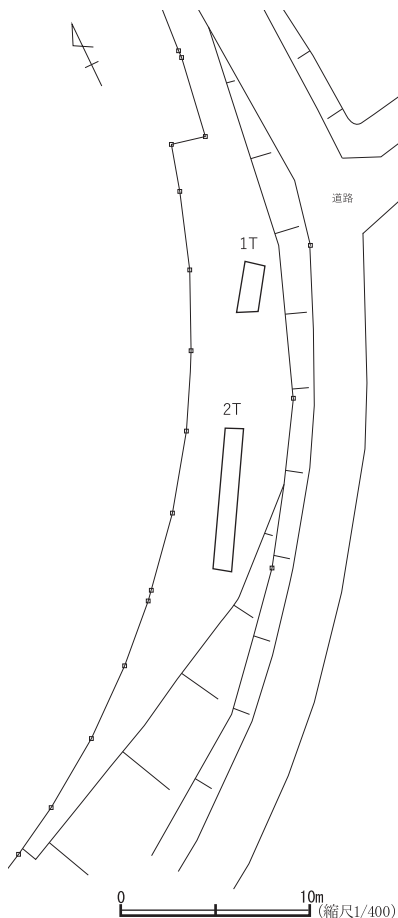
(1) 第1次調査報告

調査地は、中丸川の低地から東方向に入り込む小支谷を望む台地縁辺部に位置し平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は2か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.7 mを測る。

調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



第36図 小谷金遺跡の調査地点（数字は調査回数）



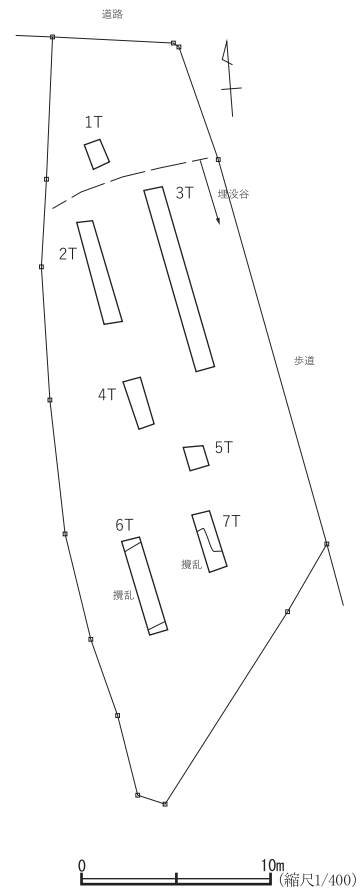
第37図 小谷金遺跡第1次調査区

12 君ヶ台遺跡

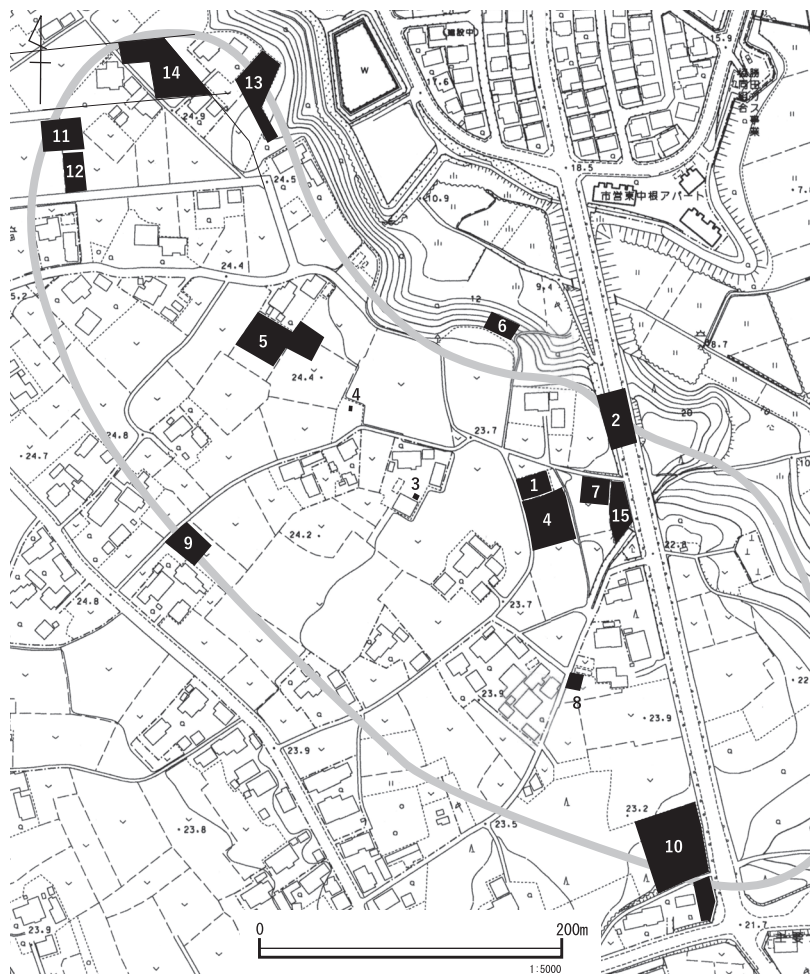
(1) 第15次調査報告

調査地は、本郷川の低地を望む台地縁辺部付近に位置し東にゆるく傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.9～1.3 mを測る。

調査の結果、遺構は確認されなかった。遺物は埋没谷土層中より縄文土器・石器が出土した。なお出土遺物は次年度の報告を予定している。



第38図 君ヶ台遺跡第15次調査区



第 39 図 君ヶ台遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 12 表 君ヶ台遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1951	勝田町郷土史 編纂委員会	本調査	土坑群, 住居	—
2	1979	勝田市教委	本調査	土坑 16, 住居 4	1
3	1994	市教委	本調査	土坑 3, 住居 2	2
4	1999	市教委	試掘	土坑 1	3
5	2001	市教委	試掘	住居 1, 土坑 1	4
6	2003	市教委	本調査	貝塚 1	5
7	2006	市教委	試掘	なし	6
8	2006	市教委	本調査	住居 1	—
9	2010	公社	試掘	土坑 2, 溝 1	7
10	2015	公社	試掘	なし	8
11	2017	公社	試掘	住居 1	9
12	2018	公社	試掘	なし	10
13	2018	公社	試掘	なし	10
14	2019	公社	試掘	住居 1 (古墳)	11

文献

- 1 君ヶ台遺跡調査報告書
- 2 平成 6 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 10 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 15 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 18 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

13 雷土 A 遺跡・外野開拓古墳群

(1) 雷土 A 遺跡第 1 次・外野開拓古墳群第 1 次調査報告

調査地は、中丸川の低地から 700 m ほど離れた場所に位置し平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 8 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.3 ~ 0.6 m を測る。

調査の結果、時期不明の土坑が 1 基確認された。遺物は表土より少量の縄文土器が出土した。

遺物説明

第 41 図

- 1 出土位置・注記：8 トレ 時代時期：縄文時代中・後期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：微隆線文 備考：器外面磨消縄文カ、器内面磨き、一部剥落
- 2 出土位置・注記：6 トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文 (LR)
- 3 出土位置・注記：1 トレ 縄文時代中・後期 器種：深鉢形土器カ

文様：単節斜縄文 (LR)

4 出土位置・注記：6 トレ 時代時期：縄文時代中・後期 器種：深鉢形土器カ 単節斜縄文 (RL)

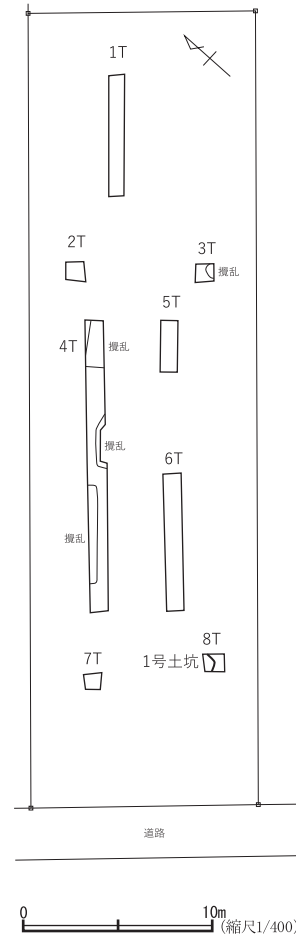
5 出土位置・注記：6 トレ 時代時期：縄文時代中期カ 文様：沈線文、単節斜縄文 (LR) 備考：器外面沈線部磨き、器内面磨き、炭化物付着

6 出土位置・注記：4 トレ 時代時期：縄文時代中期 文様：単節斜縄文 (RL)カ、微隆線文 備考：器内外面磨き

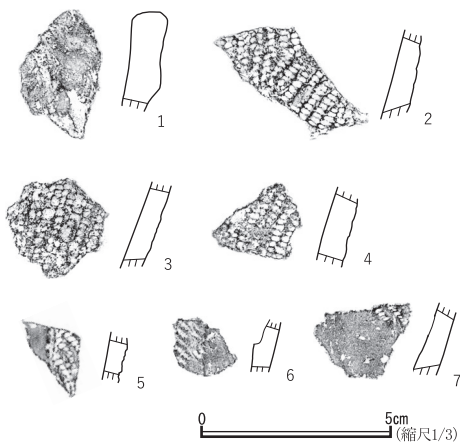
7 出土位置・注記：4 トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文 (LR) 縦回転カ 備考：器外面磨消縄文、器内面磨き、一部剥落



第40図 雷土A遺跡・外野開拓古墳群の調査地点（数字は調査回数）



第42図 雷土A遺跡第1次・外野開拓古墳群第1次調査区



第41図 雷土A遺跡第1次・外野開拓古墳群第1次調査区出土遺物

14 堀口遺跡

(1) 第39次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部に位置し、調査区南半部は南東方向にゆるく傾斜し、それ以外は平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は4か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.5mを測る。

調査の結果、住居跡4基、土坑3基、ピット13基が確認された。住居跡は1・3号住居跡が古墳時代、2・4号住居跡は時期不明である。土坑及びピットは時期不明である。遺物は住居跡より弥生土器・土師器・須恵器が出土した。調査区からは弥生土器・土師器・須恵器・陶器が出土している。

遺物説明

第45図

1 出土位置・注記：2トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：不明 文様：櫛描文（櫛歯4本カ）

2 出土位置・注記：2 トレ 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ） 器種：不明 文様：櫛描文（櫛歯4本）

3 出土位置・注記：2 トレ 時代時期：弥生時代後期 器種：不明 文様：付加条縄文（L-Z）

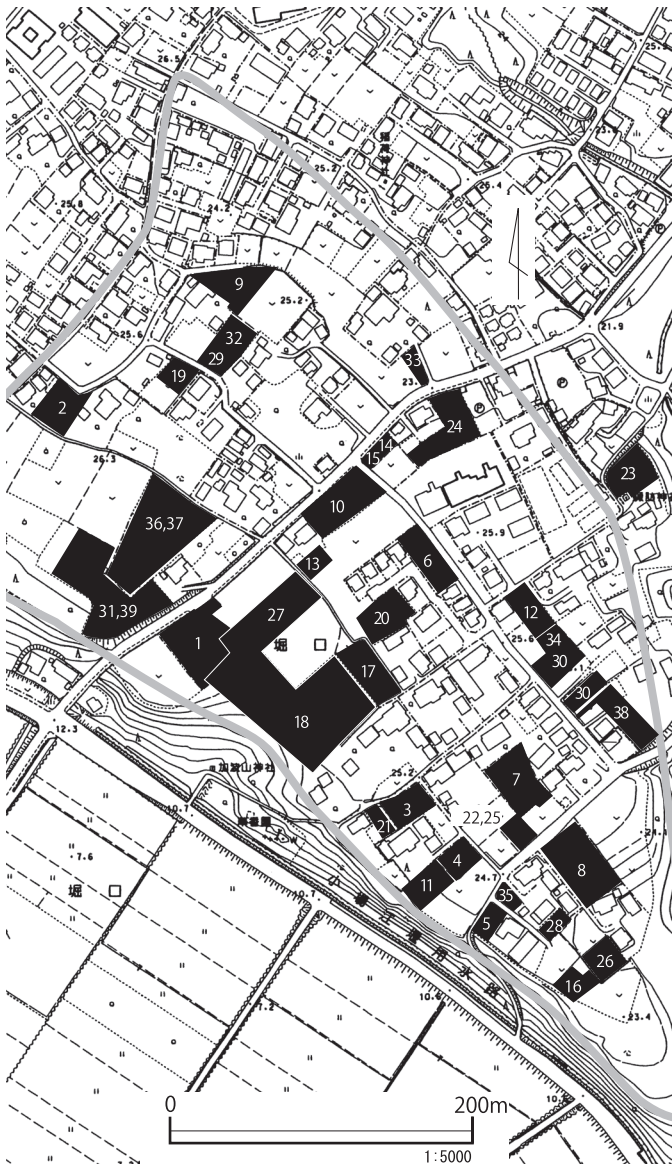
4 出土位置・注記：2 トレ 3 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ） 器種：大型壺形土器カ 文様：付加条縄文（R×R、L-Zカ）

5 出土位置・注記：2 トレ 3 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式カ） 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文（L-Z）備考：胎土に海綿骨針微量と金雲母含む

6 出土位置・注記：2 トレ 時期：弥生時代後期（十王台式カ） 器種：大型壺形土器カ 量法：底径134mm（残存率13%） 文様：付加条縄文（L×L）、底面調整カ

第13表 堀口遺跡調査一覧

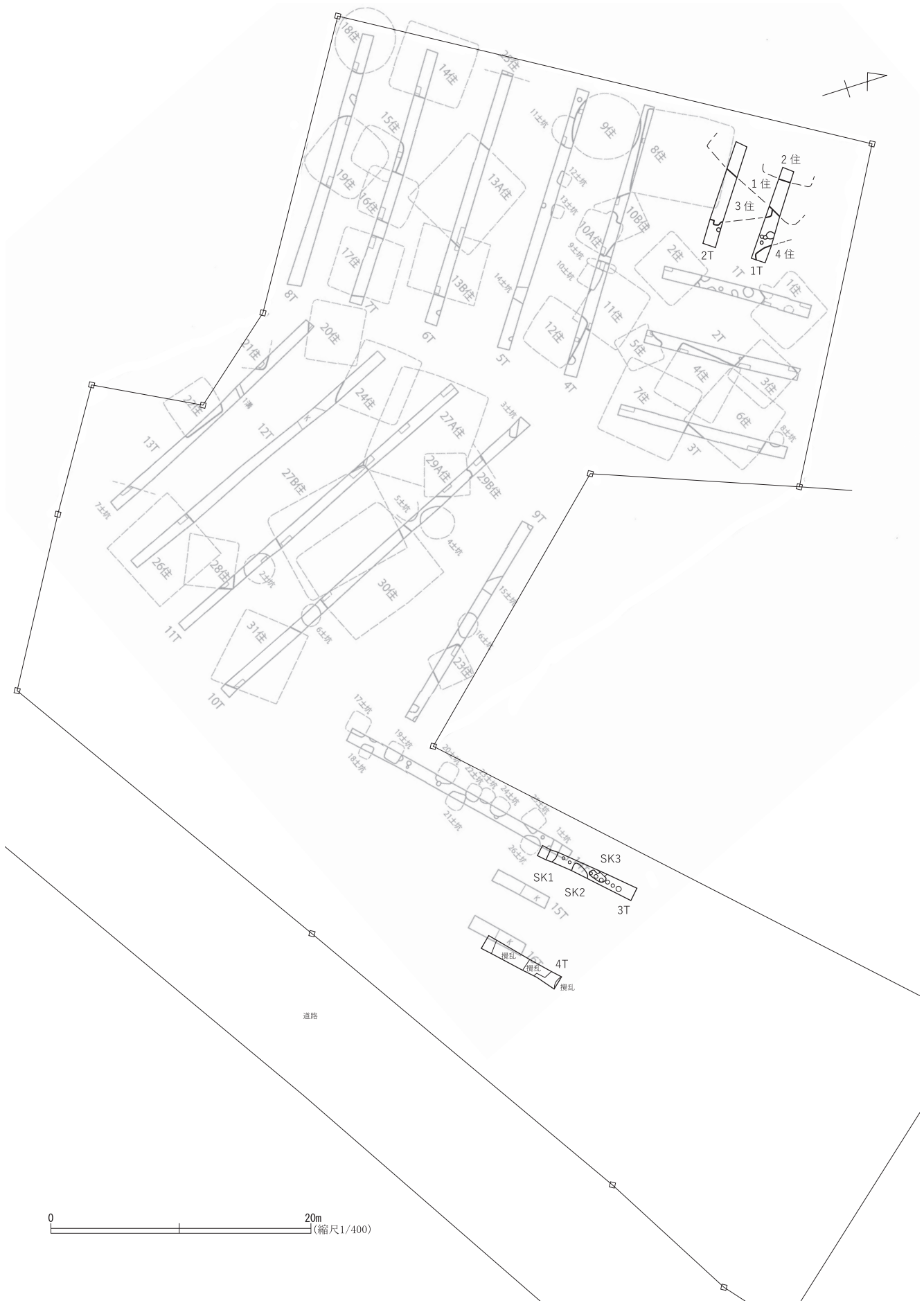
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	住居17（十王台1、古墳中期3、古墳後期2、奈良4、平安3、時期不明4）	1
2	1979	勝田市教委	本調査	住居2（平安）	2
3	1983	勝田市教委	本調査	住居3（古墳中期1、古墳後期1、平安1）	3
4	1984	勝田市教委	本調査	住居2（古墳1、時期不明1）	4
5	1985	勝田市教委	本調査	住居4（古墳中期1、平安2、時期不明1）	5
6	1992	勝田市教委	本調査	住居2（古墳中期1、奈良1）	6
7	1993	勝田市教委	本調査	住居8（十王台1、古墳中期4、古墳後期1、平安2）	7
8	1996	市教委	本調査	住居6（古墳前期2、古墳中期2、奈良1、平安1）	8
9	2006	市教委	試掘	なし	9
10	2007	市教委	本調査	住居7（古墳前期1、古墳後期1、奈良1、平安4）	10
11	2008	公社	試掘	住居2（奈良・平安1、時期不明1）、溝1	11
12	2008	公社	試掘	住居25（弥生中期1、古墳8、奈良・平安2、不明14）、土坑3（古墳2、時期不明1）、溝1	11
13	2013	公社	試掘	住居2（古墳）	12
14	2013	公社	試掘	住居2（古墳中期1、平安1）、溝2	12
15	2013	公社	本調査	住居4（古墳中期1、古墳後期1、平安2）、溝1	13
16	2014	公社	試掘	住居1（平安）、堀1	13
17	2014	公社	試掘	住居16（弥生1、古墳4、時期不明11）、土坑2	14
18	2015	公社	試掘	住居120（弥生3、古墳20、奈良5、平安9、時期不明83）、土坑14、土壇墓2、溝2	14
19	2015	公社	試掘	住居1（時期不明）	14
20	2015	公社	試掘	住居5（古墳）、土坑5	14
21	2015	公社	試掘	なし	14
22	2015	公社	試掘	住居6（古墳3、平安2、時期不明1）	15
23	2015	公社	試掘	住居1（古墳）	15
24	2015	公社	試掘	住居2（時期不明）	15
25	2016	公社	本調査	住居9（弥生2、古墳4、平安3）	15
26	2016	公社	試掘	なし	15
27	2016	関東文化財振興会	本調査	住居25（弥生2、古墳12、奈良・平安11）、掘立1（時期不明）、土坑43（奈良・平安9、時期不明34）	18
28	2016	公社	試掘	なし	15
29	2018	公社	試掘	住居8（古墳3、奈良・平安4、時期不明1）	16
30	2019	公社	試掘	住居2（時期不明）、溝1	17
31	2020	公社	試掘	住居35（弥生6、古墳17、奈良・平安8、時期不明4）、溝1、土坑26	19
32	2020	公社	本調査	住居3（奈良・平安2、不明1）	19
33	2020	公社	試掘	なし	19
34	2020	公社	本調査	住居1（古墳）、溝1、土坑3	19
35	2020	公社	試掘	土坑1	19
36	2021	公社	試掘	住居28（古墳4、奈良・平安2、時期不明22）、溝7、土坑38、焼土遺構1	20
37	2021	公社	試掘	住居3（奈良・平安2、時期不明1）、土坑10	20
38	2021	公社	試掘	なし	20



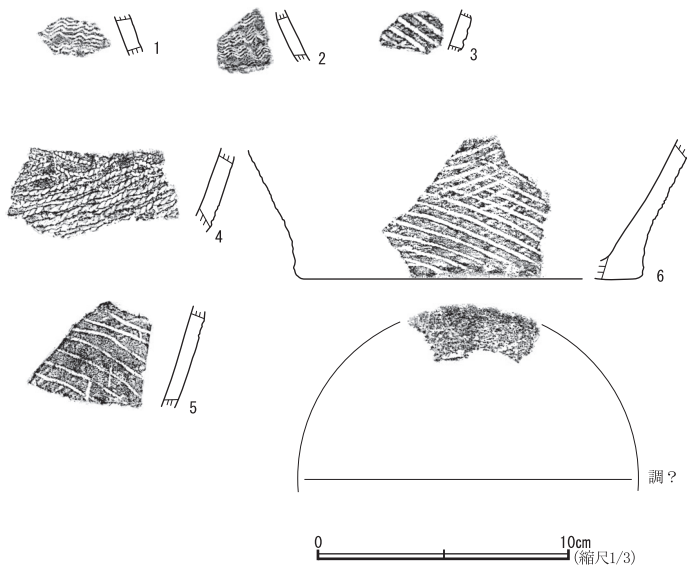
第43図 堀口遺跡の調査地点（数字は調査次数）

文献

- | | | |
|-----------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| 1 茨城県勝田市堀口遺跡発掘調査報告書 | 8 平成8年度市内遺跡発掘調査報告書 | 16 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 2 市内遺跡発掘調査報告書（昭和54年度） | 9 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書 | 17 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 3 市内遺跡発掘調査報告書（昭和58年度） | 10 堀口遺跡発掘調査報告書 | 18 堀口遺跡（特別養護老人ホーム建築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書） |
| 4 市内遺跡発掘調査報告書（昭和59年度） | 11 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 19 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 5 市内遺跡発掘調査報告書（昭和60年度） | 12 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | 20 令和3年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 6 平成4年度市内遺跡発掘調査報告書 | 13 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | |
| 7 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書 | 14 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | |
| | 15 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 | |



第44図 堀口遺跡第39次調査区（灰色の調査区は第31次調査区）

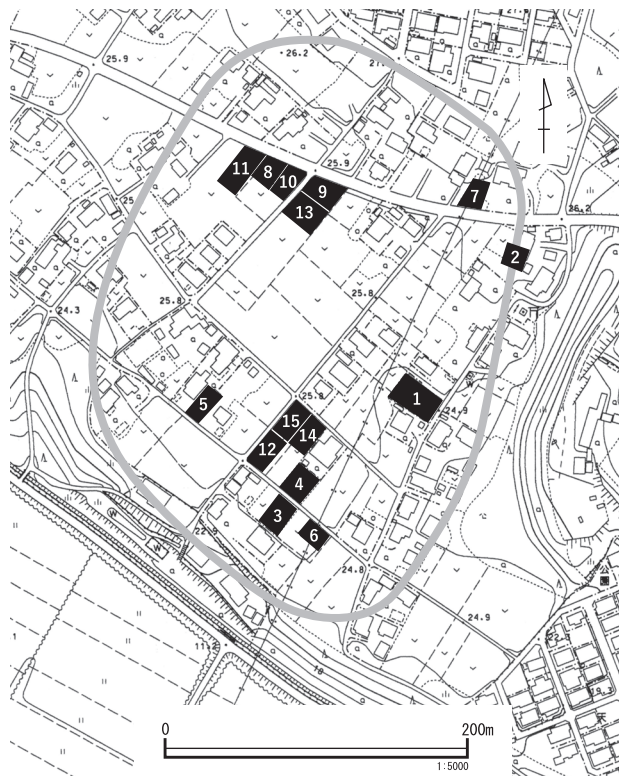


第 45 図 堀口遺跡第 39 次調査区出土遺物

15 津田若宮遺跡

(1) 第 12 次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から 70 m ほど離れた地点に位置し、調査区は平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は 8 か所のトレンチを設定



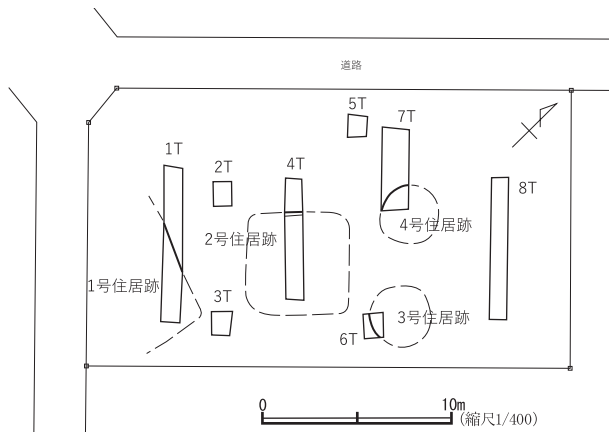
第 46 図 津田若宮遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第 14 表 津田若宮遺跡調査一覧

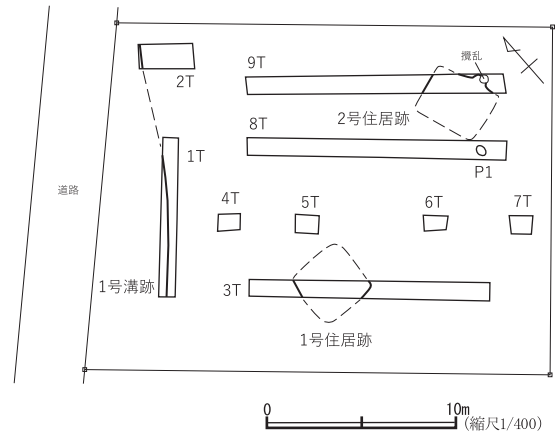
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1981	勝田市教委	本調査	住居跡 2 (古墳前期 1, 奈良 1), 土坑墓 2 (江戸)	1
2	1982	勝田市教委	本調査	住居跡 1 (古墳前期 1)	1
3	1983	勝田市教委	本調査	住居跡 3 (古墳中期 1, 古墳後期 1, 時期不明 1), 土坑 1 (弥生中期 1)	2
4	1985	勝田市教委	本調査	住居跡 2 (縄文 1, 古墳前期 1)	3
5	1993	勝田市教委	試掘調査	なし	4
6	1997	市教委	本調査	住居跡 4 (縄文中期 1, 時期不明 3)	5
7	2001	市教委	本調査	住居跡 2 (古墳前期 1, 時期不明 1)	6
8	2011	公社	試掘	掘立 1 (時期不明)	7
9	2014	公社	試掘	溝 1 (時期不明), 道 1 (時期不明)	8
10	2014	公社	試掘	溝 1 (時期不明), 土坑 1 (時期不明)	8
11	2015	公社	試掘	なし	9

文献

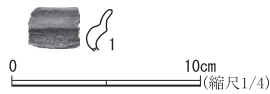
- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 昭和 56 年度市内遺跡発掘調査報告書 | 6 平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書 |
| 2 昭和 58 年度市内遺跡発掘調査報告書 | 7 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 3 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書 | 8 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 4 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書 | 9 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書 |
| 5 津田若宮遺跡発掘調査報告書 | |



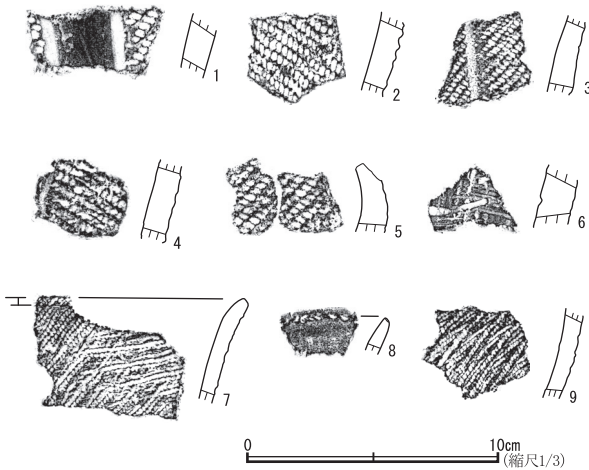
第47図 津田若宮遺跡第12次調査区



第50図 津田若宮遺跡第13次調査区



第48図 津田若宮遺跡第12次調査区出土遺物(1)



第49図 津田若宮遺跡第12次調査区出土遺物(2)

し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6～0.9mを測る。

調査の結果、住居跡4基が確認された。住居跡は2号住居跡が古墳時代前期、3・4号住居跡は弥生時代以前と思われる。1号住居跡は時期を決定できる遺物がなく時期不明である。遺物は住居跡より縄文土器・弥生土器・土師器が出土した。調査区からは縄文土器・弥生土器・土師器が出土している。

遺物説明

第48図

1 台帳：4トレ2住 材質：土師器 器種：S字甕 残存：口縁部片
法量：一 色調：浅黄色 胎土：砂(白多) 焼成：良好 技法等：一
使用痕：一 備考：一

第49図

1 出土位置・注記：1トレ1住 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢

形土器 文様：沈線文、単節斜縄文(RL) 備考：器外面磨き

2 出土位置・注記：1トレ1住 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢
形土器 文様：単節斜縄文(RL) 備考：器内面磨き

3 出土位置・注記：1トレ1住 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢
形土器 文様：沈線文、単節斜縄文(RL) 備考：器内面磨き

4 出土位置・注記：4トレ2住 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢
形土器 文様：沈線文、単節斜縄文(RL) 備考：器内面磨き

5 出土位置・注記：6トレ3住 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢
形土器カ 文様：単節斜縄文(RL) 備考：器内面磨き

6 出土位置・注記：3トレ 時代時期：縄文時代中・後期カ 器種：深鉢
形土器カ 文様：沈線文、単節斜縄文(LR)カ

7 出土位置・注記：4トレ2住 時代時期：弥生時代中期カ 器種：甕
形土器カ 文様：口唇部縄文(付加条縄文L3R+Rカ)、口縁部付加条
縄文(L3R+Rカ) 備考：器内面磨き

8 出土位置・注記：7トレ 時代時期：弥生時代 文様：口唇部縄文
備考：器内面磨き、胎土に金雲母含む

9 出土位置・注記：6トレ3住 時代時期：弥生時代後期カ 器種：壺
形土器カ 文様：付加条縄文(L3R+Rカ)

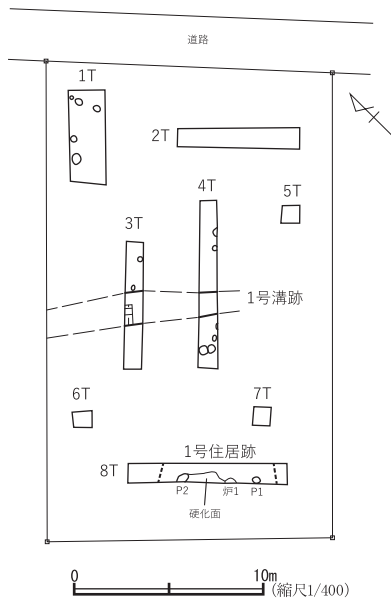
(2) 第13次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から200mほど離れた地点に位置し、調査区は平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。

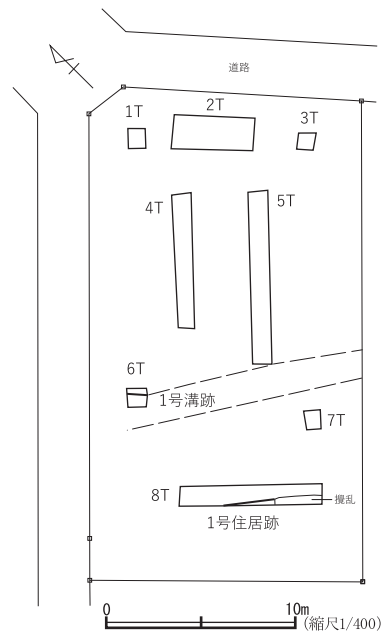
調査の結果、住居跡2基、溝跡1条、ピット1基が確認された。住居跡・溝跡・ピットは出土遺物がないため時期不明である。調査区からも遺物は出土しなかった。

(3) 第14次調査報告

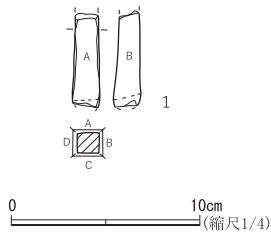
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部から90mほど離れた地点に位置し、調査区は平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は8か所のトレンチを設定



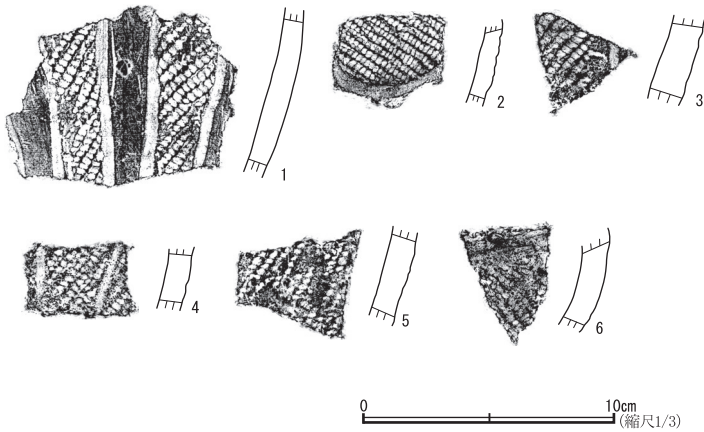
第 51 図 津田若宮遺跡第 14 次調査区



第 54 図 津田若宮遺跡第 15 次調査区



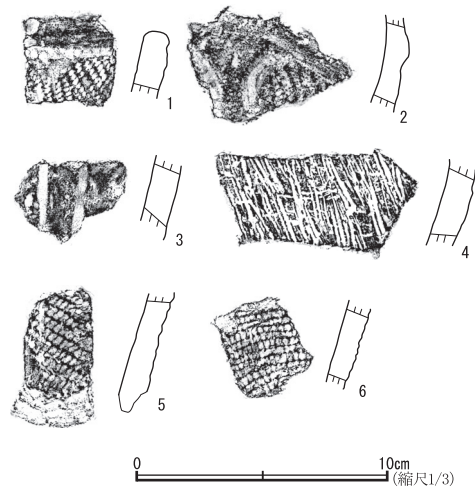
第 52 図 津田若宮遺跡第 14 次調査区出土遺物 (1)



第 53 図 津田若宮遺跡第 14 次調査区出土遺物 (2)

し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.6～0.8 m を測る。

調査の結果、住居跡 1 基、溝跡 1 条、ピット 13 基が確認された。1 号住居跡は住居床付近まで攪乱が及んでおり遺存状況は良くないが、床面の一部と柱穴 2 基、炉 1 基が確認された。住居跡は遺物から縄文時代と思われ、縄文土器のほか板状の石器（石斧か）が出土した。溝跡からは砥石が出土したが、時期を決定できる遺物がなく時期不明である。ピットも出土遺物がなく時期不明であ



第 55 図 津田若宮遺跡第 15 次調査区出土遺物

る。調査区からは縄文土器のほか、古墳時代の土師器が出土している。

遺物説明

第 52 図

1 出土位置：3 トレンチ 1 溝 材質：石 器種：砥石 残存：半分ほど残存。中央部付近で折れる。端部剥離する。 法量：残存長 4.9, 最大幅 1.5, 重量 16.2g 色調：暗灰色 特徴：4 面使用

第 53 図

1 出土位置・注記：7 トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利 E2 式カ） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，単節斜縄文（RL）備考：器内外面磨き

2 出土位置・注記：1 トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利 E3 式カ） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，単節斜縄文（RL）備考：器内面磨き

3 出土位置・注記：8 トレ 1 住 Pit2 時代時期：縄文時代中期 器種：

16 市毛遺跡

- 深鉢形土器カ 文様：沈線文，単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き
 4 出土位置・注記：1トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文，単節斜縄文（RL） 備考：胎土に金雲母含む
 5 出土位置・注記：8トレ1住 Pit1 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き
 6 出土位置・注記：8トレ1住 Pit1 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LRカ） 備考：器内面磨き

(4) 第15次調査報告

調査地は，那珂川低地を望む台地縁辺部から90mほど離れた地点に位置し，調査区は平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は8か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.6～0.9mを測る。

調査の結果，住居跡1基，溝跡1条が確認された。1号住居跡は縄文土器片が出土したため縄文時代になる可能性がある。1号溝跡は時期を決定できる遺物がなく時期不明である。調査区からは縄文土器および古墳時代の土師器が出土している。

遺物説明

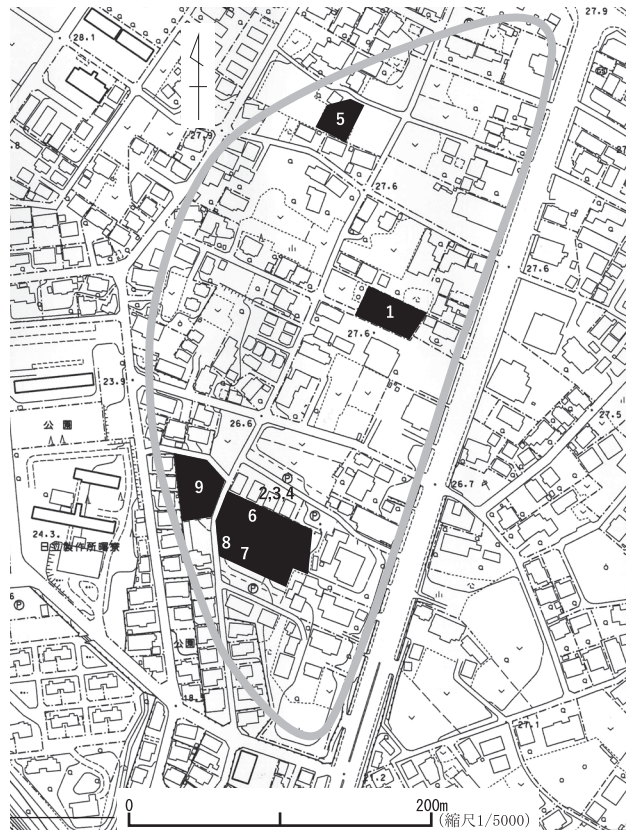
第55図

- 1 出土位置・注記：5トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文，単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き
 2 出土位置・注記：2トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，沈線文，単節斜縄文（RL）カ
 3 出土位置・注記：表採 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文，単節斜縄文（LR）
 4 出土位置・注記：14トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 文様：条痕文 備考：器内面磨き
 5 出土位置・注記：8トレ1住 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR） 備考：器内面磨き
 6 出土位置・注記：8トレ1住 時代時期：縄文時代中期 文様：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR）

(1) 第9次調査報告

調査地は，那珂川から北方に入り込む浅い谷の東側台地上に位置し，西側に傾斜する地形を呈する。西側の谷部分は現在住宅地となっており，どのような谷が入っていたのか現状から窺うことはできない。今回の調査区は調査時は荒地となっていたが，前月までは標高の高い部分に神社とそれを囲む木々がみられ，西側の傾斜部分は砂利敷きの駐車場として利用されていた場所である。調査は6か所のトレンチを設定し，重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.9mを測る。

調査の結果，駐車場として利用されていた西側の部分は1m以上の深さの攪乱が入り，埋められていたことがわかった。東側部分では住居跡1基，土坑1基が確認さ



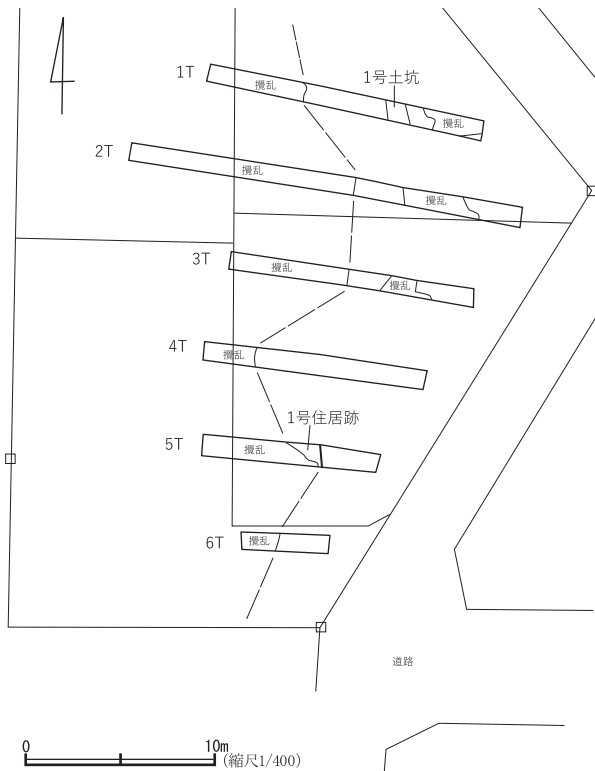
第56図 市毛遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第15表 市毛遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1990	勝田市教委	本調査	住居6	1
2～4	2021	公社	試掘	住居39（古墳～平安，時期不明），溝1，土坑12	2
5	2021	公社	試掘	住居2（奈良1，時期不明1），溝1	2

文献

- 1 平成2年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
 2 令和3年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



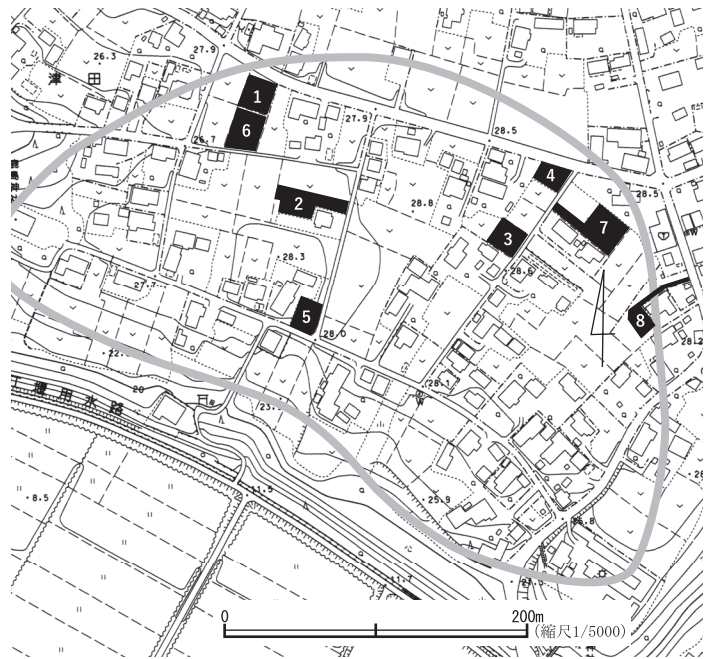
第57図 市毛遺跡第9次調査区

れた。いずれも時期を決定できる遺物が遺構から出土しておらず時期は不明である。なお調査区より土師器・須恵器が出土している。

17 上馬場遺跡

(1) 第8次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から200mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機



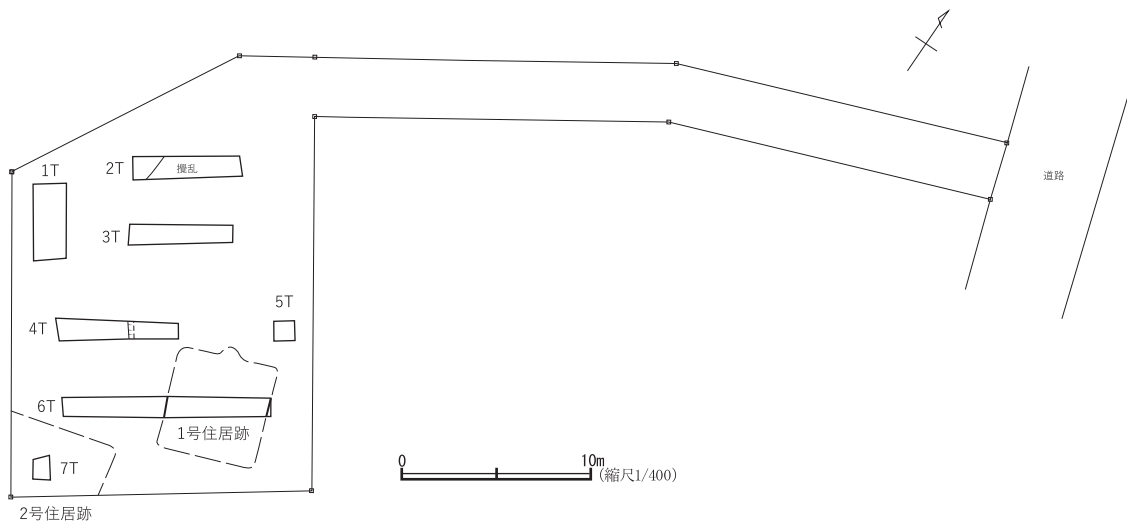
第59図 上馬場遺跡の調査地点（数字は調査回数）

第16表 上馬場遺跡調査一覧

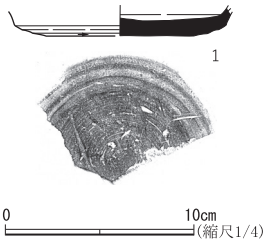
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	なし	1
2	2008	公社	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	住居跡3（奈良1、不明2）	3
4	2012	公社	試掘	住居跡1（平安1）、溝3、炭窯1（近代）	3
5	2018	公社	試掘	ピット1	4
6	2020	公社	試掘	ピット1	5
7	2021	公社	試掘	土坑1基	6

文献

- 1 上馬場遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 5 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 令和3年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第58図 上馬場遺跡第8次調査区



第60図 上馬場遺跡第8次調査区

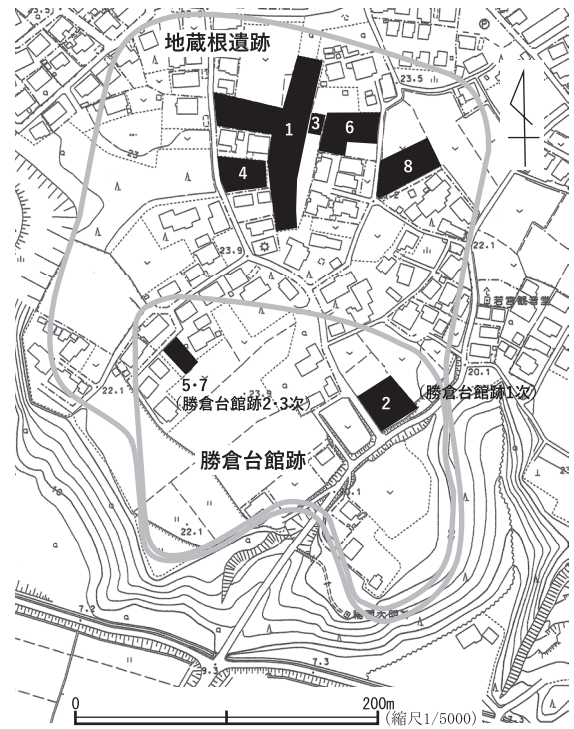
による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.8～1.3 mを測る。

調査の結果、住居跡2基が確認された。出土土器からみて1号住居跡が奈良時代、2号住居跡が古墳時代前期と思われる。遺物は調査区より土師器・須恵器が出土した。

遺物説明

第60図

1 出土位置：6トレ 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部35% 法量：底径(11.2) 色調：灰色 胎土：礫(灰少、白透少)、骨針微量 技法等：底部外面回転ヘラ削り 備考：木葉下窯産か



第62図 地蔵根遺跡・勝倉台館跡の調査地点
(数字は地蔵根遺跡の調査回数)

第17表 地蔵根遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2015	公社	試掘	住居1(時期不明)、井戸1(近世以後)、溝3	1
2	2016	公社	試掘	住居3(古墳後期1、奈良1、平安1)	2
3	2017	公社	試掘	なし	3
4	2018	公社	試掘	住居2(時期不明)、溝1	3
5	2021	公社	試掘	住居5(古墳1、平安1、時期不明3)、溝1	4
6	2021	公社	試掘	井戸1(近世)	4

文献

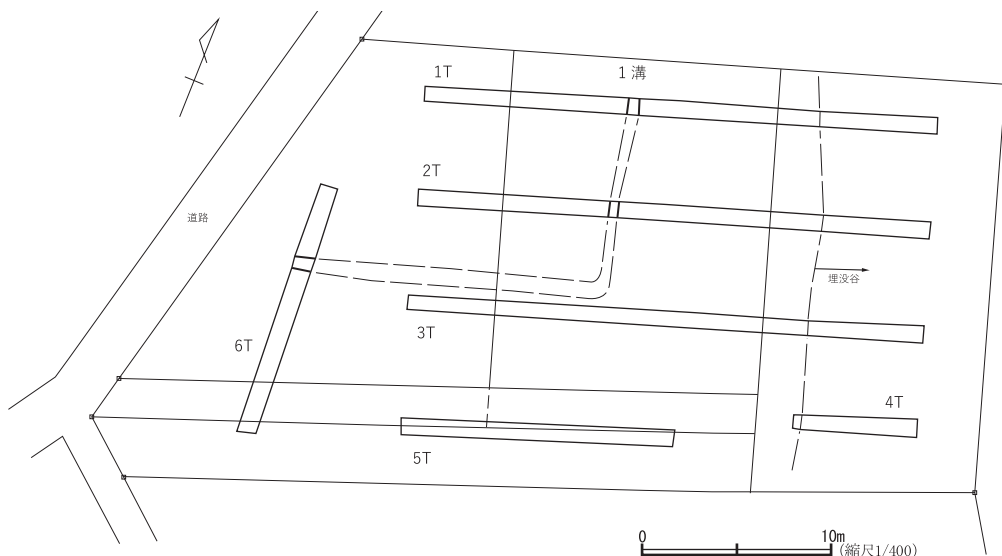
- 1 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 4 令和3年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

18 地蔵根遺跡

(1) 第8次調査報告

調査地は、那珂川低地から北に入り込む小さな谷の谷頭から150 mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2～1.2 mを測る。

調査の結果、時期不明の溝跡1条が確認された。遺物は調査区から土師器細片が少量出土したのみである。



第61図 地蔵根遺跡第8次調査区

19 老ノ塚遺跡・老ノ塚古墳群

(1) 老ノ塚遺跡第3次・老ノ塚古墳群第3次調査報告

調査地は、新川上流から南西方向に入る谷から170mほど離れた地点に位置し、北東へ若干傾斜する地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～1.1mを測る。

調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。トレンチには多くの倒木痕が認められた。

第18表 老ノ塚遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
2	2012	公社	試掘	なし	1

文献

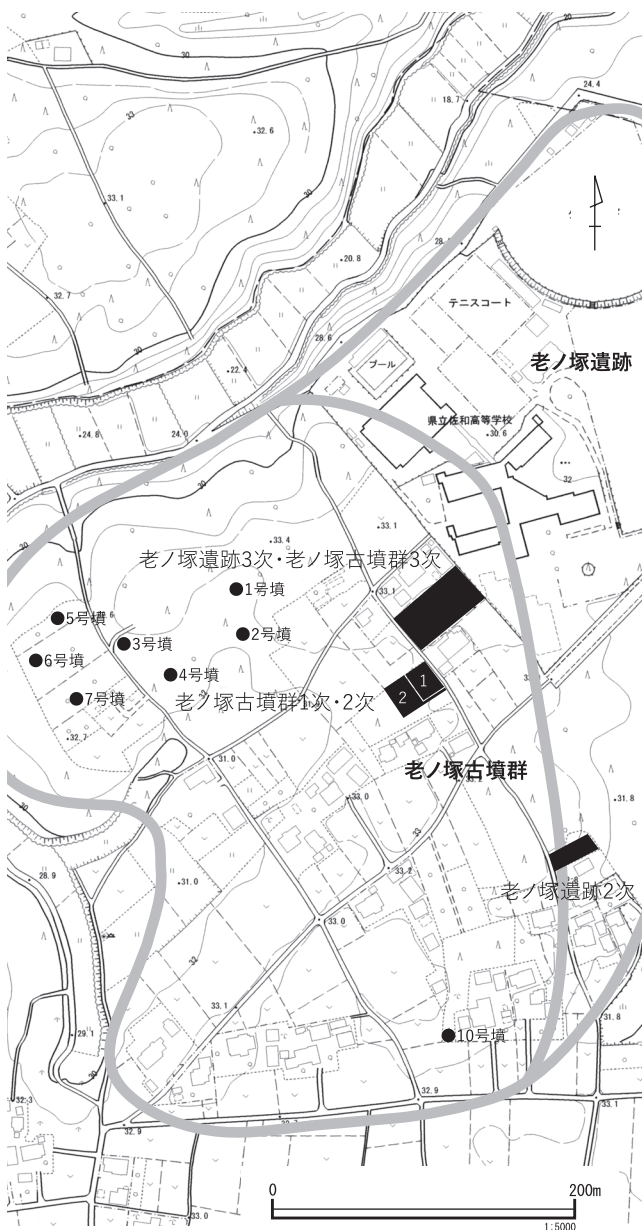
- 1 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

第19表 老ノ塚古墳群調査一覧

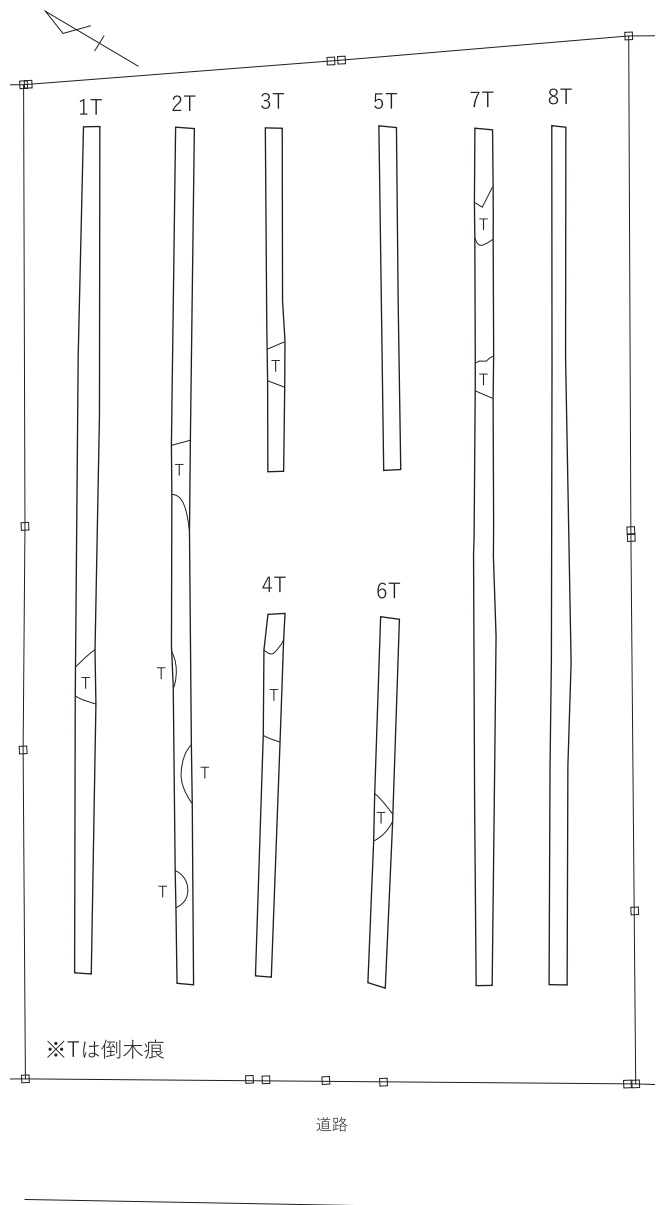
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2020	公社	試掘	なし	1
2	2020	公社	試掘	なし	1

文献

- 1 令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第63図 老ノ塚遺跡・老ノ塚古墳群の調査地点



第64図 老ノ塚遺跡第3次・老ノ塚古墳群第3次調査区

20 遠原遺跡・遠原貝塚

(1) 遠原遺跡第6次・遠原貝塚第6次調査報告

調査地は、中丸川低地との比高が約5mほどの低位段丘上に位置しており、中丸川方面に若干傾斜する地形を呈している。調査時は畑地であった。調査は10か所の



第65図 遠原遺跡・遠原貝塚の調査地点

第20表 遠原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1991	勝田市教委	試掘	なし	—
2	1997	市教委	本調査	住居跡2(縄文1, 古墳1), 土坑2	1
3	2016	公社	試掘	住居跡1(縄文1)	2
4	2017	公社	試掘	住居跡1(古墳以後)	3
5	2018	公社	試掘	住居跡5(古墳3), 土坑2	3

文献

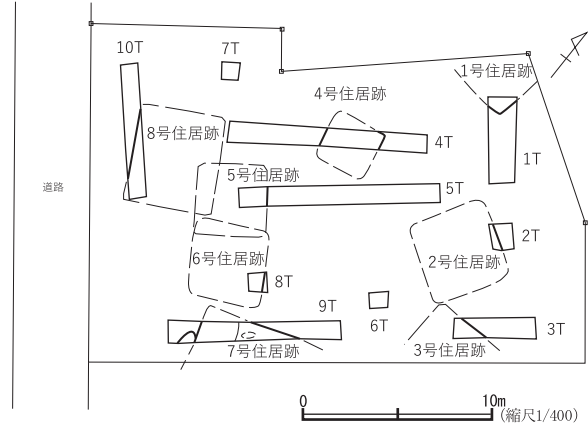
- 1 平成9年市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

第21表 遠原貝塚調査一覧

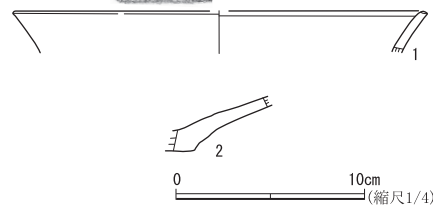
次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1975	勝田市教委	本調査	住居跡2(縄文1, 奈良1)	1
2	1978	勝田市教委	本調査	住居跡2(縄文2, 奈良・平安4)	2
3	1978	調査会	本調査	住居跡2(縄文1, 奈良・平安1), 土坑3(弥生)	3
4	1979	勝田市教委	本調査	住居跡4(縄文2, 古墳2)	4
5	1995	市教委	本調査	住居跡3(縄文1, 古墳1, 時期不明1)	5

文献

- 1 勝田市史
- 2 遠原貝塚調査報告書
- 3 遠原遺跡発掘調査報告書(3次)
- 4 遠原貝塚調査報告書
- 5 平成6年度市内遺跡発掘調査報告書



第66図 遠原遺跡第6次・遠原貝塚第6次調査区



第67図 遠原遺跡第6次・遠原貝塚第6次調査区出土遺物(1)

トレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3～0.6mを測る。

調査の結果、住居跡8基が確認された。住居跡は、4・6号住居跡が弥生時代中期、2・3・5・7・8号住居跡が古墳時代前期、1号住居跡が時期不明である。なお1号住居跡は位置からみて平成6年度調査の第1号住居址になる可能性もあろう(『平成6年度市内遺跡発掘調査報告書』)。調査区からは縄文土器、弥生土器、および古墳時代の土師器が出土している。

遺物説明

第67図

1 台帳:8トレ 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁部片 法量:口径(22.0), 器高(2.2) 色調:黒色 胎土:砂(白微, 透少) 焼成:良好 技法等:内外面ともヨコナデ。口縁端部へラ状工具による刻み。使用痕:— 備考:—

2 台帳:9トレ7住 材質:土師器 器種:壺? 残存:底部片 胎土:砂(白多, 透多) 焼成:良好 技法等:内外面ともヘラナデ。

第68図

1 出土位置・注記:10トレ8住 時代時期:縄文時代前期 文様:単節斜縄文(LRカ) 備考:胎土に繊維含む

2 出土位置・注記:10トレ8住 時代時期:弥生時代中期後半カ 文様:沈線文, 偽縄文カ

3 出土位置・注記:3トレ 時代時期:弥生時代中期後半(足洗式) 文様:沈線文(二本同時施文具) 備考:胎土に海綿骨針含む

4 出土位置・注記:2トレ 時代時期:弥生時代中期後半 文様:櫛描文(櫛歯4本), 付加条縄文(LR+2Rカ)



第 68 図 遠原遺跡第 6 次・遠原貝塚第 6 次調査区出土遺物 (2)

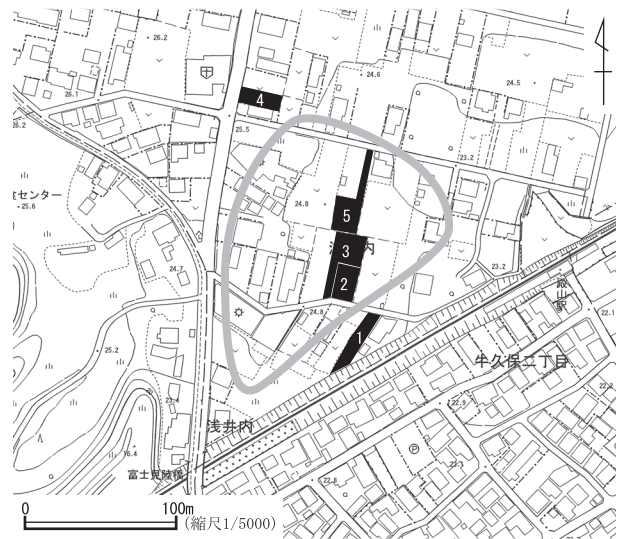
- 5 出土位置・注記：5 トレ 5 住 時代時期：弥生時代中期後半 (足洗式)
文様：沈線文 備考：器内面剥落
- 6 出土位置・注記：4 トレ 4 住 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ
文様：付加条縄文 (LR+2R カ) 備考：胎土に 2～5 mm の白色粒が多量に入る、海綿骨針多量に含む
- 7 出土位置・注記：1 トレ 時代時期：弥生時代中期 文様：条痕文
- 8 出土位置・注記：10 トレ 8 住 時代時期：弥生時代中期カ 文様：付加条縄文 (LR+2R カ)
- 9 出土位置・注記：9 トレ 7 住 時代時期：弥生時代中期 文様：反撚り縄文 (RR) カ

21 浅井内遺跡

(1) 第 5 次調査報告

調査地は、那珂湊の市街地がある低地から北東に入り込む谷の谷頭から 170 m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は 9 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.4～0.8 m を測る。

調査の結果、溝跡が 2 条確認されたが、出土遺物がなく時期は不明である。調査区からの出土遺物もなかった。



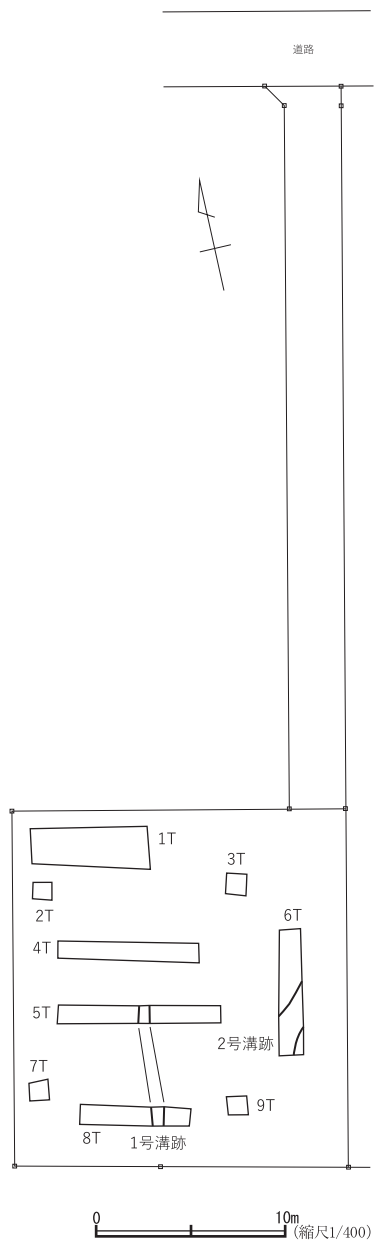
第 69 図 浅井内遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

第 22 表 浅井内遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2004	市教委	試掘	土坑 2	1
2	2018	公社	試掘	溝 1	2
3	2018	公社	試掘	ピット 1	2
4	2020	公社	試掘	なし	3

文献

- 1 平成 16 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 3 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第 70 図 浅井内遺跡第 5 次調査区

III 本調査報告

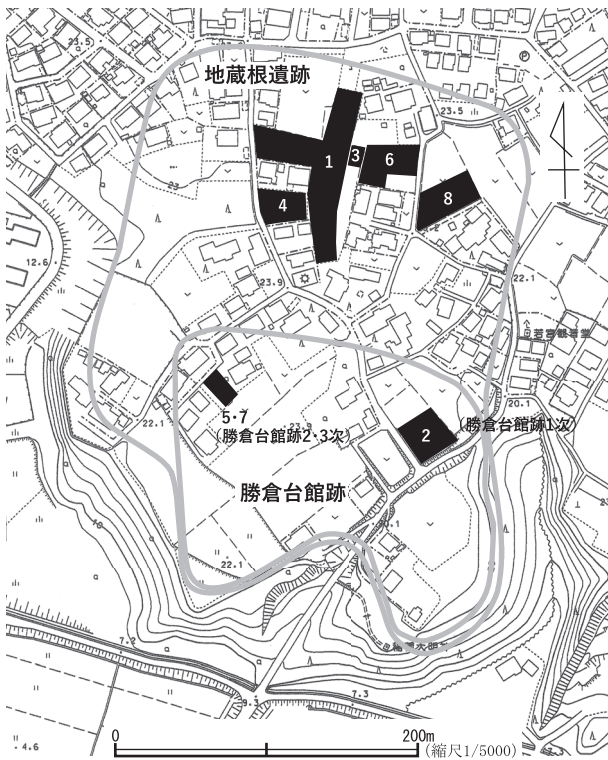
1 地蔵根遺跡第7次・勝倉台館跡第3次 調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市勝倉字地蔵根 2779 番 9, 2781 番 1
 期間 / 令和 4 年 1 月 6 日～1 月 12 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 4 m² 時代 / 不明 遺構 / 竪穴住居跡 1 基 (古墳時代前期), 溝跡 1 条 (時期不明)

調査地は, 那珂川低地を望む台地縁辺から 80 m ほど離れた地点に位置し, 平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 浄化槽部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (地蔵根遺跡第 5 次・勝倉台館跡第 2 次調査) がなされているが, 今回の調査により試掘結果とほぼ同様の遺構配置が確認されている。住居跡の番号は今回の本調査に伴い新たに付け直した。以下, 簡単に調査の経過を記す。

1 月 6 日: 調査区設定。人力による表土除去。遺構確認, 掘り込み開始。 1 月 12 日: 図面・写真による記録作業。重機による埋め戻し。現場撤収。



第 71 図 地蔵根遺跡・勝倉台館跡の調査地点
 (数字は地蔵根遺跡の調査回数)

(2) 住居跡

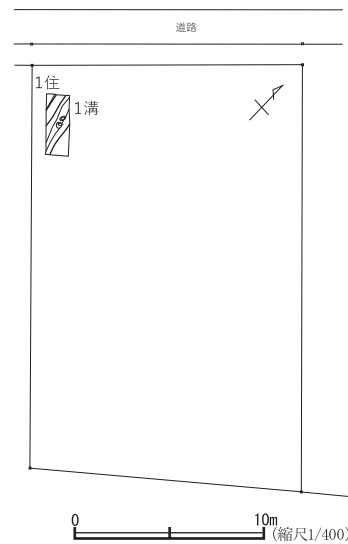
第 1 号住居跡

遺構 第 1 号住居跡は方形を呈すると思われる住居跡東壁の一部のみの調査である。東壁の深さは 0.1 m ほどである。覆土は暗褐色土で壁際に褐色土が堆積する。遺物は覆土中より外面にハケ目をもつ土師器片が 1 点出土することから, 住居跡の年代は古墳時代前期になる可能性がある。

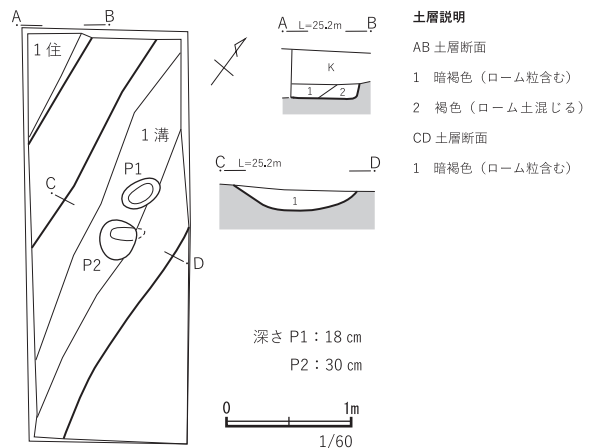
(3) 溝跡

第 1 号溝跡

遺構 第 1 号溝跡は, 確認面での幅 1.5 m, 深さ 0.2 m ほどを測り, 南北方向に伸びる溝跡である。底面にピットが掘られていた。遺物は覆土中から土師器・須恵器片とともに, かわらけの口縁部小片が 1 点認められたことから, 溝跡の年代は中世になる可能性がある。



第 72 図 地蔵根遺跡第 7 次・勝倉台館跡第 3 次調査区的位置



第 73 図 地蔵根遺跡第 7 次・勝倉台館跡第 3 次調査区

2 高野富士山遺跡第 18・19 次 調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / 18 次：ひたちなか市高野字富士山 1695 番 8 19 次：ひたちなか市高野字富士山 1695 番 9 期間 / 令和 4 年 2 月 8 日～3 月 1 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 18 次：32 m² 19 次：18 m² 時代 / 古墳時代 遺構 / 18 次：竪穴住居跡 2 基 (古墳時代 1 基, 時期不明 1 基), 土坑 1 基, ピット 16 基 19 次：竪穴住居跡 2 基 (古墳時代 1 基, 時期不明 1 基), ピット 7 基

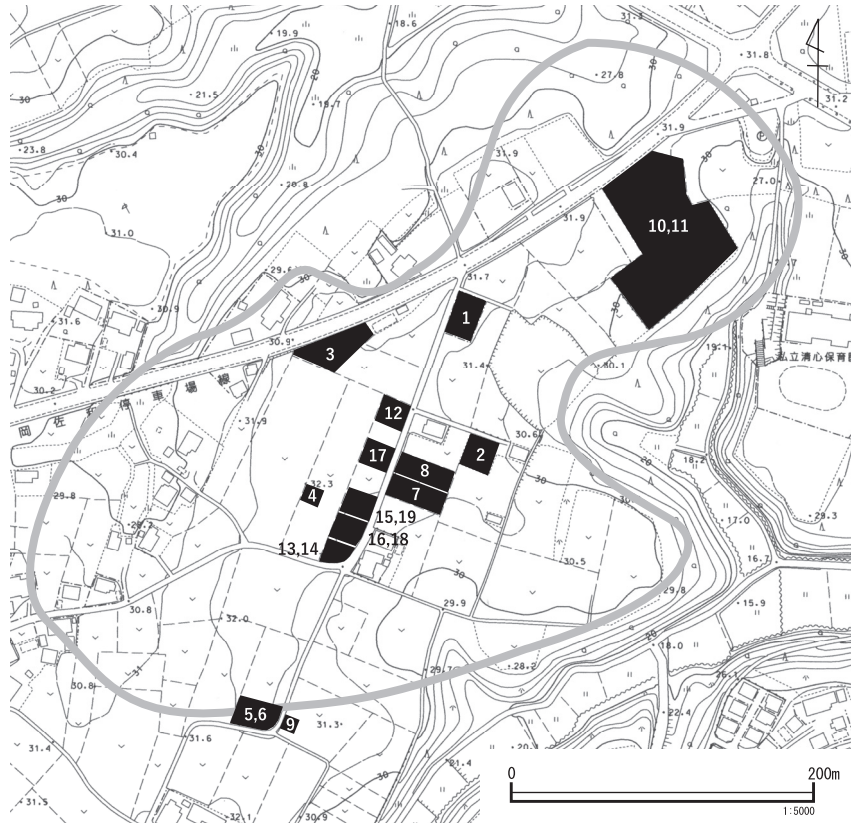
調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物および浄化槽部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 15・16 次調査) がなされているが、住居跡の番号は今回の本調査において新たに付け直した。以下、簡単に調査の経過を記す。

2 月 8 日：調査区設定。 2 月 9 日：重機による表土除去。遺構確認, 掘り込み開始。 2 月 16 日：図面・写真による記録作業開始。 2 月 22 日：調査区全体図作成。 2 月 24 日：重機による埋め戻し。 3 月 1 日：現場撤収。

(2) 第 18 次調査区

第 1 号住居跡

遺構 第 1 号住居跡は竈周辺および住居北西部のみの調査である。主軸方向は N-9° -W を測る。壁高は西壁 0.2m, 北壁 0.3m を測る。西壁の一部に壁周溝が確認された。ピットは主柱穴と思われる P1 が深さ 60cm を測る。Pit1～15 は覆土からみて近現代のピットあるいは木の根の跡であろう。床面は壁面付近を除く範囲が硬化していた。主柱穴と思われる P1 付近から西壁に向けて間仕切痕と思われる浅い窪みが認められた。竪穴部覆土は、床面付近に炭化材を含む褐色土が堆積しており、当



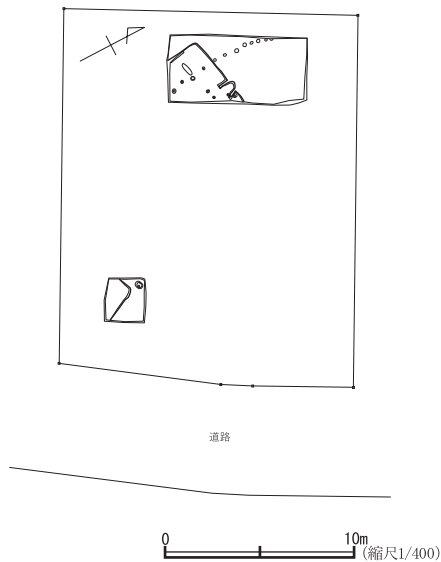
第 74 図 高野富士山遺跡の調査地点 (数字は調査回数)

第 23 表 高野富士山遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	勝田市教委	試掘	なし	1
2	1989	勝田市教委	試掘	住居 1 (古墳)	2
3	2001	市教委	本調査	土坑墓 1 (近世), 住居 1 (古墳)	3
4	2007	市教委	試掘	なし	4
5	2010	公社	試掘	住居 3 (平安), 土坑 2	5
6	2010	公社	本調査	住居 1 (平安)	5
7	2013	公社	試掘	なし	6
8	2015	公社	試掘	なし	7
9	2017	公社	試掘	なし	8
10	2017	公社	試掘	住居 3 (古墳～奈良), 溝 1	8
11	2017	毛野考古学研究所	本調査	住居 3 (奈良・平安), 土坑 1, 溝 1	9
12	2018	公社	試掘	住居 1 (古墳), 土坑 1	10
13	2020	公社	試掘	住居 2 (平安 1, 時期不明 1)	11
14	2020	公社	本調査	住居 2 (平安 1, 時期不明 1)	11
15	2021	公社	試掘	住居 2 (奈良・平安 1, 時期不明 1), 溝 1	12
16	2021	公社	試掘	住居 4 (時期不明), 溝 1	12
17	2021	公社	試掘	溝 1	12

文献

- 1 昭和 57 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成元年度勝田市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成 13 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 19 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 22 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 高野富士山遺跡
- 10 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 令和 2 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 令和 3 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第75図 高野富士山遺跡第18次調査区的位置

住居跡は火災の後、炭化材を覆うように埋められているようである(第5・6層)。それ以上の覆土は暗褐色と黒色を基調とし、自然埋土のように思われる。竈は竪穴部北壁に設置され煙道は北壁からやや突出する程度である。床面には焼土の堆積がみられた。竈材となる白色粘土は竈両脇に残っており、各々の粘土先端部には凝灰質泥岩の基部が床面に埋められていた。また、その泥岩基部を結ぶように床面からやや浮いた状態で泥岩の切り石も出土しているので(写真1)、竈焚口部を囲むように泥岩の補強材がめぐらされていたことがわかる。住居掘形はAB土層断面で確認できるが、さほど深くはないようである。

遺物出土状況 竈の周辺より完形もしくは完形に近い土器が多数出土した。第77図においてその出土状況を実測図を用いて模式的に示している。竈右脇には床上に逆

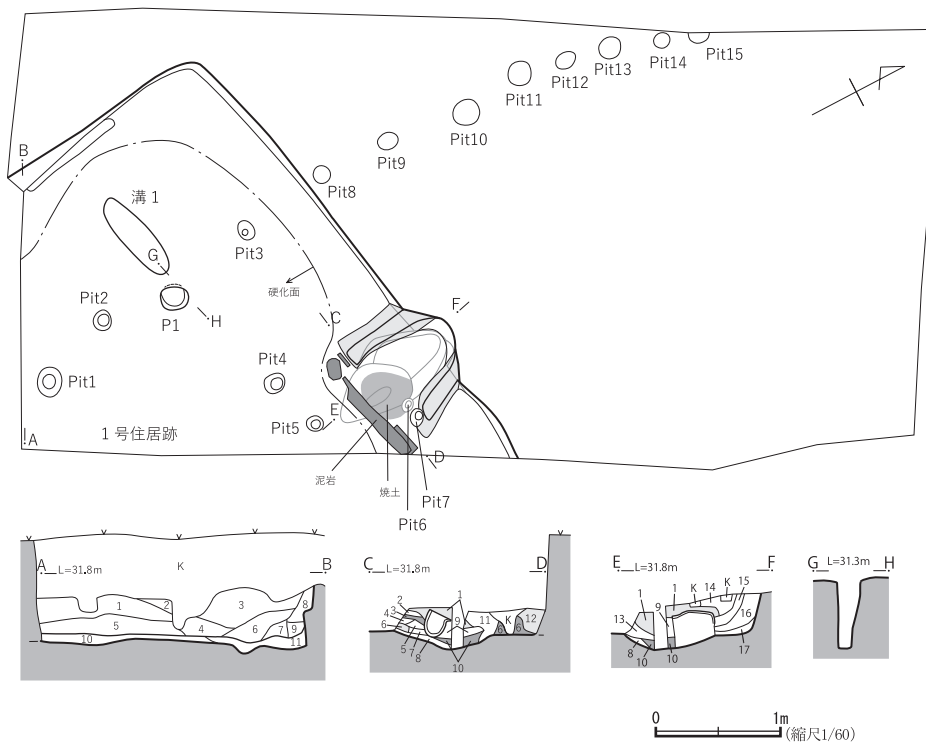


写真1 竈前の泥岩出土状況

土層説明

AB断面

- 1 暗褐色(ローム粒含む)
- 2 暗褐色(ローム粒やや多量含む)
- 3 黒褐色(ローム粒含む)
- 4 黒褐色(ローム粒・炭化物粒含む)
- 5 褐色(ローム粒多量含む 炭化物粒含む)
- 6 褐色(ローム粒多量含む 炭化材含む)
- 7 褐色(ローム粒多量含む ロームブロック・炭化材含む)
- 8 明褐色(ローム小ブロック多量含む 炭化材含む)
- 9 褐色(ローム小ブロック・炭化物粒含む)

- 10 黄褐色(ロームブロック主体 暗褐色土少量混じる)
- 11 黄褐色(ロームブロック多量含む 明褐色土混じる)

CD・EF断面

- 1 白褐色(白褐色粘土)
- 2 明褐色
- 3 橙色(焼土)
- 4 明褐色(ローム粒・炭化物粒含む)
- 5 明褐色(白褐色粘土の崩壊土混じる)
- 6 白褐色(白褐色粘土)
- 7 明褐色(焼土粒含む)

- 8 明褐色

- 9 明褐色(焼土小ブロック多量含む)
- 10 橙色(焼土)
- 11 褐色(白褐色粘土粒含む)
- 12 白褐色(白褐色粘土ブロック主体)
- 13 暗褐色(ローム粒・白褐色粘土粒含む)
- 14 明褐色(白褐色粘土崩壊土混じる)
- 15 褐色(白褐色崩壊土少量混じる)
- 16 暗褐色(白褐色粘土粒・ローム粒含む)
- 17 暗褐色(ローム粒・白褐色粘土小ブロック少量含む)

第76図 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡

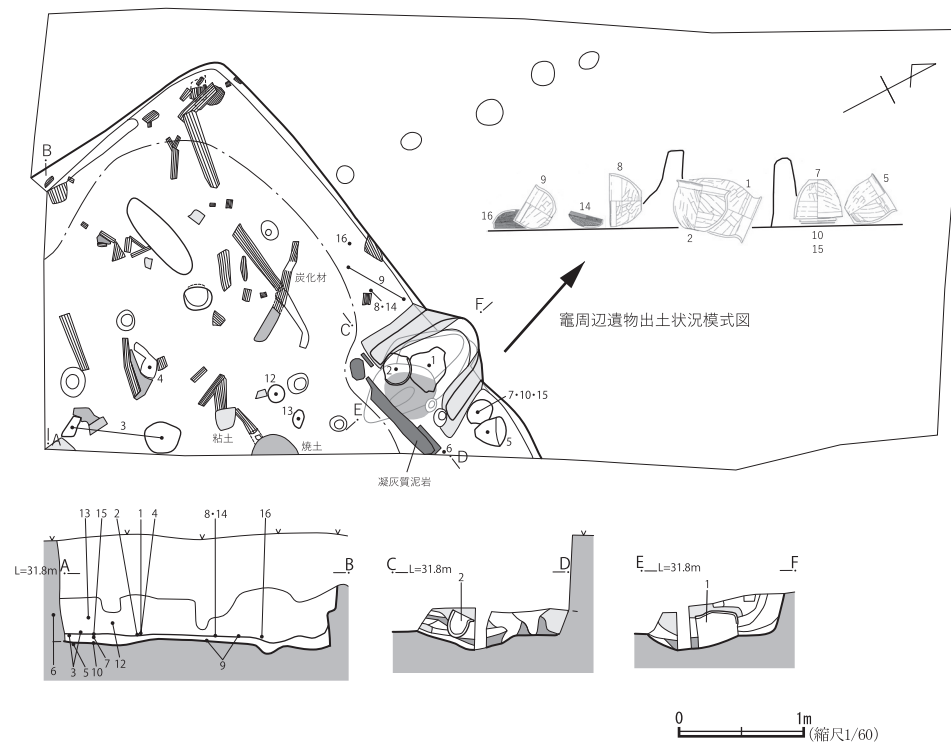
さに置いた杯 15 の上に小型の鉢 10 をかぶせるように逆さに置き、さらにその上に鉢 10 よりやや大きな鉢 7 をかぶせるように逆さに置いている。これらの土器の右脇には小型の甕 5 が上向きで置かれていたようである。竈の左側からは逆さになったり倒れたりした土器が 4 個体出土した。これらの出土状況を模式図でみると、逆さに置かれた杯 16 の上に小型の鉢 9 が逆さに置かれ、さらにその上に杯 14 が逆さに置かれ、さらにその上に鉢 8 が逆さに置かれていたものが崩れた状況を示しているのではないかと推測される。竈の中からはやや小型の甕 2 とやや大型の甕 1、さらに甕 1 の下から凝灰質泥岩製の支脚が出土している。これらはともに竈に据え付けられていたものが崩れた状況を示しているのであろう。

遺物説明

第 78 図

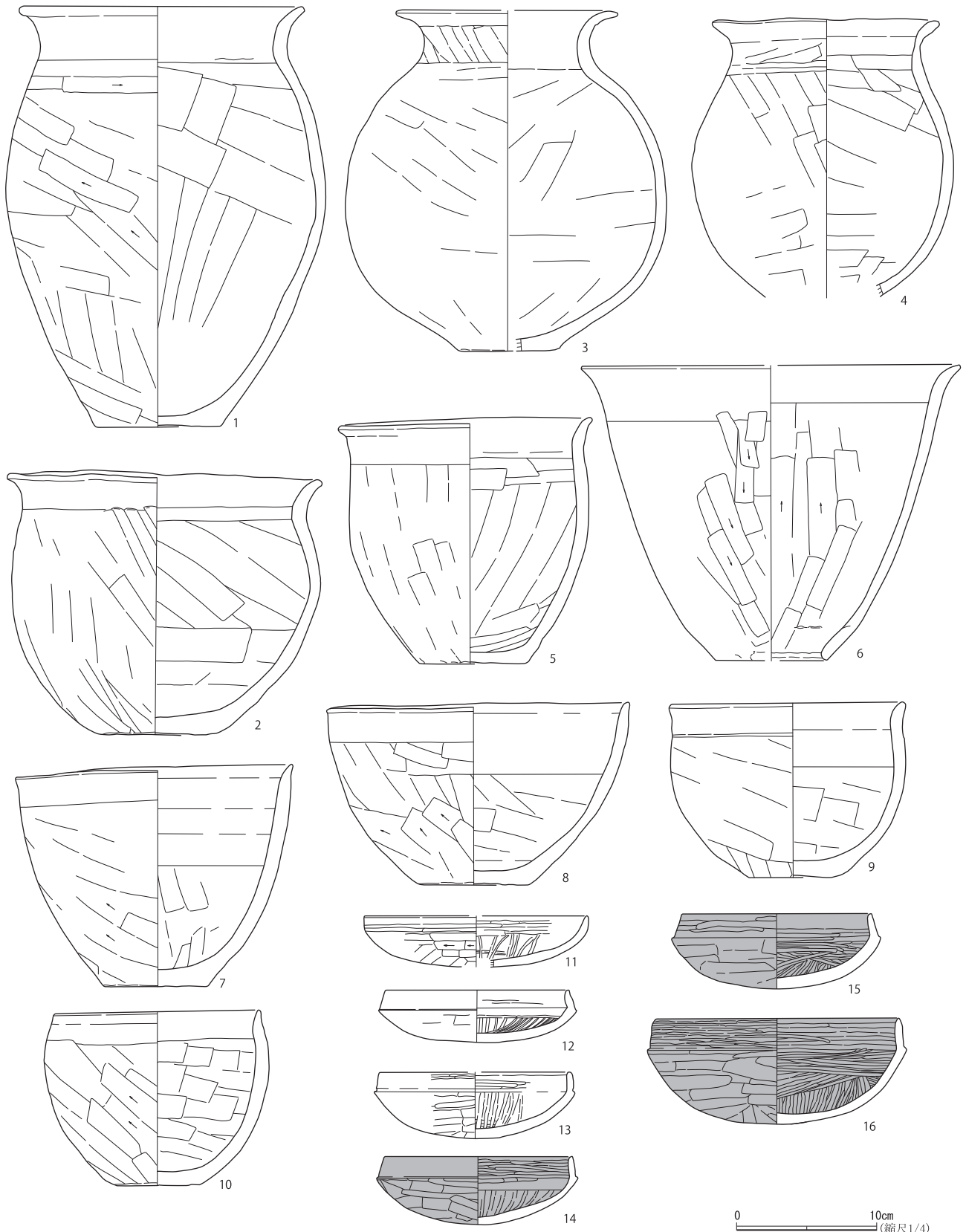
- 1 台帳：1 住 P12, カマド 材質：土師器 器種：甕 残存：70% (底部 100%) 法量：口径 20.3, 器高 30.0, 底径 9.0 色調：内外面とも浅黄橙～にぶい黄橙～暗褐色。胎土：小石 (白微), 礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ, 胴～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕：外面胴部器面が被熱し, 摩滅している。内面胴部中～下位の器面の大半が薄く剥離している。竈で使用。備考：—
- 2 台帳：1 住 P11, カマド・1 住 材質：土師器 器種：甕 残存：90% 法量：口径 21.5, 器高 18.0～18.5, 底径 9.0 色調：外面橙～にぶい黄橙～黒色。内面橙色。胎土：小石 (白微), 礫 (白少), 砂 (白多,

- 透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ, 胴～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕：胴部中位以下が被熱し, 器面の一部が剥離している (竈での使用痕か)。備考：—
- 3 台帳：1 住 P3・5, 1 住 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁～胴部中位 70%, 下位～底部 30% 法量：口径 (15.8), 器高 24.3, 底径 (7.2) 色調：外面橙～浅黄橙～黄橙色。内面浅黄橙色。胎土：砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ?。内面口縁部不明, 胴部ヘラナデ・ナデ。使用痕：外面と内面口縁部の器面が摩滅している。備考：—
- 4 台帳：1 住 P4, P3, 1 住 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部 60%, 胴部 50% 法量：口径 16.1, 器高 (19.8) 色調：にぶい黄橙～暗褐色。胎土：礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヘラナデ, 胴部ヘラ削り後ヘラナデ。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕：— 備考：器形がやや歪む。
- 5 台帳：1 住 P17 材質：土師器 器種：甕 残存：ほぼ 100% 法量：口径 18.8, 器高 17.0～17.5, 底部 7.7 色調：外面橙～にぶい黄橙～暗褐色。内面にぶい黄橙～暗褐色。胎土：小石 (白微), 礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ, 胴～底部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラナデ。使用痕：外面が被熱し, 摩滅している。内面器面の一部が斑状に剥離している。内面に暗褐色の帯状の汚れがみられる。備考：—
- 6 台帳：1 住 P18 材質：土師器 器種：甕 残存：20% 法量：口径 (26.8), 器高 21.0, 底径 (8.0) 色調：外面橙～褐色。内面橙色。胎土：礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成：両行技法等：内外面とも口縁部ヨコナデ, 胴部ヘラ削り。使用痕：— 備考：内外面とも器面が摩滅している。
- 7 台帳：1 住 P14 材質：土師器 器種：鉢 残存：口縁部 90%, 胴～底部 100% 法量：口径 19.7, 器高 14.8～15.8, 底径 7.3 色調：外面橙～にぶい黄橙～褐色～黒色。内面浅黄～にぶい黄橙～黒色。胎土：



第 77 図 高野富士山遺跡第 18 次調査区第 1 号住居跡遺物出土状況

- 小石 (白微, 灰微), 礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 技法等：外面口縁部ヨコナデ, 胴～底部ヘラ削り。内面口縁～胴部中位ヨコナデ, 下位ヘラナデ・ナデ。使用痕：外面が被熱し, 摩滅している。内面器面が斑点状に細かく剥離している。内面に暗褐色の帯状の汚れがみられる。備考：—
- 8 台帳：1 住 P9 材質：土師器 器種：鉢 残存：90% 法量：口径 21.5～23.8, 器高 12.5～13.0, 底径 7.9 色調：外面橙～にぶい黄橙～暗褐色。内面にぶい黄橙～暗褐色。胎土：小石 (白微), 礫 (白少), 砂 (白多, 透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ, 胴～底部ヘラ削り。内面口縁～胴部上位ヨコナデ, 中～下位ヘラナデ。使用痕：外面器面が被熱し, 摩滅している。備考：—
- 9 台帳：1 住 P7・10 材質：土師器 器種：鉢 残存：90% 法量：口径



第78図 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡出土遺物

16.4, 器高 12.3 ~ 12.5, 底径 6.0 色調: 外面橙~にぶい黄橙~暗褐色。内面にぶい黄橙~暗褐色。胎土: 小石(白微), 礫(白少), 砂(白多, 透多) 焼成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ, 胴~底部ヘラ削り?。内面口縁~胴部上位ヨコナデ, 中~下位ヘラナデ。使用痕: 外面器面

が被熱し, 非常に摩滅している。内面胴部器面の一部が斑状に剥離している。備考: -

10 台帳: 1住 P15 材質: 土師器 器種: 鉢 残存: 口縁部 90%, 胴~底部 100% 法量: 口径 14.5, 器高 12.2 ~ 12.5, 底径 5.9 色調: 外

面赤橙～褐色～黒色。内面にぶい黄橙～暗褐～黒色。 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴～底部へラ削り。内面口縁部ヨコナデ，胴部へラナデ。 使用痕：外面器面が被熱し，摩滅している。内面底部周辺の器面の一部が斑状に剥離している。内面に暗褐色の帯状の汚れがみられる。 備考：—

11 台帳：1住 材質：土師器 器種：杯 残存：20% 法量：口径(16.0)，器高(3.7) 色調：にぶい黄橙色。 胎土：砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部上位へラ削り後へラナデ，中～下位へラ削り。内面へラナデ・へラミガキ。 使用痕：— 備考：—

12 台帳：1住 P2 材質：土師器 器種：杯 残存：90% 法量：口径13.1，器高3.7 色調：にぶい黄橙～暗褐色。 胎土：礫(白微)，砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ？，体部へラ削り？内面口縁～体部上位ヨコナデ後一部へラミガキ，中～下位放射状にへラミガキ。 使用痕：— 備考：外面器面が非常に摩滅している。

13 台帳：1住 P1 材質：土師器 器種：杯 残存：30% 法量：口径(13.7)，器高4.7 色調：外面にぶい黄橙色。内面にぶい黄橙～黒褐色。 胎土：砂(白多，透多) 技法等：外面口縁部ヨコナデ後へラミガキ，体部へラ削り後へラナデ。内面ヨコナデ後へラミガキ，体部へラミガキ。 使用痕：— 備考：—

14 台帳：1住 P8 材質：土師器 器種：杯 残存：80% 法量：口径13.3，器高4.8 色調：外面にぶい橙～黄橙～褐～黒褐色。内面褐～黒褐色。 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部へラ削り後へラナデ。内面口縁～体部上位ヨコナデ後へラミガキ，中～下位放射状にへラミガキ。内外面とも黒色処理。 使用痕：口縁端部が摩滅している。 備考：—

15 台帳：1住 P16 材質：土師器 器種：杯 残存：ほぼ100% 法量：口径13.5，器高5.3 色調：外面赤橙～黒褐色。内面黒褐色。 胎土：礫(白

微)，砂(白多，透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ後へラミガキ，体部へラ削り後へラミガキ。内面口縁部ヨコナデ後へラミガキ，体部へラミガキ。内外面とも黒色処理。 使用痕：口縁端部が摩滅している。 備考：外面器面全体が被熱している。

16 台帳：1住 P6 材質：土師器 器種：杯 残存：60% 法量：口径17.3，器高7.5 色調：外面橙～にぶい橙～褐～暗褐～黒褐色。内面褐～暗褐～黒褐色。 胎土：礫(白微)，砂(白少，透多) 焼成：良好 技法等：外面口縁部へラミガキ，体部へラ削り後へラナデ。内面へラミガキ。内外面とも黒色処理。 使用痕：口縁端部が摩滅している。 備考：外面の一部が被熱している。

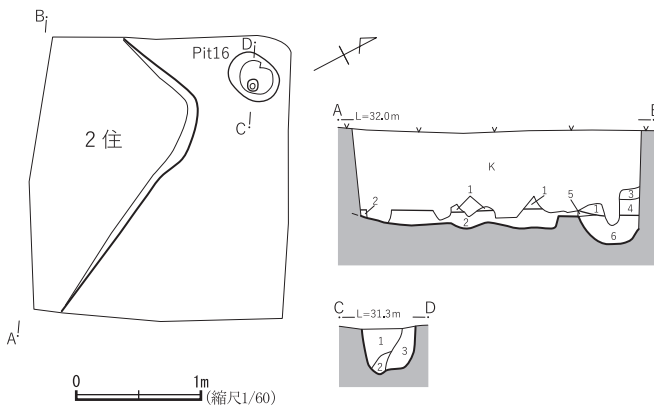
第2号住居跡

遺構 第2号住居跡は住居北東隅部のみの調査である。主軸方向は竈が北壁にあるとするとN-27° -Wを測る。壁高は東壁0.1m，北壁0.1mを測る。壁周溝・ピット・床面硬化範囲は確認されなかった。竪穴部覆土は床面付近に褐色土が堆積しているが，攪乱により大部分は不明である。住居掘形はAB土層断面で確認できるが，やや深い掘形をもつようである。なお住居跡北東隅の外側に深さ36cmを測るPit16があるが，住居跡との関係は不明である。遺物は土師器小片が少量出土したのみである。

(3) 第19次調査区

第1号住居跡

遺構 第1号住居跡は住居跡西部一部分のみの調査である。主軸方向は竈が北壁にあるとするとN-23° -Wを測る。壁高は西壁0.3mを測る。壁周溝は認められない。ピットはP1が深さ15cmを測り，位置や硬化面との関係からみて支柱の可能性があろう。P2は深さ14cmを測り，位置からみて後世のピットかもし



土層説明

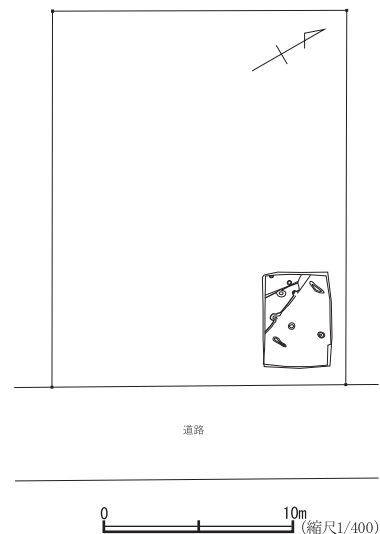
AB断面

- 1 褐色(ローム粒多量含む)
- 2 黄褐色(黒褐色土小ブロック含む ロームブロック主体)
- 3 暗褐色(ローム小ブロック多量含む)
- 4 暗褐色(ローム粒やや多量含む)
- 5 灰褐色(ローム粒多量含む)
- 6 褐色(ローム小ブロック多量含む 黒褐色土混じる)

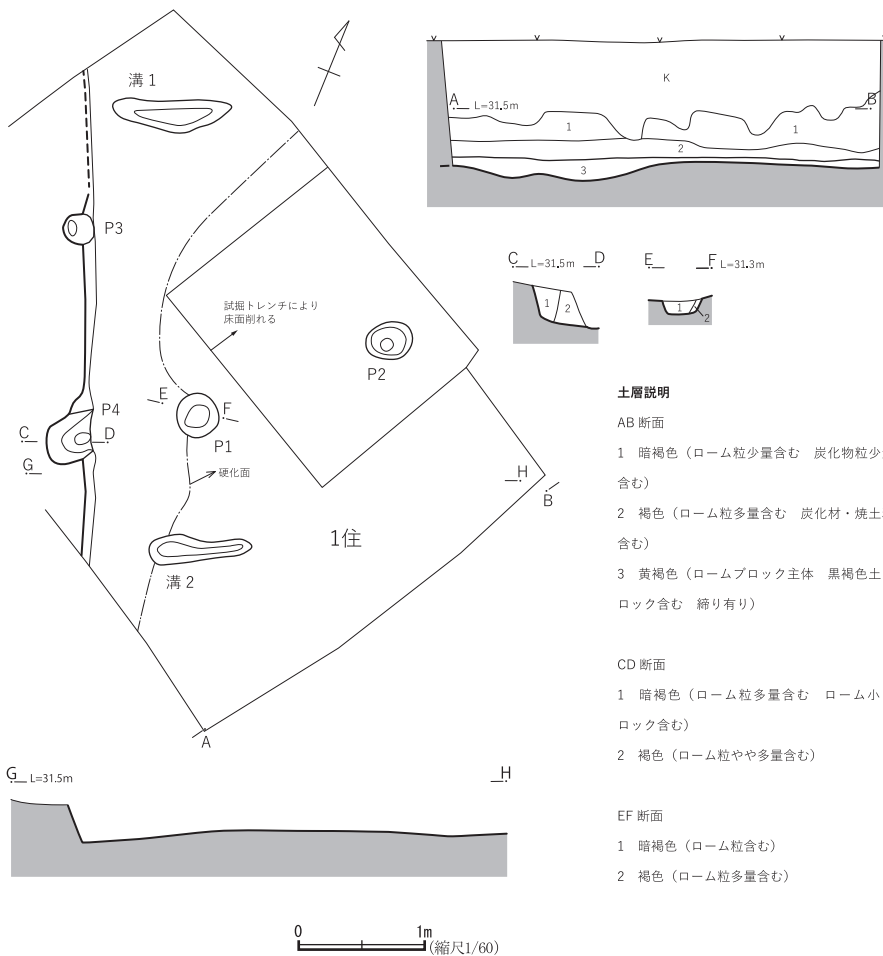
CD断面

- 1 褐色(ローム粒多量，ローム小ブロック少量含む)
- 2 暗褐色(ローム粒多量に含む)
- 3 黒褐色(ローム粒，ローム小ブロック少量含む)

第79図 高野富士山遺跡第18次調査区第2号住居跡



第80図 高野富士山遺跡第19次調査区的位置



- 一 備考：—
- 2 台帳：1住 材質：土師質 種類：粘土塊？
 法量：長5.3, 幅5.0, 厚2.8, 重量54.52g
 備考：一面のみ平坦。
- 3 台帳：1住 材質：土師質 種類：粘土塊？
 法量：長4.5, 幅2.5, 厚2.1, 重量16.59g
 備考：—

第2号住居跡

遺構 第2号住居跡は住居跡東壁の一部のみの調査である。主軸方向は竈が北壁にあるとするとN-4°-Eを測る。壁高は東壁0.1mを測る。壁周溝は認められない。ピットの深さはP1：22cm, P2：6cm, P3：31cmを測る。住居跡との関係は不明である。床面は壁面付近を除く範囲が硬化していた。竪穴部覆土は、床面付近に茶褐色土が堆積し、その上に黒茶褐色土が堆積する。人為的埋土かどうかは不明である。

遺物出土状況 遺物は土師器小片が1片出土したのみである。

第81図 高野富士山遺跡第19次調査区第1号住居跡

れない。P3・P4は壁柱穴と思われ、いずれも床面近くまで掘り込まれている。床面は壁面付近を除く範囲が硬化していた。西壁に直交するように間仕切痕と思われる長さの短い浅い窪みが認められた。竪穴部覆土は、床面付近に炭化材を含む褐色土が堆積しており、当住居跡は火災の後、炭化材を覆うように埋められた可能性がある（第2層）。その上の覆土は暗褐色を基調とし自然埋土のように思われる。住居掘形はAB土層断面で確認できるが、さほど深くはないようである。

遺物出土状況 遺物は覆土中より須恵器杯(1)、焼けた粘土塊(2・3)および土師器片が出土している。須恵器杯は器形及び内面中央部のナデ痕などからみて、東海村馬頭根窯産かもしれない。

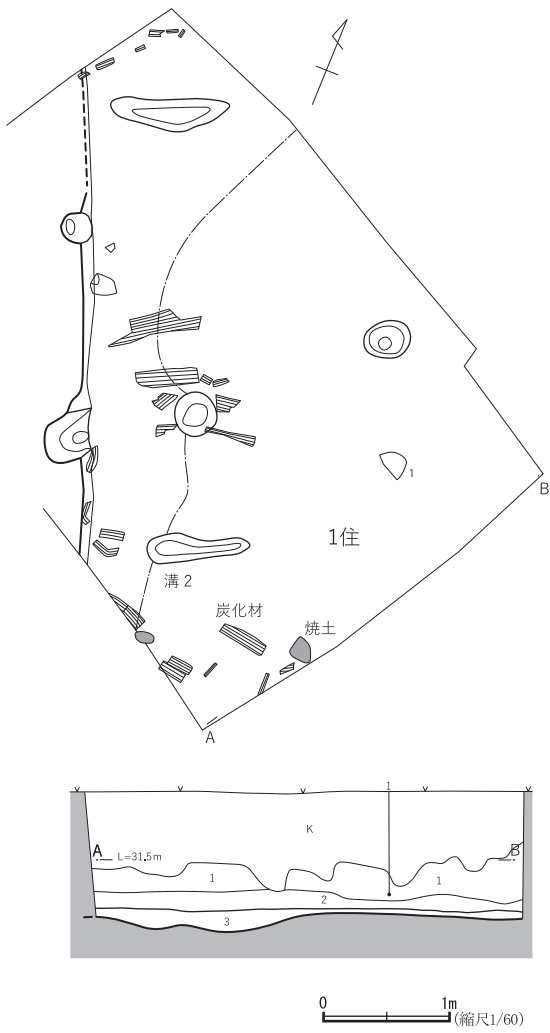
遺物説明

第82図

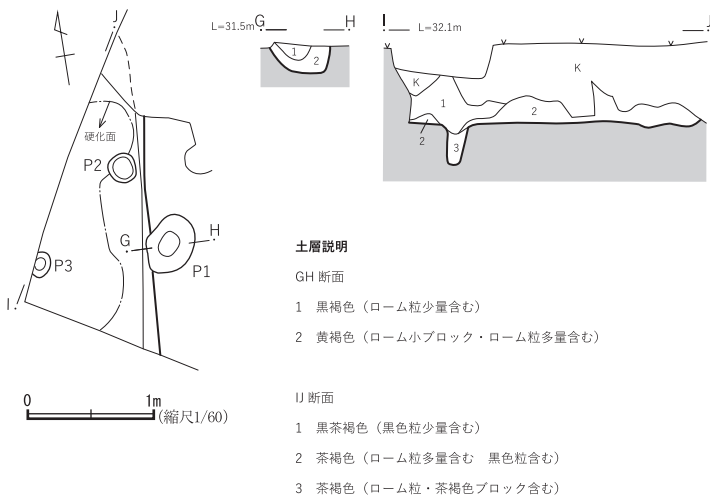
1 台帳：1住 P2, 1住 材質：須恵器 器種：杯 残存：50% 法量：口径9.6, 器高3.5 色調：灰～黒色。胎土：礫(白微), 砂(白少) 焼成：硬質 技法等：底部内面中央部一方向ナデ。底部外面ヘラ記号。使用痕：



第82図 高野富士山遺跡第19次調査区第1号住居跡出土遺物



第 83 図 高野富士山遺跡第 19 次調査区第 1 号住居跡遺物出土状況



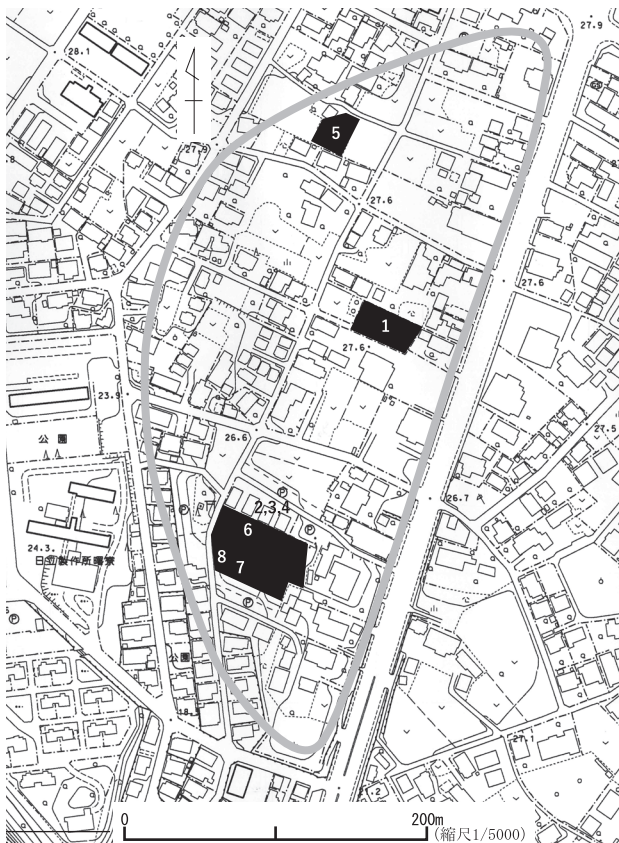
第 84 図 高野富士山遺跡第 19 次調査区第 2 号住居跡

3 市毛遺跡第6・7次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 /6次：ひたちなか市市毛字上坪 1110 番 3, 同番
4・7次：市毛字上坪 1110 番 9 期間 /6次：令和 4 年
4 月 13 日～5 月 11 日 7次：4 月 13 日～5 月 12 日
担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 /6次：54 m² 7次：
41 m² 時代 / 古墳～平安時代 遺構 /6次：竪穴住居跡
3 基 (奈良時代 1 基, 平安時代 1 基, 時期不明 1 基),
土坑 5 基 (平安時代) 7次：竪穴住居跡 1 基 (古墳時代)
調査地は、那珂川から北方に入り込む浅い谷の東側台
地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査時はすでに土
盛りが施された宅地となっていた。今回の調査は個人住
宅建築に伴う発掘調査であり、宅地部分を中心に調査
区が設定された。当地区は試掘調査 (第 2～4 次調査)
がなされているが、住居跡の番号は今回の本調査におい
て新たに付け直した。(6次:27 住→1 住, 12 住→2 住,
12 土坑→3 土坑, 3 土坑→5 土坑, 7次:24 住→1 住)
以下、簡単に調査の経過を記す。

4 月 13 日：調査区設定。 4 月 19 日：重機による表
土除去。遺構確認、掘り込み開始。 4 月 22 日：図面



第 85 図 市毛遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

作成開始。 5 月 6 日：第 6 次調査終了。 5 月 10 日：
重機による埋め戻し開始。第 7 次調査終了。 5 月 11 日：
第 6 次調査区現場撤収。 5 月 12 日：第 7 次調査区現
場撤収。

(2) 第 6 次調査区

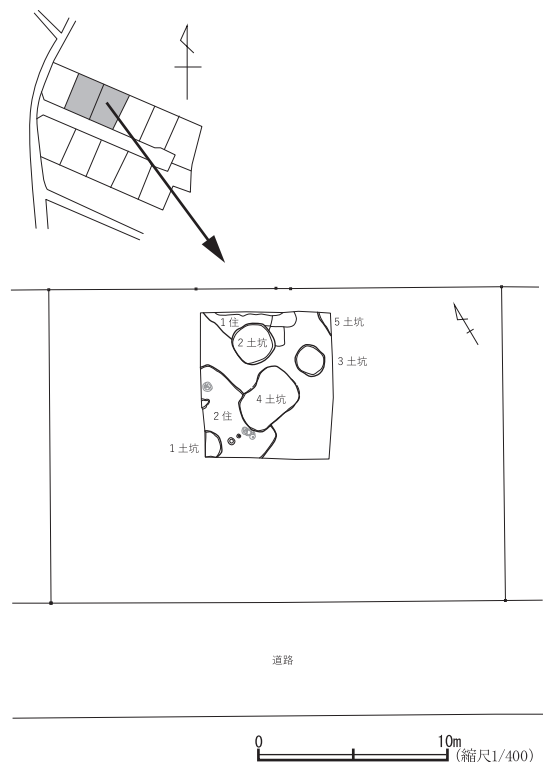
A. 住居跡

第 1 号住居跡

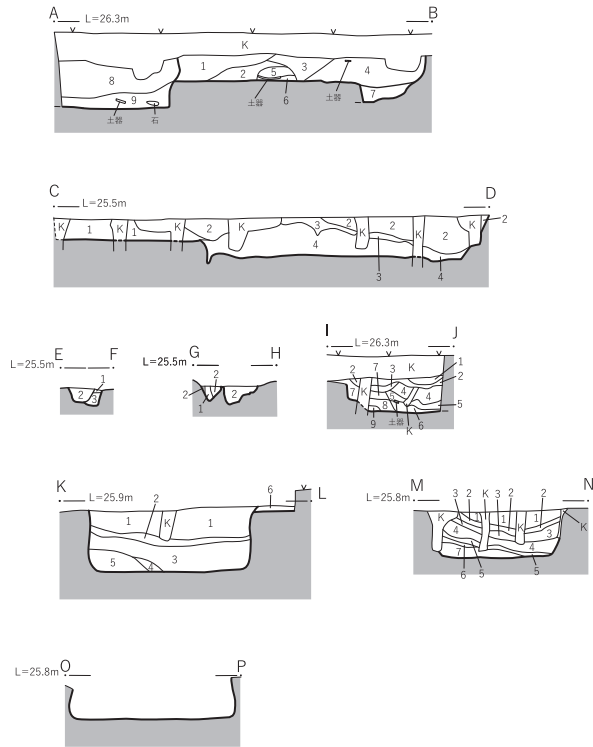
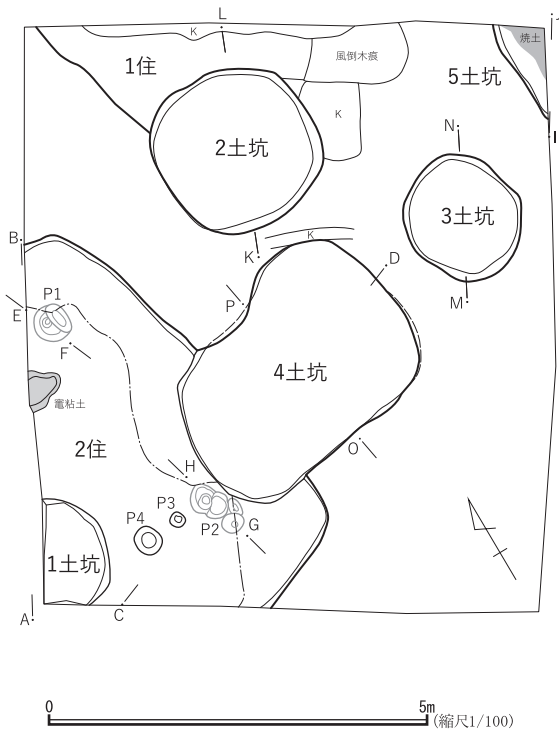
遺構 第 1 号住居跡は南西部分床面のみ調査であ
り、2 号土坑や攪乱により壊されており遺存状況は良く
なかった。竪穴部の規模・形状は不明である。主軸方向
も不明。壁周溝・ピットは確認されなかった。遺物もな
く時期は不明である。

第 2 号住居跡

遺構 第 2 号住居跡は竈部を除く住居東側部のみ
の調査である。1・4 号土坑と重複し、土坑のほうが新し
い。主軸方向は N-10° -W を測る。壁高は東壁 0.3m,
南壁 0.3m を測る。壁周溝は確認されなかった。床面で
支柱穴が確認できなかったため、支柱穴は住居掘形まで
床面の一部を掘削して確認した。その結果 P 1 と P 2 の
支柱穴が確認できた。床面からのピットの深さは P1 が
46cm, P2 が 45cm, P3 が 9cm, P4 が 12cm を測る。
P3・4 は位置からみて後世のピットかもしれない。床面



第 86 図 市毛遺跡第 6 次調査区的位置



土層説明

AB 断面

- 1 暗褐色（ローム粒多量含む ロームブロック・黒色土小ブロック含む）
- 2 暗褐色（ローム粒やや多量含む ローム小ブロック少量含む 黒色土混じる）
- 3 暗褐色（ローム粒含む ローム小ブロック少量含む 黒色土混じる）
- 4 褐色（ローム粒多量含む 黒色土小ブロック少量含む）
- 5 白褐色（カマド粘土の崩壊土）
- 6 暗灰色（白褐色粒含む）
- 7 明褐色（ローム粒非常に多量含む 1 住の堀形埋土）
- 8 褐色（ローム小ブロック・ローム粒多量含む）
- 9 黒褐色（ローム粒含む）

CD 断面

- 1 黄茶褐色（ローム小ブロック・ローム粒多量含む ローム大ブロック少量含む 黒色小ブロック含む）
- 2 茶褐色（ローム小ブロック・ローム粒・炭化物・焼土粒少量含む）
- 3 茶褐色（ローム大ブロック・ローム粒多量含む 焼土粒微量含む）
- 4 黄茶褐色（ローム粒多量含む ロームブロック・黒色小ブロック少量含む 焼土粒少量含む）

EF 断面

- 1 茶褐色（ローム粒含む）
- 2 黄茶褐色（ローム小ブロック・黒色土小ブロック多量含む）
- 3 黄褐色（ローム土）

GH 断面

- 1 黄茶褐色（ローム粒多量含む 焼土粒微量含む）
- 2 茶褐色（ローム小ブロック・ローム粒多量含む 黒色小ブロック・黒色粒・焼土粒少量含む）

IJ 断面

- 1 暗褐色（ローム小ブロック多量含む 黒色土混じる）
- 2 暗褐色（ローム粒含む）
- 3 暗褐色（ローム小ブロック含む 黒色土混じる）
- 4 暗褐色（ローム粒やや多量含む 焼土粒少量含む 黒色土混じる）
- 5 白褐色（白色粘土と焼土の混合層）
- 6 暗褐色（ローム粒含む）
- 7 暗褐色（ローム小ブロック多量含む 黒色土混じる）
- 8 黄褐色（ローム土）
- 9 褐色（ローム粒含む）

KL 断面

- 1 暗褐色（ローム粒やや多量含む ローム小ブロック含む）
- 2 黒褐色（ローム粒含む）
- 3 暗褐色（ローム小ブロック・ローム粒多量含む）
- 4 黒褐色（ローム小ブロック多量含む ローム粒やや多量含む）
- 5 暗褐色（ローム小ブロック多量含む ローム粒やや多量含む）
- 6 黄褐色（ローム土主体 1 住堀形埋土）

MN 断面

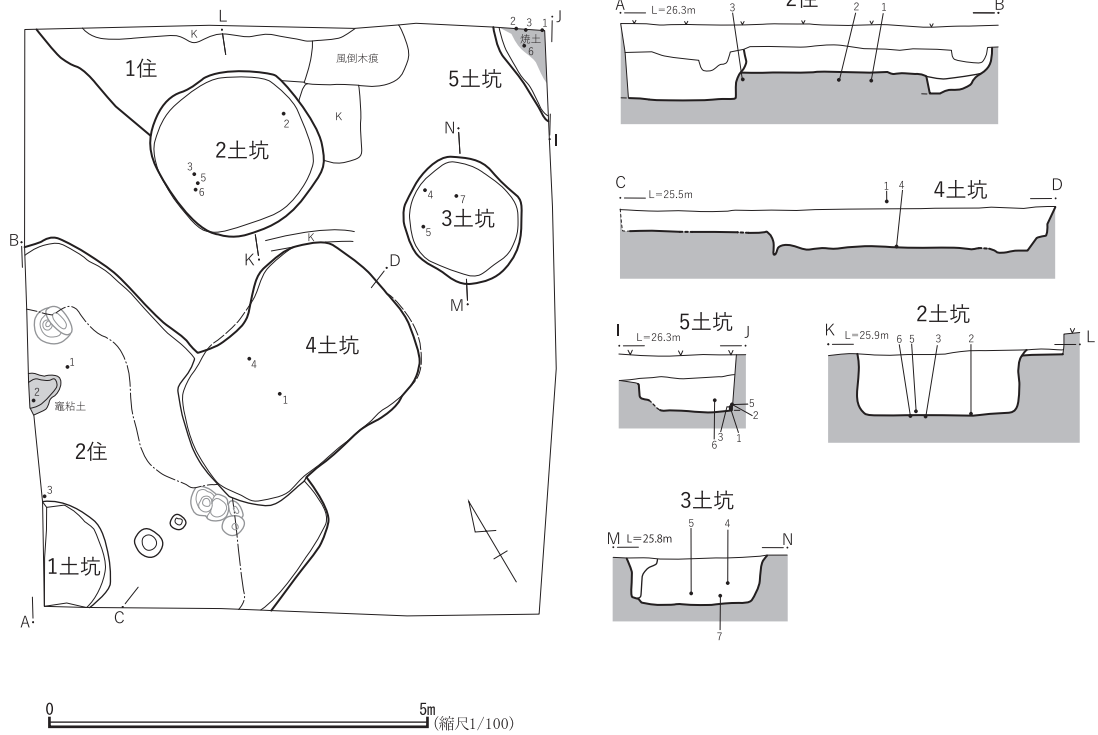
- 1 黒褐色（ローム粒・焼土粒少量含む 炭化物微量含む）
- 2 黄茶褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む 焼土粒微量含む）
- 3 黒褐色（ローム粒・焼土粒微量含む）
- 4 黒褐色（ローム大ブロック・焼土粒少量含む）
- 5 黄茶褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む 黒色小ブロック微量含む）
- 6 黒褐色（ローム粒微量含む）
- 7 黄茶褐色（ローム小ブロック・ローム粒多量含む 焼土粒・炭化物少量含む）

第 87 図 市毛遺跡第 6 次調査区

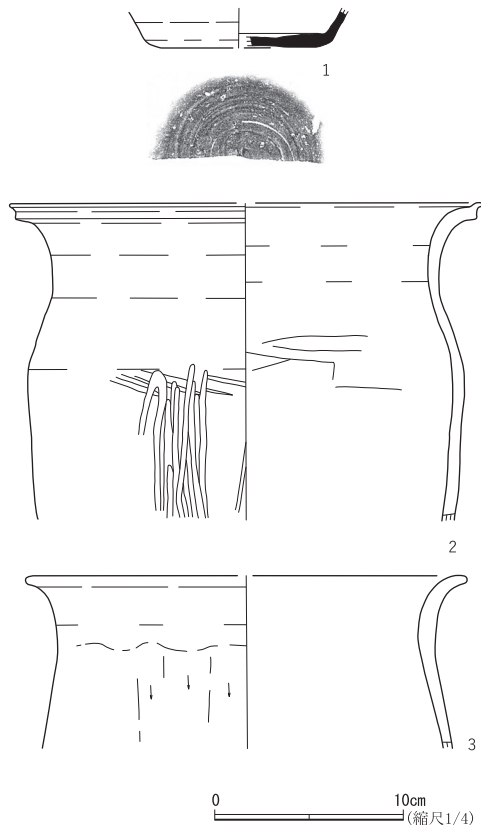
は支柱穴の内側の範囲が硬化していた。竪穴部覆土は暗褐色土を基調としており、人為的埋土かどうかは明らかではない。竈は床面に残っていた竈粘土の位置からみて、竪穴部北壁に設置されていたものであろう。住居掘形は

AB 土層断面で一部深さが確認でき、20cm ほど掘り込まれるようである。

遺物出土状況 遺物は床面から須恵器杯破片（1）、土師器甕（2・3）破片が出土している。遺物からみて 8



第88図 市毛遺跡第6次調査区遺物出土状況



第89図 市毛遺跡第6次調査区第2号住居跡出土遺物

世紀第2四半期頃の住居跡であろう。

遺物説明

第89図

1 出土位置：2住 注記：P2 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部

50% 法量：底径（9.8） 色調：灰色 胎土：礫（白少，灰少），砂（白），骨針 技法等：底部外面回転へら削り。外面底部周縁摩滅。備考：木葉下産か

2 出土位置：2住 注記P5 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部45%，胴部上半30% 法量：口径（24.6） 色調：外面明褐色，内面橙褐色 胎土：礫（白透多），白雲母多 技法等：口縁部ヨコナデ。胴部外面縦方向へらミガキ。肩部外面にへら圧痕残る。胴部内面横方向へらナデ。

3 出土位置：2住 注記：P4 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10% 法量：口径（22.5） 色調：橙褐色 胎土：礫（白透多，灰） 技法等：口縁部ヨコナデ。胴部外面縦方向へら削り。胴部内面ナデ。

B. 土坑

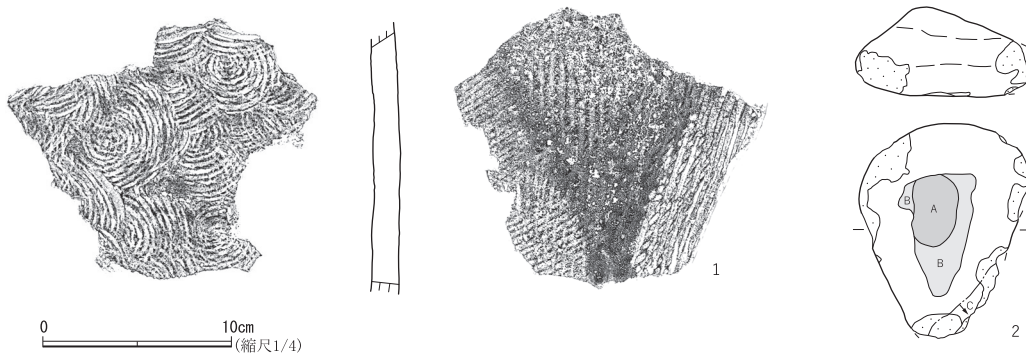
第1号土坑

第1号土坑は東半部のみ調査であるが、径1.5mを測る円形の土坑と思われる。2号住居跡と重複し、新旧関係は2住→1土坑となる。遺構確認面からの深さは0.6mを測り床面は平坦である。覆土は床面近くに自然埋土と思われる黒褐色土が堆積した後、人為的埋土と考えられるローム小ブロックを多量に含む褐色土が堆積する。遺物は須恵器大甕の胴部片と敲石が出土した。

遺物説明

第90図

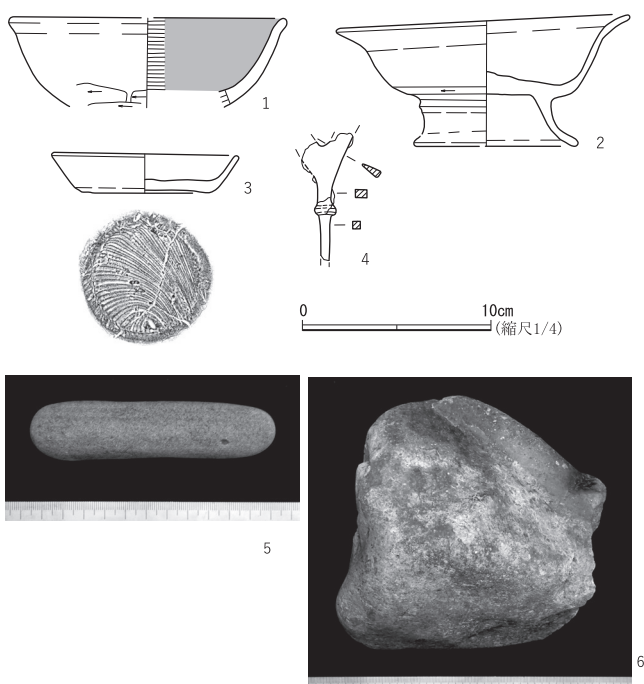
1 出土位置：1土坑 注記：SK1 材質：須恵器 器種：甕 残存：胴部片 法量：一 色調：暗灰色 胎土：礫（白透多） 技法等：外面平行



第90図 市毛遺跡第6次調査区第1号土坑出土遺物

の後少しの間放置されていたのかもしれない。遺物は土師器椀・小皿，鉄鏃，礫が出土している。小皿の法量からみて11世紀第2四半期頃に位置づけられよう。

遺物説明



第91図 市毛遺跡第6次調査区第2号土坑出土遺物

線文叩き，内面同心円文叩き。外面自然釉。

2 出土位置：1土坑 注記：SK1 材質：石 器種：敲石 残存：部分的に欠失する 法量：重量 438.2g 色調：明褐色 特徴：平坦面に敲打痕 A・B がみられる。A は B よりやや敲打痕が深めである。C の部分は火を受けて赤色化している。周縁が所々欠けており，敲打による可能性がある。備考：「珪化変質デイサイト？ 斑状，塊状，石基微晶質，黄褐色。斑晶（石英，溶脱痕）。外形は自然礫。」（矢野徳也氏による）

第2号土坑

第2号土坑は径2.2mを測る円形の土坑である。1号住居跡と重複し，新旧関係は1住→2土坑となる。遺構確認面からの深さは0.8mを測り床面は平坦である。壁が若干オーバーハング気味となる。覆土は下層が人為的埋土の可能性のあるローム小ブロックを多量に含む暗褐色土となる。上層の第1層もローム小ブロックを含むので人為的埋土であろうか。下層と上層の間に薄く自然埋土と思われる黒褐色土層を挟むので，下層の埋め戻し

第91図

1 出土位置：2土坑 注記：1区 材質：土師器 器種：椀 残存：体部15% 法量：口径（14.3） 色調：外面明褐色，内面黒色 胎土：礫（白少），砂（白透少，灰少，高温型石英） 技法等：外面体部下端手持ちヘラ削り。内面ヘラミガキ・黒色処理。

2 出土位置：2土坑 注記：P2, 1区, 2区 材質：土師器 器種：椀 残存：体部30%欠，高台下半40%欠 法量：口径15.2，器高6.6，高台径（8.3） 色調：明橙褐色，明褐色 胎土：礫（白少，灰少，白透少），砂（透多，白，灰少），黒雲母少 技法等：外面底部外周回転ヘラ削り・2次焼成。

3 出土位置：2土坑 注記：P1 材質：土師器 器種：小皿 残存：体部35%欠 法量：口径9.6，器高2.1，底径6.7 色調：明橙褐色 胎土：砂（白透少），胎土中の砂粒少ない 技法等：回転糸切り

4 出土位置：2土坑 注記：1区 材質：鉄製品 器種：雁又鏃 残存：刃部と茎部先端を欠く 法量：重量15.2g

5 出土位置：2土坑 注記：S2 材質：石 器種：不明 残存：完形 法量：長11.5，幅2.6，重量136.0g 色調：灰色 特徴：表面が全体的に滑らかに磨滅している。備考：「アレナイト質中粒砂岩。弱い層状，淘汰やや良い，円磨悪い，固結良い。帯褐灰白色。砂粒（石英，チャート，真岩）。外形は長円柱状の自然礫。」（矢野徳也氏による）

6 出土位置：2土坑 注記：S1 材質：石 器種：不明 残存：一部欠ける 法量：13.7×16.8，重量3641g 色調：褐色～茶褐色 特徴：自然礫 備考：「珪化溶結凝灰岩。塊状，不均一。角礫状組織や石英による置換組織がみられる。鉱物（石英，長石），葉片状の溶結組織と思われるものあり。全体が被熱による赤褐色変質。外形は自然礫（亜角礫）で一部欠損。」（矢野徳也氏による）

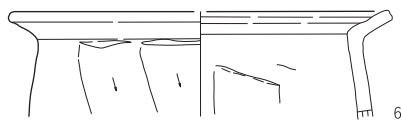
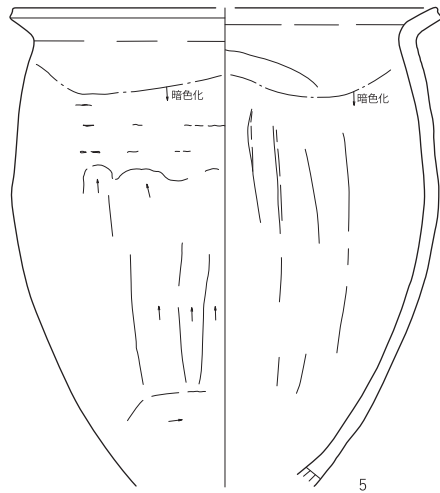
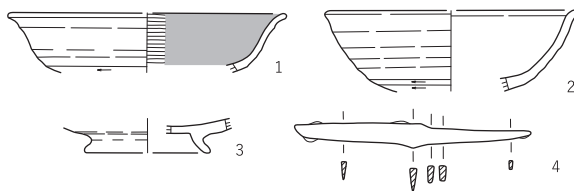
第3号土坑

第3号土坑は径1.6mを測る円形の土坑である。遺構確認面からの深さは0.6mを測り床面は平坦である。覆土は黄茶褐色土と黒褐色土が互層になっており，黄茶褐色土が人為的埋土と思われる。遺物は土師器椀・甕，刀子，礫が出土している。

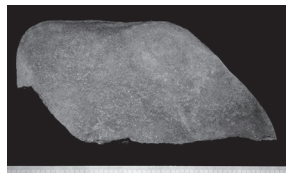
遺物説明

第92図

1 出土位置：3土坑 注記：SK3 材質：土師器 器種：椀 残存：体部15% 法量：口径（14.4） 色調：外面褐色・口縁部暗褐色，内面黒色



0 10cm (縮尺1/4)



7

第92図 市毛遺跡第6次調査区第3号土坑出土遺物

胎土：礫（明褐色少）、砂（暗灰少）、骨針微量 技法等：外面底部外周回転ヘラ削り。内面ヘラミガキ・黒色処理。

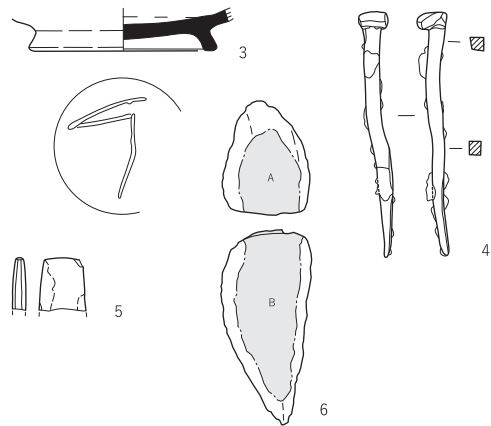
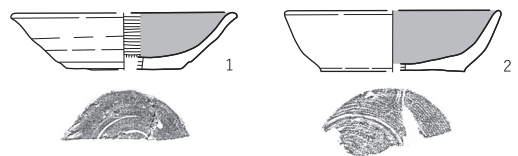
2 出土位置：3土坑 注記：SK3 材質：土師器 器種：椀 残存：体部40% 法量：口径（13.0）色調：橙褐色 胎土：砂（灰、透、白少）技法等：外面底部外周回転ヘラ削り。

3 出土位置：3土坑 注記：SK3 材質：土師器 器種：椀 残存：底部20%（高台部10%） 法量：高台径（6.4）色調：外面明橙褐色、内面明橙褐色 胎土：黒雲母細片多 技法等：—

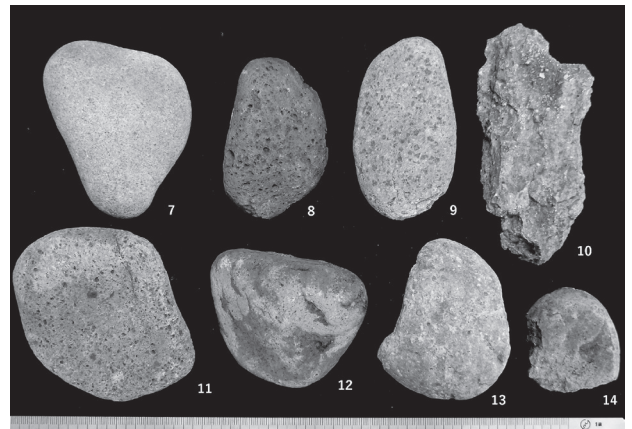
4 出土位置：3土坑 注記：鉄1 材質：鉄製品 器種：刀子 残存：完形 法量：長15.5、重量13.3g

5 出土位置：3土坑 注記：P1 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部10%、胴部上半30%、胴部下半10% 法量：口径（22.3）色調：明褐色。胴部外面煤けて黒色～暗褐色。胴部内面汚染により暗色化。胎土：礫（白少、白透少、灰少）技法等：口縁部ヨコナデ。外面胴部縦方向ヘラ削り→胴部下端横方向ヘラ削り。内面胴部縦方向ヘラナデ。外面胴上部に粘土紐接合痕残る。

6 出土位置：3土坑 注記：SK3 材質：甕 残存：口縁部15% 法量：



0 10cm (縮尺1/4)



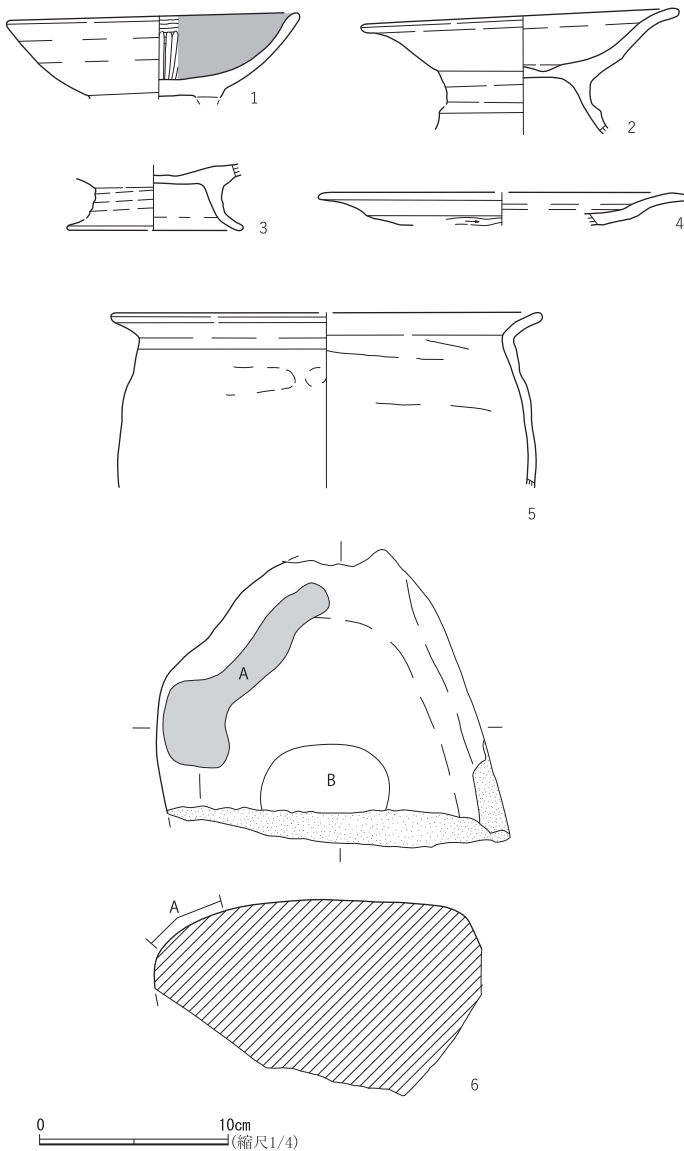
第93図 市毛遺跡第6次調査区第4号土坑出土遺物

口径（19.8）色調：明褐色 胎土：礫（灰）技法等：胴部外面縦方向ヘラ削り。胴部内面縦方向ヘラナデ。

7 出土位置：3土坑 注記：S1 材質：石 残存：27.0×12.6、重量1883g 色調：暗灰色、暗橙褐色 特徴：平滑面が荒れており、台石として用いられたか。備考：「石英質中粒砂岩。層状。弱い葉理。砂粒の淘汰やや悪い、円磨やや悪い。砂粒（石英、チャート、長石、白雲母）。固結良い。全体が被熱による強い赤褐色変質。外形は自然礫（垂円礫）の一部。熱によるハゼがみられる。」（矢野徳也氏による）

第4号土坑

第4号土坑は長軸3.4mを測る不整形の土坑である。2号住居跡と重複し、新旧関係は2住→4土坑となる。遺構確認面からの深さは0.6mを測り床面は平坦である。壁はオーバーハング状を呈する。覆土は下層が人為的埋土の可能性あるロームブロックを含む黄茶褐色・茶褐色土となる。遺物は土師器小皿、須恵器有台杯、釘、磨製石斧、砥石が出土している。小皿の年代が土坑の年代



第94図 市毛遺跡第6次調査区第5号土坑出土遺物

と思われ、10世紀第4四半期頃と思われる。なお当土坑覆土中より、第93図の写真のような、こぶし大の礫が複数出土しており、8が流紋岩、9が石英斑岩のほかは全てデイスaitである（石材鑑定は矢野徳也氏による）。

遺物説明

第93図

- 1 出土位置：4土坑 注記：P1 材質：土師器 器種：杯 残存：底部40%、体部30% 法量：口径(115.5)、器高3.0、底径(6.1) 色調：外面明褐色、内面黒色 胎土：礫(褐少)、砂(灰少) 技法等：回転ヘラ切り。内面ヘラミガキ(底1方向)・黒色処理。
- 2 出土位置：4土坑 注記：1区、2区 材質：土師器 器種：杯 残存：底部35%、体部30% 法量：口径(11.2)、器高3.2、底径(7.6) 色調：外面明褐色、内面黒色 胎土：— 技法等：回転糸切り。内面ヘラミガキ、黒色処理。
- 3 出土位置：4土坑 注記：2区 材質：須恵器 器種：有台杯 残存：底部(高台50%欠失) 法量：高台径9.2 色調：赤灰色 胎土：礫(白、

灰少、透少) 技法等：底部外面回転ヘラ削り後、浅いヘラ記号。備考：木葉下座か

4 出土位置：4土坑 注記：1区鉄1 材質：鉄製品 器種：釘 残存：完形 法量：長13.0、重量31.9g 技法等：頭部が一方につぶれる

5 出土位置：4土坑 注記：2区 材質：石 器種：磨製石斧 残存：1辺を欠失 法量：2.7×2.5×0.7、重量11.1g 色調：黒灰色 技法等：表面が磨かれている。備考：「角閃石片岩。片状。微細な縞状構造。細粒。へき開弱い。暗緑色。角閃石、長石、石英。」(矢野徳也氏による)

6 出土位置：4土坑 注記：— 材質：石 器種：砥石? 残存：完形 法量：10.1×4.7×6.0、重量370.7g 色調：暗青灰色 特徴：砥面A・Bがみられる。Aは窪んでおり、Bは平坦である。備考：「董青石ホルンフェルス。塊状、層理あり。白雲母、黒雲母、董青石、長石、石英。董青石の斑状変晶が目立つ。外形は自然礫。」(矢野徳也氏による)

第5号土坑

第5号土坑は形状不明の土坑である。西壁が直線状を呈することや、試掘調査時の遺構プラン(3次8T土坑3)が方形を呈していたことから、方形の土坑になるものと思われる。遺構確認面からの深さは0.4mを測り床面は平坦である。覆土はロームブロックを含む土層や粘土の焼土の混合土層などが薄い層状に堆積しており、数度にわたる埋め戻しにより土坑は埋没したようである。遺物は土師器椀・甕、台石などが出土している。

遺物説明

第94図

- 1 出土位置：5土坑 注記：P6 材質：土師器 器種：椀 残存：体部15%欠、高台欠 法量：口径15.2 色調：外面褐色・口縁部黒色、内面黒色 胎土：礫(白少、灰少)、砂(白) 技法等：高台剥離面に回転糸切痕。内面ヘラミガキ(底放射状)・黒色処理。口縁部内面・底部内面やや摩滅。
- 2 出土位置：5土坑 注記：P3 材質：土師器 器種：椀 残存：口縁部20%欠、高台下半欠 法量：口径16.2 色調：褐色、黒褐色 胎土：礫(白少、灰少) 技法等：内面や口縁部に摩滅はみられない。
- 3 出土位置：5土坑 注記：P5 材質：土師器 器種：椀 残存：底部(高台下半60%欠) 法量：高台径(8.9) 色調：明褐色、暗灰褐色 胎土：— 技法等：体部打割調整か
- 4 出土位置：5土坑 注記：— 材質：土師器 器種：高盤か 残存：口縁部15% 法量：口径(18.8) 色調：明褐色、橙色 胎土：礫(灰少、白少) 技法等：外面底部外周手持ちヘラ削り。
- 5 出土位置：5土坑 注記：— 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部20% 法量：口径(22.2) 色調：暗褐色、黒褐色 胎土：礫(白透少)、砂(高温型石英多) 技法等：口縁部ヨコナデ。胴部外面ナデ。胴部内面横方向ナデ。
- 6 出土位置：5土坑 注記：S1 材質：砂岩 器種：台石 残存：大きく欠失 法量：重量3746g 色調：灰色、灰褐色 特徴：浅い敲打痕Aがみられる。光沢面Bがみられる。火を受けているか。備考：「アルコース質中粒砂岩。塊状。砂粒の淘汰やや悪い、円磨やや悪い。砂粒(石英、長石、白雲母、頁岩、チャート)※鏡下観察不能。固結良い。全体が被熱による強い赤褐色変質。熱によるハゼ、割れがみられる。外形は自然

礫（垂門礫）の一部。」（矢野徳也氏による）

(3) 第7次調査区

A. 住居跡

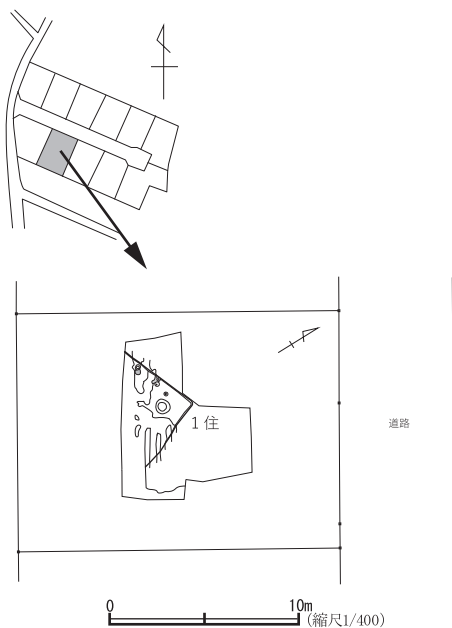
第1号住居跡

遺構 第1号住居跡は住居跡北東隅部のみ調査であり、床面近くまで削られてしまっていた。主軸方向はN-23° -Wを測る。残存部壁高は東壁0.1 m、北壁0.3 mを測る。壁周溝は認められない。ピットの深さはP1：65cm、P2：10cm、P3：22cm、P4：18cmである。P1は支柱穴、P2・3は竈脇ピットと考えられるが、P4は住居跡との関係は不明である。床面は攪乱は多く入るため不明瞭であるが、隅部を除く部分が硬化していたようである。竈は遺存状況が悪く、北壁に白色粘土と焼土が若干遺存する程度であった。土師器杯破片（1）が竈付近床面から出土している。

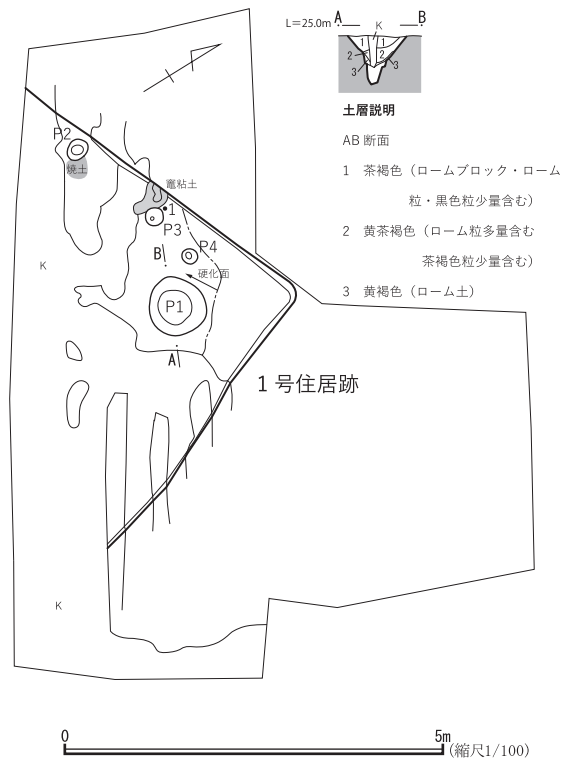
遺物説明

第97図

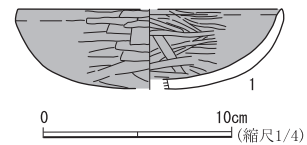
1 台帳：1住P1、1住 材質：土師器 器種：杯 残存：30% 法量：口径（14.0）、器高（4.3） 色調：内外面ともにぶい黄褐～暗褐色 胎土：礫（白微）、砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁～体部中位へラ削り後へラミガキ、下位へラ削り。内面へラミガキ。内外面とも黒色処理？ 使用痕：口縁端部が摩滅している 備考：—



第95図 市毛遺跡第7次調査区の位置



第96図 市毛遺跡第7次調査区第1号住居跡



第97図 市毛遺跡第7次調査区第1号住居跡出土遺物

4 市毛遺跡第8次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛字上坪 1110 番 8 期間 / 令和 4 年 7 月 7 日～8 月 3 日 担当 / 田中美零, 佐々木義則 面積 / 48 m² 時代 / 縄文・古墳～平安時代 遺構 / 土坑 2 基 (近世), 焼土遺構 1 基 (近世以後), ピット 1 基 (近世)

調査地は, 那珂川から北方に入り込む浅い谷の東側台地上に位置し, 平坦な地形を呈する。調査時はすでに土盛りが施された宅地となっていた。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり, 宅地部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 2～4 次調査) がなされているが, 遺構番号は今回の本調査において新たに付け直した。(25 住→1・2 土坑, 1 住→1 焼土遺構) 以下, 簡単に調査の経過を記す。

7 月 7 日: 調査区設定。7 月 8 日: 重機による表土除去。遺構確認, 掘り込み開始。7 月 12 日: 図面作成開始。

7 月 29 日: 調査終了。8 月 1 日: 重機による埋め戻し。

8 月 3 日: 現場撤収。



第 98 図 市毛遺跡の調査地点 (数字は調査次数)

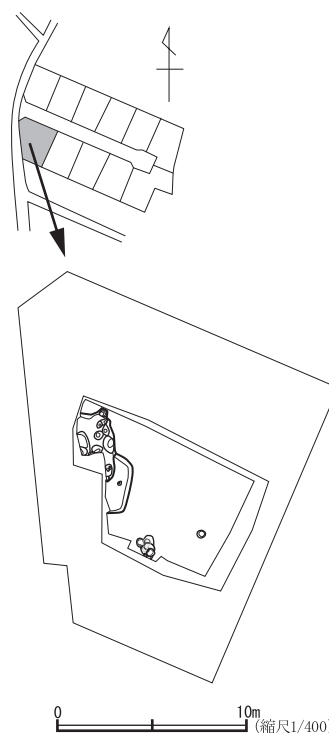
(2) 土坑

第 1 号土坑

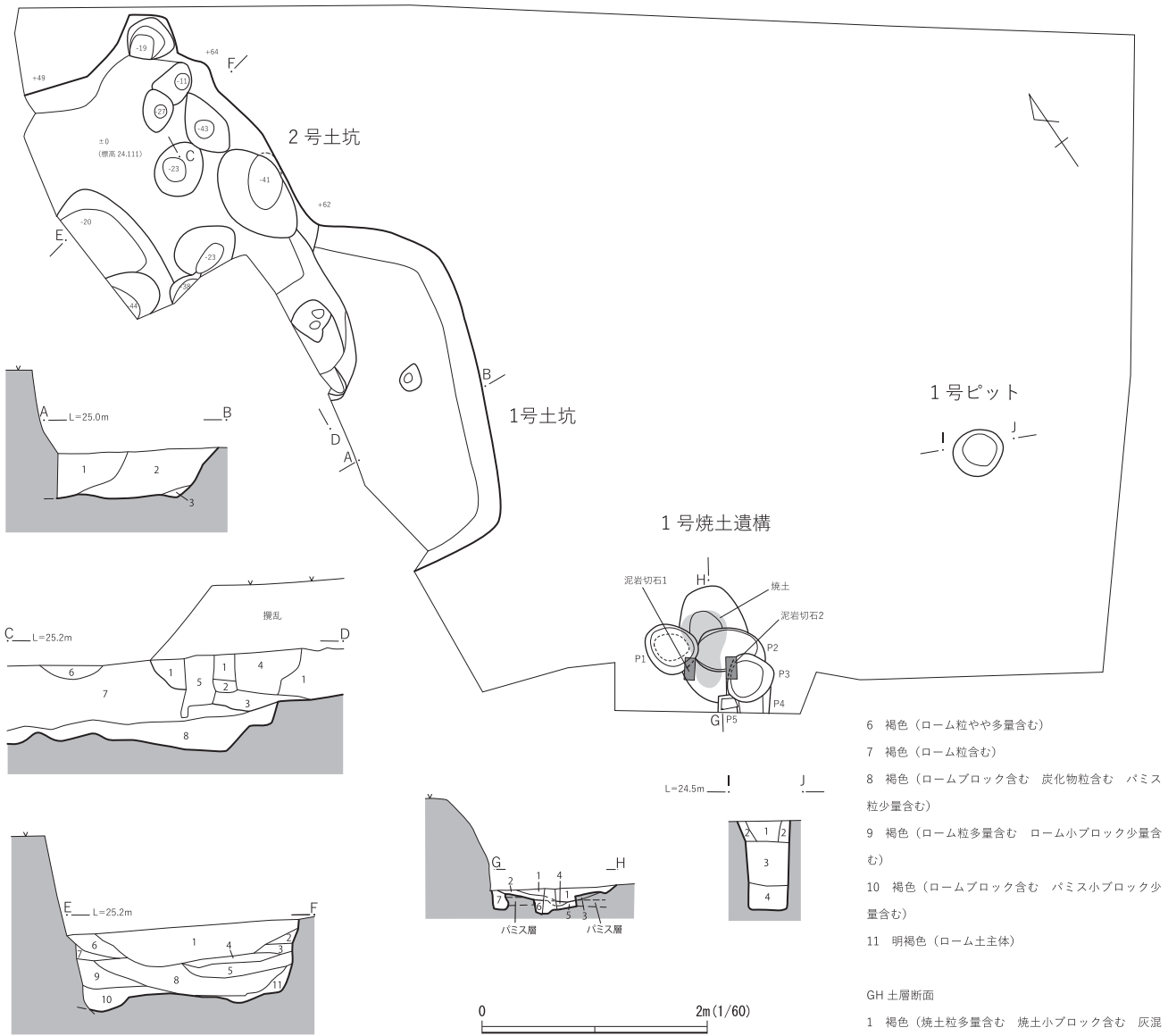
遺構 床面はほぼ平坦であるが硬化面は認められなかった。土坑全体の形状は部分的な調査のため不明であるが, 隅丸形状となる可能性がある。南北長は 3.1 m, 深さは 0.5 m ほどを測る。時期を決定できる遺物はないが, 近世の 2 号土坑に掘り込まれていることからみて近世以後に位置づけられる。

第 2 号土坑

遺構 床面は凹凸が激しく多くの大小のピットが掘り込まれていた。ピットは深いもので土坑床面から 40 cm ほど掘り込んでおり, 壁面をえぐるように掘り込むものもみられる。土坑全体の形状は部分的な調査のため不明であるが, 不整形形状となる可能性がある。南北長は 3.6 m ほど, 床面の深さは 0.6 m ほどを測る。覆土から出土した寛永通宝 (古寛永) やかわらけからみて近世に位置づけられる。かわらけは推定口径 5.9cm を測り, 水戸市八幡宮修理工事報告書の編年 (関口慶久 2011「五かわらけ編年」『八幡宮拜殿及び幣殿保存修理工事報告書』) によると 17 世紀前半頃に位置づけられると思われるので, 第 2 号土坑もその頃に掘削されたものと推定される。床面の凹凸の状況などは粘土採掘坑の状況によく似ており, パミス層下部の粘性のあるローム土の採取



第 99 図 市毛遺跡第 8 次調査区的位置



土層説明

AB 土層断面

- 1 褐色（ローム粒多量含む ロームブロック含む パミスブロック少量含む）
- 2 褐色（ロームブロック・パミスブロック多量含む）
- 3 明褐色（ローム粒多量含む）

CD 土層断面

- 1 褐色（パミス・ローム小ブロック多量含むロームブロック・パミスブロック含む）
- 2 明褐色（ロームブロック多量含む パミス小ブロック含む）
- 3 褐色（ローム・パミス小ブロック多量含む）

- 4 褐色（パミス小ブロック少量含む ローム粒やや多量含む）
- 5 褐色（ローム粒含む 暗褐色土混じる）
- 6 明褐色（ローム土混じる）
- 7 褐色（ローム小ブロック含む）
- 8 明褐色（ローム粒多量含む）

EF 土層断面

- 1 褐色（ローム粒含む ロームブロック少量含む）
- 2 明褐色（ローム土混じる）
- 3 褐色
- 4 明褐色（ローム土混じる パミス小ブロック少量含む）
- 5 褐色（ローム粒少量含む 炭化物粒少量含む）

- 6 褐色（ローム粒やや多量含む）
- 7 褐色（ローム粒含む）
- 8 褐色（ロームブロック含む 炭化物粒含む パミス粒少量含む）
- 9 褐色（ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む）
- 10 褐色（ロームブロック含む パミス小ブロック少量含む）
- 11 明褐色（ローム土主体）

GH 土層断面

- 1 褐色（焼土粒多量含む 焼土小ブロック含む 灰混じる）
- 2 黒褐色（ローム粒含む）
- 3 明褐色（焼土（ローム土が焼けたもの）
- 4 明褐色（ローム粒多量含む）
- 5 暗褐色（ローム粒含む パミス粒含む）
- 6 暗褐色
- 7 黒褐色（ローム粒含む）

IJ 土層断面

- 1 褐色（ローム粒多量含む）
- 2 明褐色（ローム小ブロック多量含む）
- 3 暗褐色（ローム粒多量含む）
- 4 明褐色（ローム粒非常に多量含む パミス粒含む）

第 100 図 市毛遺跡第 8 次調査区

を目的とした土坑の可能性はある。そうしたローム土の用途としては住宅壁材などが考えられるが、文献からの検討が必要であろう。

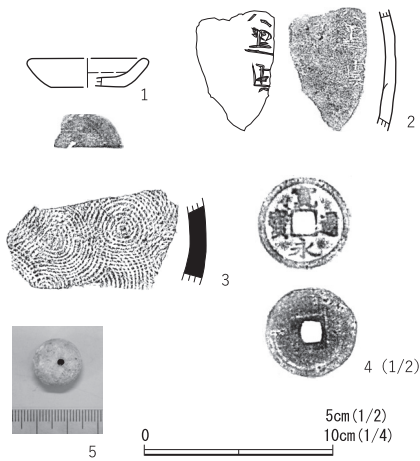
遺物説明

第 101 図

1 出土位置：2号土坑 材質：土師器 器種：小皿 残存：底部 40%，

体部 25% 法量：口径（5.9），器高 1.5，底径（4.0）色調：橙色 胎土：砂（透少）特徴：回転糸切り（表面が溶けて不明瞭）

2 出土位置：2号土坑 材質：土師器 器種：甕 残存：胴部片 法量：— 色調：外面褐色・黒色，内面明褐色・褐色 胎土：砂（白透多，白少），白雲母多 特徴：外面の一部に煤が付着し内面の一部が汚染されることから，肩部付近の破片とみられる。外面に焼成前刻書「口黒口（臣カ）」がある。備考：新治窯付近産（常陸型甕）か



第 101 図 市毛遺跡第 8 次調査区第 2 号土坑出土遺物

3 出土位置：2号土坑 材質：須恵器 器種：甕か 残存：胴部片 法量：— 色調：灰色 胎土：礫（白透），砂（白透多，白） 特徴：外面同心円文叩き。内面横方向ナデ。

4 出土位置：2号土坑 材質：銅 種類：銭貨（寛永通宝） 残存：完形 法量：縦径 24.0，横径 24.0，銭厚 0.8，重量 3.19g 備考：古寛永

5 出土位置：2号土坑 材質：鉛か 種類：不明 残存：完形 法量：径 1.6，重量 18.5g

(3) 焼土遺構

第 1 号焼土遺構

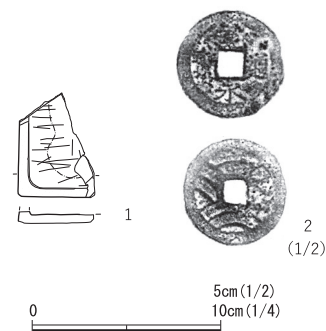
遺構 5 基の大小のピット埋没後，同地点の最上部を浅く掘り込み土坑を形成している。土坑底面はよく焼けて橙色を呈する。焼土遺構には 2 つの泥岩切石が 25 cm ほどの間をあけて配置されていた。焼土遺構下部のピットは 5 基認められた。P3 の覆土中より寛永通宝が，P2 の覆土中より石硯が出土していることから，このピット群は近世に位置づけられる。したがって焼土遺構は近世以後に位置づけられよう。焼土遺構からは時期を決められる遺物が出土していないためこれ以上時期を限定することはできなかつた。なお焼土遺構の土を洗浄したところ，若干の貝類の破片が検出されている。

遺物説明

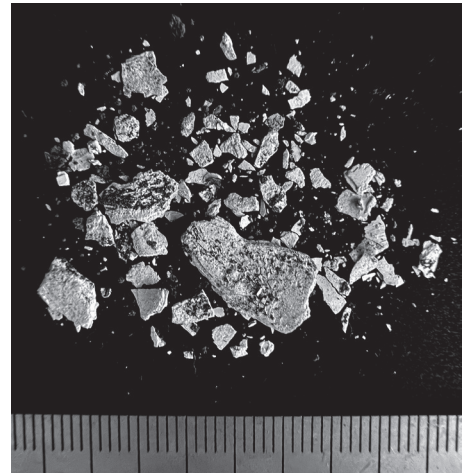
第 102 図

1 出土位置：1号焼土遺構下部ピット 2 材質：石 器種：硯 色調：暗灰色 特徴：磨墨面摩滅 備考：粘板岩。微弱な片理。碎屑粒：白雲母，黒雲母，丸形のは放散虫化石か。微細な粒子からなる部分は白雲母・緑泥石を生じている。粘土から再結晶。（以上，矢野徳也氏による）

2 出土位置：1号焼土遺構下部ピット 3 材質：銅 種類：銭貨（寛永通宝） 残存：完形 法量：縦径 28.3，横径 27.9，銭厚 1.1，重量 4.60g 備考：四文銭（1768 年以後）



第 102 図 市毛遺跡第 8 次調査区第 1 号焼土遺構出土遺物



第 103 図 市毛遺跡第 8 次調査区第 1 号焼土遺構出土貝類破片

(4) ピット

第 1 号ピット

遺構 調査区の東側より径 0.4 m ほどを測るピットが 1 基検出された。確認面からの深さが 0.8 m ほどあり，旧地表面からだとおそらく 2 m 以上の深さをもつピットになるだろうと思われる。底面は硬化することから柱が建てられていたことは間違いなくと思われる。深い柱穴は立てられた柱の高さが相当高いことを反映するものとするならば，そのような長大な柱の用途としてはハタタテ（幟立て）（『勝田市史民俗編』P686）なども候補として挙げられよう。

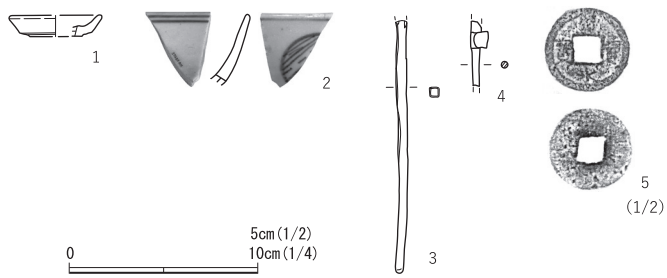
遺物説明

第 104 図

1 出土位置：ピット 1 材質：土師器 器種：小皿 残存：40% 法量：口径（4.7），器高 1.1，底径（3.8） 色調：明褐色 胎土：粉質

2 出土位置：ピット 1 材質：磁器 器種：碗 残存：体部 法量：— 特徴：外面は口縁部に一本圈線を廻らし，その下に文様を描く。備考：肥前産

3 出土位置：ピット 1 注記：— 材質：銅 器種：簪（かんざし）か 残存：足部 法量：残存長 13.3，重量 7.2g 特徴：銅板を四角に折り



第104図 市毛遺跡第8次調査区第1号ピット出土遺物

曲げて足をつくっている。表面に渡金の跡が残る。

4 出土位置：ピット1 注記：— 材質：鉄，木 器種：不明 残存：—
— 法量：残存長3.4，重量1.9g 特徴：太さが次第に細くなる棒状の鉄の一部に錆化した木材が残る。同じピットから出土した簪（かんざし）の部材か。

5 出土位置：ピット1 材質：銅 種類：銭貨（寛永通宝） 残存：完形 法量：縦径22.0，横径22.0，銭厚0.7，重量1.80g



1 松原遺跡第9次調査区



2 岡田遺跡第39次調査区



3 大平A遺跡第7次調査区



4 畠ノ原遺跡第4次調査区



5 磯合古墳群第7次調査区



6 磯合古墳群第8次調査区



7 内手遺跡第4次調査区



8 大房地遺跡第20次調査区



9 柴田遺跡第6次調査区



10 柴田遺跡第7次調査区



11 柴田遺跡第8次調査区

図版2 試掘調査(2)



12 柴田遺跡第9次調査区



13 向坪遺跡第7次調査区



14 東中根清水遺跡第6次調査区



15 小谷金遺跡第1次調査区



16 君ヶ台遺跡第15次調査区



17 雷土A遺跡第1次・外野開拓古墳群第1次調査区



18 堀口遺跡第39次調査区(第1・2トレンチ)



19 堀口遺跡第39次調査区(第3・4トレンチ)



20 津田若宮遺跡第12次調査区



21 津田若宮遺跡第13次調査区



22 津田若宮遺跡第14次調査区



23 津田若宮遺跡第15次調査区



24 市毛遺跡第9次調査区



25 上馬場遺跡第8次調査区



26 地蔵根遺跡第8次調査区



27 老ノ塚遺跡第3次・老ノ塚古墳群第3次調査区



28 遠原遺跡第6次・遠原貝塚第6次調査区



29 浅井内遺跡第5次調査区

図版4 本調査(1)



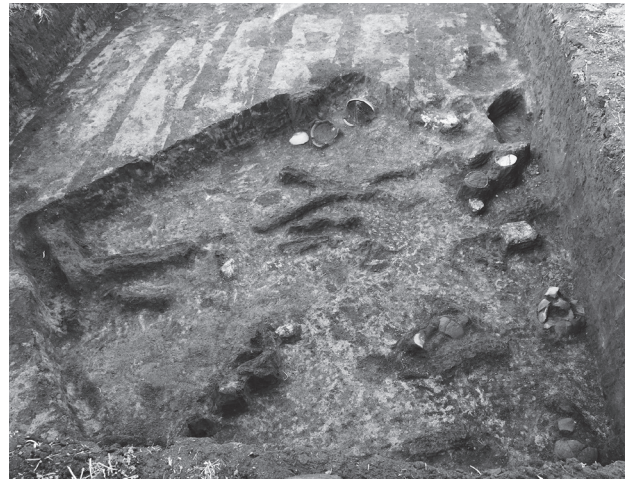
30 地藏根遺跡第7次・勝倉台館跡第3次調査区



34 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡



31 高野富士山遺跡第18次調査区



35 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡炭化材出土状況



32 高野富士山遺跡第18次調査区1トレンチ



36 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡竈遺物出土状況(1)



33 高野富士山遺跡第18次調査区2トレンチ



37 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡竈遺物出土状況(2)



38 高野富士山遺跡第18次調査区第1号住居跡竈支脚出土状況



42 高野富士山遺跡第19次調査区第2号住居跡



39 高野富士山遺跡第19次調査区



43 市毛遺跡第6次調査区



40 高野富士山遺跡第19次調査区第1号住居跡



44 市毛遺跡第6次調査区第2号住居跡

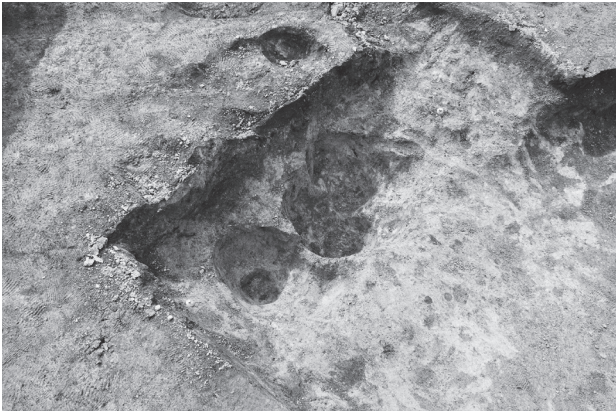


41 高野富士山遺跡第19次調査区第1号住居跡遺物出土状況



45 市毛遺跡第6次調査区第2号住居跡ピット1

図版6 本調査(3)



46 市毛遺跡第6次調査区第2号住居跡ピット2



50 市毛遺跡第6次調査区第3号土坑



47 市毛遺跡第6次調査区第3号住居跡



51 市毛遺跡第6次調査区第4号土坑



48 市毛遺跡第6次調査区第1号土坑



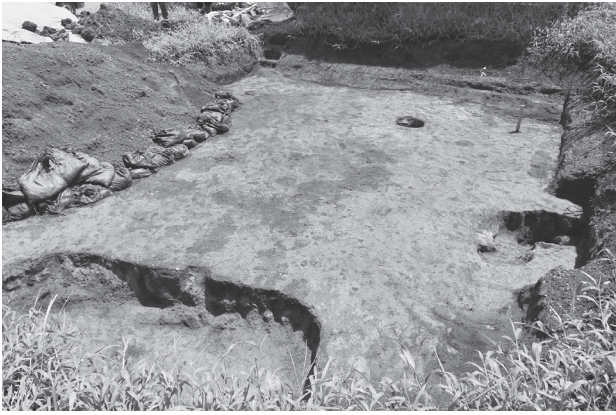
52 市毛遺跡第7次調査区



49 市毛遺跡第6次調査区第2号土坑



53 市毛遺跡第7次調査区第1号住居跡



54 市毛遺跡第8次調査区



58 市毛遺跡第8次調査区第2号土坑



55 市毛遺跡第8次調査区竈状遺構



56 市毛遺跡第8次調査区竈状遺構下部ビット



57 市毛遺跡第8次調査区第1号土坑

報告書抄録

フリガナ	レイワヨネンドヒタチナカシナイイセキハックツツヨウサホウコクシヨ
書名	令和4年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
編集者名	佐々木義則
著者名	稲田健一, 田中美零, 佐々木義則
編集機関	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根 3499 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
発行機関	ひたちなか市教育委員会
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市東石川 2丁目 10番 1号
発行年	2023年3月24日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	遺跡番号						
ジゾウネ 地蔵根 カツラダイヤカタアト 勝倉台館跡	ひたちなか市 勝倉	08221	119 123	36° 22' 36"	140° 31' 46"	23.3m	202201	4 m ²	7次調査 3次調査
マツバラ 松原	ひたちなか市 田彦	08221	037	36° 24' 38"	140° 30' 53"	27.4m	202201	195 m ²	9次調査
オカダ 岡田	ひたちなか市 三反田	08221	039	36° 22' 8"	140° 32' 28"	21.8m	202201 ~ 202202	150 m ²	39次調査
オオダイラエー 大平A	ひたちなか市 大平	08221	121	36° 22' 49"	140° 32' 22"	22.0m	202201	35 m ²	7次調査
ハタノハラ 品ノ原	ひたちなか市 金上	08221	117	36° 22' 27"	140° 32' 20"	21.9m	202202	99 m ²	4次調査
コウヤフジヤマ 高野富士山	ひたちなか市 高野	08221	062	36° 25' 44"	140° 33' 12"	31.6m	202202 ~ 202203	32 m ²	18次調査
				36° 25' 45"	140° 33' 12"	31.7m	202202 ~ 202203	18 m ²	19次調査
イソアイコフンゲン 磯合古墳群	ひたちなか市 磯崎町	08221	241	36° 22' 38"	140° 37' 24"	23.9m	202202	111 m ²	7次調査
				36° 22' 39"	140° 37' 20"	24.2m	202205	28 m ²	8次調査
ウチデ 内手	ひたちなか市 三反田	08221	110	36° 22' 12"	140° 32' 52"	21.1m	202203	288 m ²	4次調査
オオボウチ 大房地	ひたちなか市 勝倉	08221	054	36° 22' 29"	140° 32' 8"	21.8m	202203	42 m ²	20次調査
シバタ 柴田	ひたちなか市 中根	08221	101	36° 23' 2"	140° 32' 55"	22.4m	202204	13 m ²	6次調査
				36° 23' 1"	140° 32' 53"	22.7m	202206	27 m ²	7次調査
				36° 23' 1"	140° 32' 51"	22.5m	202206	27 m ²	8次調査
				36° 23' 2"	140° 32' 55"	22.5m	202207	37 m ²	9次調査
イチゲ 市毛	ひたちなか市 市毛	08221	005	36° 23' 42"	140° 30' 12"	26.0m	202204 ~ 202205	54 m ²	6次調査
				36° 23' 41"	140° 30' 11"	26.0m	202204 ~ 202205	41 m ²	7次調査
				36° 23' 42"	140° 30' 11"	24.7m	202207 ~ 202208	48 m ²	8次調査
				36° 23' 43"	140° 30' 10"	25.7m	202208 ~ 202209	74 m ²	9次調査
ムカイツボ 向坪	ひたちなか市 堀口	08221	129	36° 23' 25"	140° 30' 53"	25.3m	202205	143 m ²	7次調査
ヒガシナカネシミズ 東中根清水	ひたちなか市 中根	08221	010	36° 22' 36"	140° 35' 33"	20.3m	202205	31 m ²	6次調査
コヤガネ 小谷金	ひたちなか市 小谷金	08221	202	36° 21' 35"	140° 35' 1"	15.5m	202205	10 m ²	1次調査
キミガダイ 君ヶ台	ひたちなか市 中根	08221	011	36° 23' 7"	140° 33' 46"	21.1m	202207	28 m ²	15次調査
イカツチエー 富士A ソトノカイタクコフンゲン 外野開拓古墳群	ひたちなか市 東石川	08221	164 042	36° 24' 45"	140° 31' 25"	29.5m	202207	33 m ²	1次調査 1次調査
ホリグチ 堀口	ひたちなか市 堀口	08221	004	36° 23' 23"	140° 30' 34"	25.8m	202208	28 m ²	39次調査
ツダワカミヤ 津田若宮	ひたちなか市 津田	08221	135	36° 24' 7"	140° 29' 12"	25.6m	202208	32 m ²	12次調査
				36° 24' 13"	140° 29' 13"	25.8m	202208	54 m ²	13次調査
				36° 24' 7"	140° 29' 13"	25.6m	202211	41 m ²	14次調査
				36° 24' 7"	140° 29' 13"	25.6m	202211	35 m ²	15次調査
カミババ 上馬場	ひたちなか市 津田	08221	053	36° 23' 59"	140° 29' 46"	28.2m	202209	39 m ²	8次調査
ジゾウネ 地蔵根	ひたちなか市 勝倉	08221	119	36° 22' 40"	140° 31' 52"	22.1m	202210	106 m ²	8次調査
オイノヅカ 老ノ塚 オイノヅカコフンゲン 老ノ塚古墳群	ひたちなか市 稲田	08221	066 027	36° 26' 25"	140° 32' 8"	32.3m	202210 ~ 202211	244 m ²	3次調査 3次調査
トオバラ 遠原 トオバラカイヅカ 遠原貝塚	ひたちなか市 金上	08221	034 285	36° 22' 40"	140° 32' 33"	12.7m	202212	52 m ²	6次調査 6次調査
アサイナイ 浅井内	ひたちなか市 浅井内	08221	039	36° 21' 0"	140° 36' 01"	24.3m	202212	47 m ²	5次調査

令和4年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

令和5(2023)年3月24日発行

編集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発行 ひたちなか市教育委員会

〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川 2-10-1

TEL029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL029-276-8311

印刷 有限会社 豊印刷

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島 1丁目 20-8



再生紙及び植物油インクを
使用しています。